

十二年五月十八日及び二十三日ノ布告ニ因リ變更セシ所ナシ又其百五十人ノ各分遣隊ハ中佐一名 大尉一名 中尉一名 一等軍曹四名 二等軍曹八名 憲兵卒百三十三名ヲ以テ編成セリ

千七百九十二年八月十八日ノ布告ハ巴里ノ憲兵士官ヲ解任シ憲兵卒ヲシテ其隊長ノ撰拔ヲ許可セリ

千七百九十二年八月二十六日及び二十七日ノ布告ニ由リ直チニ各屯伍ヲ集合シテ軍隊ヲ増加シ其集合場ハ陸軍大臣之ヲ指定セリ州廳ハ更ニ補充兵ヲ徵集シ以テ國境出張ノ憲兵ヲ補充ス又其新設ノ憲兵ハ乘馬ト徒歩トヲ問ハズ凡テ故參憲兵ト全様ノ給料ヲ受ケ且其特典ニ預リタリ

共和曆第二年六月四日(千七百九十四年六月二十二日)ノ布告ヲ以テモンテリ  
 一ブル州ノ憲兵隊ヲ編成シテ之ヲ第十六分隊ニ合シ更ニ之ヲチーレン州ノ中隊ニ編入セリ又共和曆第三年四月六日(千七百九十四年十二月二十六日)ノ布告夫以テ第一分隊ニ新設屯伍四十個ヲ増加セリ

共和曆第五年二月二十五日(千七百九十七年二月十三日)ノ法令ヲ以テ内地ノ

乘馬憲兵ヲ解隊シ更ニ左ノ規則ニ準シテ之ヲ改設セリ即チ總員八千四百七十五人ニシテ内監察官分隊長二十五名(旅團長相當官)大隊長五十名 中隊長大尉百名 中尉二百名各中隊ニ一名若クハ二三名) 一等軍曹百名(裁判書記會計書記) 一等軍曹五百名(屯伍三分一)ノ指揮ニ任ス(二等軍曹千名(屯伍三分二)ノ指揮ニ任ス)憲兵卒六千五百名内乘馬兵六千名徒歩兵五百名

以上ノ人員ハ之ヲ二十五分隊ニ部署シ其總數千五百伍及ヒ百中隊ヲ編成ス而シテ各州ニ一中隊ヲ置キ古爾斯ノ分隊トセイヌ州ノ分隊トヲ除クノ外ハ一分隊ヲ以テ四州ヲ管轄セシム但シ古爾斯島ハゴロ及ヒリヤモースノ二州ヨリ成リセイヌハ邊境ノ中隊ヲ合シ三中隊ヲ以テ一分隊ヲ編成ス其各分隊ハ二大隊ヨリ成リ各大隊ハ二中隊而シテ各中隊ハ十二伍以上十八伍以下ヲ以テ編成ス各伍ハ乘馬憲兵卒五名若クハ七名(内徒歩二名)ヨリ成リ而シテ各中隊ニ喇叭卒一名ヲ置キ之ヲ首府ノ屯伍ニ附屬セシム

憲兵卒ハ乘馬及ヒ徒歩憲兵隊又ハ各兵科ノ師團兵ニ在テ兵役ニ服シ且讀書ヲ能クシ年齡三十年以上(出戰負傷ノモノハ二十五年)ニシテ品行方正ノ證書

ナ有シ其身長ハ一米突七十二即チ五尺三寸六分ナルヲ要ス士官ハ憲兵隊若クハ他兵科ヨリ之ヲ撰拔ス然レモ其他兵科ニ屬スルモノハ在職六年以上ニアラサレハ憲兵分隊長若クハ大隊長タルヲ得ス又憲兵大尉ハ團師兵ノ大尉ニシテ在職四年以上(官等ハ下級ナルモ可ナリ)ヲ要シ中少尉ハ其官等ノ外尙ホ士官又ハ下士官ニテ四年以上在職セシモノニアラサレハ採用スルヲ許サス而シテ其計年ノ法革命間ノ六ヶ月ハ之ヲ一ケ年ニ算ス但シ千七百八十九年七月十四日以後免官又ハ退職セシモノハ此例ニアラス憲兵下士ハ之ヲ憲兵又ハ他兵科ノ下士官中ヨリ拔擢シ二等軍曹ハ憲兵二等軍曹又ハ師團兵ノ一等軍曹ヨリ擢拔セリ

共和曆第五年六月三日(千七百九十七年二月二十一日)ノ法令ヲ以テ憲兵士官採用ニ關シ五月二十五日ノ布告ヲ實施シ師團兵ヨリ憲兵ニ轉任スヘキ士官ハ相當ノ官等タルヲ要ス然レモ其候補者ニシテ既ニ例規ニ合格シ且制規ノ年數間士官タルニ於テハ直チニ其官等ニ就クヲ得ヘシ

共和曆第五年七月七日(千七百九十七年三月二十七日)ノ法令ヲ以テ更ニ憲兵採用規則ヲ發布シ憲兵缺員ノ一部ハ他兵科ヲ以テ補缺スルトナシ且各官ノ進級令ヲ制定セリ其第一章第十條ハ既ニ千七百九十一年二月十六日ノ法令ヲ以テ布告セシ如ク憲兵一等軍曹二等軍曹及ビ兵卒ハ其騎兵科ニ於テ直ニ上級ナル官等ニ準シ第四章第五條ハ隊附憲兵ハ憲兵實員ノ確定セラルマデハ依然之ヲ其隊ニ存シタリ

共和曆第四年十月二十二日(千七百九十六年七月十日)ノ決議ニヨリ革命政府ハ憲兵二百伍ヲ編成シ千七百九十三年以來佛領ニ歸セシ左ノ諸州ニ之ヲ部署ス

共和曆第四年一月九日(千七百九十五年十月一日)ノ布告第七條ニ由リ憲兵ヲ配置セシ諸國ハ左ノ如シ

「ザール」エスカウ「リース」シヤンマッブ「フォレー」サンブルエムーズ「ウールト」  
「ムーゾアン」フェリキール「ゾーチート」ノ九州ヲ作り其首府ヲ「ブリユセル」ガ  
ン「ブリユエリシユ」モン「リュクザンブール」ナミユール「リエーシユ」ヌーストリッ  
ク「アンウエル」トナス

共和曆第六年二月二十二日(千七百九十七年十一月十二日)ノ法令ヲ以テ憲兵二百伍ヲ設置シ之ヲ共和曆第五年五月二十五日ノ法令ニ據テ編成セリ此五月二十五日ノ法令ハ憲兵隊ノ用法ヲ制定シ「ロームエロアール」州ヲ分テ「ローム」「ロアール」ノ二州トシ之ニ必要ノ憲兵ト「レマン」「モンブラン」「アルプマリチー」諸州ノ憲兵トヲ設置ス以上ノ諸州ハ「ジュネーヴ」「シヤンペリー」及ビ「ニース」ヲ以テ首府トセリ

共和曆第六年三月十六日(千七百九十七年十二月六日)ノ法令ヲ以テ古爾斯島ノ憲兵隊ヲ解散シ更ニ之ヲ左ノ如ク改設セリ即チ一分隊ハ二大隊ヲ以テ編成シ各州ニ一大隊ヲ置キ一大隊ハ三中隊ヲ以テ編成シ各中隊ハ十八伍ヨリ成リ一伍ハ乘馬兵二名徒歩兵十六名ヲ以テ編成セリ  
 實員ノ編成○分隊長一名 大隊長二名 大尉六名 中尉十八名 以上ハ乘馬トス徒歩曹長(會計書記及ビ裁判書記)六名 一等軍曹二十四名(内乘馬六名徒歩十八名) 二等軍曹八十四名(内乘馬六名徒歩七十八名)憲兵卒四百三十二名(内乘馬四十八名徒歩三百八十四名)總員五百七十三名

憲兵ノ諸官ハ之ヲ諸兵科ヨリ採用セリ

共和曆第六年七月二十八日ノ法令ハ同第五年五月二十五日ノ法令ニ少シク改正ヲ加ヘ且其兵員八千四百七十五人ヲ一萬五千七百七十五人ニ増加シ各州ニ一中隊ノ割合ヲ以テ四中隊ノ分隊二十五隊(五十大隊及ヒ二千伍)ヲ編成セリ又古爾斯ノ分隊ヲ以テ第二十五分隊トシ之ヲ(ゴロ)及ヒ(リヤモリス)ノ二州ニ設置セリ

中尉ノ定員ヲ増加シテ三百人トシ各中隊ニ二名ヨリ四名マテ附シテ二等軍曹ヲ千五百人ニ増加シ屯伍中一等軍曹ヲ以テ指揮スルモノヲ僅カニ其四分一ニ過キス憲兵卒ハ八千人内百人ハ喇叭手ナリ各中隊ニ憲兵旗ヲ備ヘ曹長ヲ以テ旗手トス

憲兵ノ採用法ハ從前ニ異ナル所ナシ但憲兵卒ノ年齢ヲ二十五年以内トシ其身長ヲ一米突七十三即チ五尺四寸ト定メ假令ヘ讀書ヲ能クセサルモ各伍ニ一名ハ之ヲ採用セリ一等軍曹ハ之ヲ憲兵二等軍曹ヨリ取り二等軍曹ハ憲兵卒ヨリ撰拔ス又騎兵下士ニシテ憲兵一等軍曹ヲ志願スルモノハ其官等ハ曹

長タルヲ要シ士官一等軍曹及ヒ二等軍曹ニシテ其現職官等ヲ以テ新編成  
 加ハラサルモノハ一等軍曹ハ憲兵曹長又ハ二等軍曹ニ二等軍曹ハ憲兵二等  
 軍曹又ハ憲兵卒ニ採用シ憲兵士官ノ缺員ハ現在士官ヲ以テ補缺ス各軍隊ニ  
 附屬セル新編成ノ二等軍曹及ヒ憲兵卒ハ其駐在諸州ニ臨時二等軍曹又ハ憲  
 兵卒ヲ置テ之ニ代ハラシム但シ其附屬中隊中ニ缺員アレハ之ヲ以テ補缺セ  
 シム  
 以上ノ編制ヲ畢リテ後更ニ憲兵採用規則及ヒ進級令ヲ左ノ如ク制定セリ  
 第一 年齢二十五年以上四十年以下タルハキ  
 第二 讀書ニ差支ナキモ  
 第三 革命後出戰三回以上ニ及フモノ但シ一回ハ騎兵科ニ在テ從事シ  
 又平定後乘馬兵役ニ服スルヲ四年以上タルヘキ  
 第四 共和政府ニ對シ誠  
 忠ヲ盡シ軍紀ニ服シ且品行方正ニシテ勇往果敢ノ證明書ヲ所持スルヲ  
 第五 身長一米癸七十三以上タルハキ  
 第六 古爾斯島ノ徒歩憲兵志願者  
 ハ第三項ノ規例ニ合格シ且歩兵科ニ在テ四年以上服役セシモノタルハキ  
 又進級令ニ關シテハ左ノ如ク之ヲ制定セリ凡テ憲兵曹長 一等軍曹 二等

軍曹ハ憲兵隊中ニ於テ其次級ノモノヲ撰拔シテ之ニ任シ中尉ハ缺員四分三  
 ハ之ヲ憲兵下士ニ取り四分一ハ乘馬兵科ノ士官ニシテ在職四年以上及ヒ年  
 齡三十年以上四十五年以下ノモノヲ撰拔シテ之ニ任ス又大尉ノ缺員ハ其分  
 隊ニ附屬セル中尉ヨリ之ヲ取ル其法ハ三分二ヲ停年順序三分一ヲ拔擢トス  
 大隊長ハ二分隊ノ憲兵大尉中ヨリ一半ハ停年順序一半ハ拔擢ヲ以テ叙任ス  
 分隊長ハ諸兵科ノ大隊長ニシテ在職三年以上ノモノヲ取り三分二ハ拔擢三  
 分一ハ停年順序トス二等軍曹ヨリ一等軍曹ニ進級スルモノ一半ハ停年一  
 ハ半ハ拔擢ヲ用ヒ又下士ヨリ中尉ニ進級スルモノハ一半ハ停年順序トシ四分一  
 ハ拔擢トス二等軍曹ヨリ一等軍曹ニ進級スルハ各中隊中ニ於テ之ヲ定メ其  
 他ハ皆ナ分隊中ノ順序ヲ以テ定ム

憲兵分隊長ニシテ旅團長ニ進級セシモノハ既ニ憲兵隊ニ附屬セサルモノト  
 ス

戰時ニ在テハ諸軍ノ兵力ニ應シ憲兵分隊ヨリ適宜ノ分遣隊ヲ編成シテ之ヲ  
 派遣ス但シ其編成ハ革命政府ニ於テ制定セリ斯ノ如ク派遣セラレシ士官下

士憲兵卒ハ軍籍ヲ其駐在本地ニ留メ而シテ既ニ平定セハ直チニ其定位ニ復  
 ス又出戰間ニ進級セシモノハ新官ノ職務ヲ帯ヒテ凱旋ス  
 佛國ノ領地ハ爾後又擴張セシヲ以テ更ニ憲兵隊ヲ新設シ之ヲ第二十五分隊  
 ト稱シ「レン、エ、モゼル」「ロエル」「サール」「モントンチール」ノ四州ヲ管轄シ「コブレ  
 ランツ」「エーラシヤペール」「トレーヴ」「メーヤンヌ」ヲ以テ首府トセリ共和曆第  
 七年十二月二十三日(千七百九十九年九月九日)ノ法令ヲ以テ經費預算額ヲ決  
 定シ該分隊ハ即チ其豫算中ニ含有セリ此ニ於テ憲兵ノ總員ハ一萬千九百四  
 十四人ニ達ス即チ二十五分隊ニ一萬九百二十一人古爾斯島ノ第二十六分  
 隊ニ五百七十三人軍隊附分遣隊ニ四百五十人トス此分遣隊四百五十人ハ即  
 チ大隊長三名 大尉三名 中尉九名 一等軍曹十二名 二等軍曹二十四名  
 憲兵卒及喇叭卒三百九十九人ナリ  
 西部ノ軍管内ニ於テハ憲兵屯伍少數ニテ犯罪ヲ制シ秩序ヲ保ツヲ得ヌ故  
 ニ共和曆第八年五月二十九日(千八百零二年二月十八日)大統領ノ裁決ヲ以テ憲兵  
 二百伍ヲ増設シ西部總督ノ命令ニ據リ之ヲ第十二 第十三 第十四及ヒ第

二十二師管ノ諸州即チ「ロアール」「アンフ」「ユール」「ザヤラント」「アンフ」「ユ  
 ール」「ゾーゼー」「ヴアンデ」「イー」「ルエヴ」「井レ」「ヌ」「モルビハン」「フ井」「ニス」「テ  
 ル」「コトドシエノール」「カルヴ」「アドー」「マンシユ」「ナルヌ」「アムドエロアール」「ロア  
 ール」「エシエール」「メーヌ」「エロアール」「メーヤンヌ」「サルド」ニ配布セリ以上新設  
 ノ屯伍ハ乘馬憲兵士官ヲ以テ其指揮ニ任シ其配下ニ一等軍曹一名 二等軍  
 曹一名 憲兵卒八名ヲ附シタリ  
 共和曆第八年七月八日(千八百零二年三月二十九日)大統領ノ布告ニ由リ將官中ヨ  
 リ憲兵監察官一名ヲ撰拔シ憲兵勤務ニ關スル一切ノ事ヲ總理監督セシム其  
 制服ハ憲兵分隊長ニ全シ且肩章ニハ星章ヲ附ス  
 共和曆第九年十一月十二日(千八百零一年七月三十一日)大統領ノ布告ヲ以テ更  
 ニ憲兵ヲ改設シ分隊ノ名稱ヲ改メテ編隊トシ各編隊ハ二大隊各大隊ハ二中  
 隊ヲ以テ編成ス(但シ古爾斯ハ各州ニ二中隊ヲ置キ又第十九編隊ニ於テハ「モ  
 ンテリ」「ブル州ノ憲兵ヲ「チーレン州ノ中隊ニ編入セシヲ以テ此二ヶ所ヲ除  
 ク)各中隊ハ一州ノ憲兵ヲ以テ編成シ大尉ヲ以テ其長トシ之ニ計官少尉ヲ附

ス又其憲兵事務ハ中尉若干名ヲ以テ之ヲ擔任セシメ古爾斯島ニハ各大隊ニ計官少尉一名ヲ設置ス

第一編隊 本部 巴里 第一及ビ第二大隊

第一大隊 「セイヌ州」 中尉四名 乘馬憲兵二十九伍 徒歩憲兵三伍

「セイヌ、エ、チアーズ州」 中尉四名 乘馬憲兵三十六伍 徒歩憲兵一伍

第二大隊 「セイヌ、エ、マルヌ州」 中尉四名 乘馬憲兵二十六伍 徒歩憲兵一伍

「チアーズ州」 (「セイヌ、エ、マルヌ州」ニ全シ)

第二編隊 本部 「カエン」 第三及ビ第四大隊

第三大隊 「セイヌアンフエリユール州」 中尉三名 乘馬憲兵十七伍 徒歩

憲兵二伍

「エウル州」 中尉二名 乘馬憲兵十五伍 徒歩憲兵一伍

第四大隊 「カルグアド州」 中尉四名 乘馬憲兵二十一伍 徒歩憲兵五伍

「モンシエ州」 中尉三名 乘馬憲兵十八伍 徒歩憲兵五伍

第三編隊 本部 「アランソン」 第五及ビ第六大隊

第五大隊 「ナルヌ州」 中尉三名 乘馬憲兵十五伍 徒歩憲兵二十三伍

「エウル、エ、ロアル州」 中尉三名 乘馬憲兵十六伍 徒歩憲兵一伍

第六大隊 「メーヤンヌ州」 中尉四名 乘馬憲兵十六伍 徒歩憲兵二十三伍

「サルト州」 中尉四名 乘馬憲兵十五伍 徒歩憲兵二十三伍

第四編隊 本部 「ランヌ」 第七及ヒ第八大隊

第七大隊 「オートシユノール州」 中尉四名 乘馬憲兵十九伍 徒歩憲兵二

十九伍

「イールヴ#レリース州」 中尉五名 乘馬憲兵十九伍 徒歩憲兵二十九伍

第八大隊 「フ#ニステール州」 中尉四名 乘馬憲兵十九伍 徒歩憲兵十一

伍

「モルビハ州」 中尉四名 乘馬憲兵十七伍 徒歩憲兵三十八伍

第五編隊 本部 「アンシエール」 第九及ヒ第十大隊

第九大隊 「ロアルアンフエリユール州」 中尉五名 乘馬憲兵十二伍 徒

歩憲兵三十六伍

「メロスキエロアール州」中尉四名 乘馬憲兵十九伍 徒歩憲兵三十六伍

第十大隊 「ヴァンデ州」中尉五名 乘馬憲兵二十三伍 徒歩憲兵三十一伍

「ゾーセーヴル州」中尉四名 乘馬憲兵十九伍 徒歩憲兵十九伍

第六編隊 本部 「ゾール」第十一及ヒ第十二大隊

第十一大隊 「ロアールエシエール州」中尉三名 乘馬憲兵十五伍 徒歩憲兵八伍

「アンドルエロアール州」中尉四名 乘馬憲兵十七伍 徒歩憲兵六伍

第十二大隊 「アンドル州」中尉三名 乘馬憲兵十七伍 徒歩憲兵一伍

「グキヤンヌ州」中尉三名 乘馬憲兵十六伍 徒歩憲兵二伍

第七編隊 本部 「ボルドー」第十三及ヒ第十四大隊

第十三大隊 「シヤラント州」中尉三名 乘馬憲兵十六伍 徒歩憲兵二伍

「シヤラントアンフェリユール州」中尉三名 乘馬憲兵二十伍 徒歩憲兵一伍

第十四大隊 「シロンド州」中尉三名 乘馬憲兵十八伍 徒歩憲兵二伍

「ランド州」中尉三名 乘馬憲兵十六伍 徒歩憲兵一伍

第八編隊 本部 「ペリグー」第十五及ヒ第十六大隊

第十五大隊 「ローエガロンス州」中尉三名 乘馬憲兵十七伍 徒歩憲兵二伍

「ドルトリーギユ州」中尉三名 乘馬憲兵二十一伍 徒歩憲兵二伍

第十六大隊 「チートヴキヤンヌ州」中尉二名 乘馬憲兵十三伍 徒歩憲兵二伍

「コレーズ州」中尉二名 乘馬憲兵十五伍 徒歩憲兵二伍

第九編隊 本部 「チーク後ツールーズ」ニ改ム第十七及ヒ第十八大隊

第十七大隊 「チートガロンス州」中尉三名 乘馬憲兵十七伍 徒歩憲兵二伍

「ジエール州」中尉三名 乘馬憲兵十六伍 徒歩憲兵三伍

第十八大隊 「チートビレチー州」中尉二名 乘馬憲兵九伍 徒歩憲兵七伍

「パリスビレチー州」中尉三名 乘馬憲兵十五伍 徒歩憲兵十一伍

第十編隊 本部 「カルカソンヌ」第十九及ヒ第二十大隊

第十九大隊 「タルヌ州」 中尉三名 乘馬憲兵十五伍 徒歩憲兵三伍

「チロド州」 中尉三名 乘馬憲兵十六伍 徒歩憲兵二伍

第二十大隊 「アリエーシュ州」 中尉三名 乘馬憲兵十二伍 徒歩憲兵六伍

「ビレチーリヤンタール州」 中尉三名 乘馬憲兵十三伍 徒歩憲兵七伍

第十一編隊 本部 「ロイデ」第二十一及ヒ第二十二大隊

第二十一大隊 「カンタール州」 中尉三名 乘馬憲兵十伍 徒歩憲兵八伍

「ロゼール州」 中尉三名 乘馬憲兵十四伍 徒歩憲兵六伍

第二十二大隊 「アヴェイロン州」 中尉四名 乘馬憲兵十七伍 徒歩憲兵九伍

「リ」州 中尉三名 乘馬憲兵十六伍 徒歩憲兵三伍

第十二編隊 本部 「リ」州 第二十三及ヒ第二十四大隊

第二十三大隊 「ア」州 中尉四名 乘馬憲兵十六伍 徒歩憲兵

十伍

「ア」州 中尉四名 乘馬憲兵十五伍 徒歩憲兵十伍

第二十四大隊 「ロ」州 中尉三名 乘馬憲兵十四伍 徒歩憲兵七伍

「ゴ」州 中尉三名 乘馬憲兵十五伍 徒歩憲兵六伍

第十三隊 本部 「ム」第二十五及ヒ第二十六大隊

第二十五大隊 「クルーズ州」 中尉二名 乘馬憲兵十四伍 徒歩憲兵二伍

「ア」州 中尉三名 乘馬憲兵十七伍 徒歩憲兵二伍

第二十六大隊 「シエール州」 中尉三名 乘馬憲兵十八伍 徒歩憲兵二伍

「ニエーヴル州」 中尉三名 乘馬憲兵十七伍 徒歩憲兵一伍

第十四編隊 本部 「トロア」第二十七及ヒ第二十八大隊

第二十七大隊 「ロアレ」州 中尉四名 乘馬憲兵二十一伍 徒歩憲兵三伍

「ヨ」州 中尉三名 乘馬憲兵二十一伍 徒歩憲兵二伍

第二十八大隊 「チ」州 中尉三名 乘馬憲兵二十一伍 徒歩憲兵一伍

「マルヌ州」(「ヨ」州ノ憲兵中隊ニ全シ)

第十五編隊 本部 「アルテ」第二十九及ヒ第三十大隊

「アルテ」第二十九及ヒ第三十大隊

「アルテ」第二十九及ヒ第三十大隊

「アルテ」第二十九及ヒ第三十大隊

「アルテ」第二十九及ヒ第三十大隊

「アルテ」第二十九及ヒ第三十大隊

「アルテ」第二十九及ヒ第三十大隊

「アルテ」第二十九及ヒ第三十大隊

「アルテ」第二十九及ヒ第三十大隊

「アルテ」第二十九及ヒ第三十大隊



第二十九大隊 「ノール州」 中尉四名 乘馬憲兵二伍  
 「バードカレ州」 中尉三名 乘馬憲兵十九伍 徒歩憲兵一伍  
 第三十大隊 「エースマ州」 中尉四名 乘馬憲兵二十一伍 徒歩憲兵二伍  
 「ソナム州」(「ノール州」ノ憲兵中隊ニ全シ)  
 第三十一編隊 本部 「ブリエセル」 第三十一及ヒ第三十二大隊  
 第三十二大隊 「カース州」 中尉三名 乘馬憲兵二十伍 徒歩憲兵一伍  
 「エスコ州」 中尉四名 乘馬憲兵二十二伍 徒歩兵二伍  
 第三十三大隊 「シヤンヌ」州 中尉三名 乘馬憲兵十九伍 徒歩憲兵一伍  
 「サウヤ州」 中尉四名 乘馬憲兵二十伍 徒歩憲兵二伍  
 第三十七編隊 本部 「リモーシ」 第三十三及ヒ第三十四大隊  
 第三十三大隊 「ツリチ」州 中尉四名 乘馬憲兵二十伍 徒歩憲兵二伍  
 「ノズアヌ」州 中尉二名 乘馬憲兵十四伍 徒歩憲兵一伍  
 第三十四大隊 「ウール」州 中尉二名 乘馬憲兵十九伍 徒歩憲兵二伍

「サンブル」州 (「ウール」州ノ憲兵中隊ニ全シ)  
 第三十八編隊 本部 「メツ」 第三十五及ヒ第三十六大隊  
 第三十五大隊 「フ」州 中尉四名 乘馬憲兵二十伍 徒歩憲兵六伍  
 「アルダ」州 中尉三名 乘馬憲兵十六伍 徒歩憲兵二伍  
 第三十六編隊 「ム」州 中尉三名 乘馬憲兵十九伍 徒歩憲兵二伍  
 「モゼール」州 中尉三名 乘馬憲兵十八伍 徒歩憲兵二伍  
 第三十九編隊 本部 「ナンレ」 第三十七及ヒ第三十八大隊  
 第三十七大隊 「グ」州 中尉三名 乘馬憲兵十四伍 徒歩憲兵五伍  
 「ムール」州 中尉三名 乘馬憲兵二十伍 徒歩憲兵二伍  
 第三十八大隊 「バ」州 中尉三名 乘馬憲兵十八伍 徒歩憲兵一伍  
 「チ」州 中尉四名 乘馬憲兵十八伍 徒歩憲兵九伍  
 「チ」州ノ憲兵中隊附屬中尉四名ノ内二名ハ「モンテ」州内「ドレ」モ  
 「シ」及ヒ「ボラント」州ノ兩所ニ駐在ス  
 第二十編隊 本部 「ブ」第三十九及ヒ第四十大隊

第三十九大隊「キートン」州 中尉二名 乘馬憲兵十三伍 徒歩憲兵一伍

「ツリブ」州 中尉三名 乘馬憲兵十六伍 徒歩憲兵三伍

第四十大隊「ジュラ」州 中尉三名 乘馬憲兵十二伍 徒歩憲兵五伍

「レマン」州 中尉二名 乘馬憲兵十二伍 徒歩憲兵三伍

第二十一編隊本部「ボヨン」第四十一及ヒ第四十二大隊

第四十一大隊「キートン」州 中尉三名 乘馬憲兵十六伍 徒歩憲兵一伍

「コルトドール」州 中尉三名 乘馬憲兵十九伍 徒歩憲兵二伍

第四十二大隊「ソリヌエロ」州（「コルトドール」州ノ中隊ニ全シ）

「エー」州 中尉三名 乘馬憲兵十七伍 徒歩憲兵二伍

第二十二編隊本部「グルノール」第四十三及ヒ第四十四大隊

第四十三大隊「イゼール」州 中尉三名 乘馬憲兵十六伍 徒歩憲兵六伍

「モンブラン」州 中尉三伍 乘馬憲兵十五伍 徒歩憲兵八伍

第四十四大隊「アルプ」州 中尉四名 乘馬憲兵十六伍 徒歩憲兵十伍

「ド」州 中尉三名 乘馬憲兵十五伍 徒歩憲兵五伍

第二十三編隊本部「ド」州 第四十五及ヒ第四十六大隊

第四十五大隊「チ」州 中尉二名 乘馬憲兵十伍 徒歩憲兵五伍

「ス」州 中尉三名 乘馬憲兵十二伍 徒歩憲兵八伍

第四十六大隊「アルプ」州 中尉三名 乘馬憲兵七伍 徒歩憲兵

十一伍

第二十四編隊本部「ア」州 後「マルセイユ」改メ第四十七及ヒ第四

十八大隊

第四十七大隊「ブ」州 中尉三名 乘馬憲兵十六伍 徒歩憲

兵六伍

「グ」州 中尉三名 乘馬憲兵十五伍 徒歩憲兵三伍

第四十八大隊「ガール」州 中尉三名 乘馬憲兵十七伍 徒歩憲兵三伍

「ヘ」州 中尉三名 乘馬憲兵十八伍 徒歩憲兵三伍

第二十五編隊本部「ゴブランツ」後「ターヤンヌ」ニ改メ第四十九及ヒ第五  
 十大隊  
 第四十九大隊「レインモゼトル州」中尉四名 乘馬憲兵十八伍 徒歩憲  
 兵七伍  
 「エル州」中尉四名 乘馬憲兵二十八伍 徒歩憲兵四伍  
 第五十大隊「ブール州」中尉四名 乘馬憲兵十八伍 徒歩憲兵六伍  
 「モントテール州」中尉四名 乘馬憲兵二十伍 徒歩憲兵六伍  
 第二十六編隊本部「バスチャ」後「アジャクシヨ」ニ改メ第五十一及ヒ第五  
 十二大隊  
 第五十一大隊「ゴロ州」「バスチャ」及ヒ「コルト」ノ中隊ハ各々中尉三名 乘  
 馬憲兵三伍 徒歩憲兵十五伍  
 第五十二大隊「リヤモ」州「アジャクシヨ」及ヒ「サルテ」ノ中隊ハ上文  
 ノ中隊ニ全シ  
 以上二十六編隊ニテ編隊長二十六名大隊長五十二名 大尉百〇四名 中尉

三百四十名  
 計官少尉百〇二名 乘馬憲兵千七百四十四伍 一等軍曹五百七十八名 二  
 等軍曹千百六十六名 徒歩憲兵七百〇八伍 一等軍曹二百三十二名 二  
 等軍曹四百七十六名 乘馬憲兵卒及ヒ喇叭手八千七百二十名 徒歩憲兵卒三  
 千五百四十名 總員一萬五千三百三十六名 内二等軍曹 憲兵卒 喇叭手  
 鼓手五百五十名ハ撰拔編隊ナリ各屯伍ハ屯長一名ト憲兵卒五名ヨリ成ル  
 而シテ各屯伍ヨリ下士二等軍曹又ハ憲兵卒ノ内一名ヲ其州ノ首府ニ派遣シ  
 以テ其實員ノ六分一ニ等シキ補充隊ヲ編成ス  
 海港及ヒ造船場ノ憲兵隊ハ後文特ニ之ヲ記載セリ該憲兵ハ六中隊ヨリ成リ  
 之ヲ第二 第四 第七 第十七 及ヒ第二十三編隊中ニ編入セリ然レモ其  
 兵員ハ上文ノ一萬五千三百三十六名中ニ含有ス  
 其他憲兵隊ニ總參謀アリ監察官長中將一名監察官少將二名ヲ以テ編成ス監  
 察官長ノ任務ハ共和曆第八年七月八日ノ布告ヲ以テ制定セリ其他ノ監察官  
 ハ各編隊ヲ巡視シ政府ノ命令アレハ一時其必要ト認メタル州内ニ滞在ス

以上改設ノ諸隊ハ從前ノ憲兵隊及ヒ師團兵ヨリ之ヲ募集シ其全級又ハ次級ナル從前ノ憲兵士官或ハ全級又ハ上級ノ師團兵士官ヲ以テ憲兵士官ニ任ス又憲兵卒ノ師團兵ヨリ募集セシモノハ共和曆第八年十月五日ノ決議第一條ノ規則ニ合格シ革命以後ノ出戰四回ニ及ヒ且乘馬憲兵ハ身長一米突七十五(五尺五寸)タルヲ要セリ

共和曆第十年十二月二十四日(千八百九十二年九月十一日)元老院ノ決議ニ由リ「ボロ」ドアル「マランゴ」セイヤ「ヌヂユラ」「タナロ」六州(本部「チユラン」イヴレ「ア」キサン「ドリ」ヴユル「セイユ」コニ「アスチ」ヲ以テ佛國共和政府ノ領地ニ屬シ以上六州ノ憲兵隊ヲ以テ第三十七編隊(本部「チユラン」ヲ編成シ士官ハ三十四名ニシテ内編隊長一名 大隊長三名 大尉六名 計官少尉六名 中尉十八名 「ドス」又「ボ」及ヒ「ヌヂユラ」ニ中隊ヲ以テ第五十三大隊トシ「ドアル」及ヒ「タ」チ「チ」ニ中隊ヲ第五十四大隊トシ「マランゴ」及ヒ「セイヤ」ノ二中隊ヲ第五十五大隊トシ然ルニ共和曆第十三年九月十七日(千八百九十五年六月六日)ノ布告ヲ以テ「ボ」州ヲ廢シ之ヲ隣州ニ合シ第二十編隊ヨリ「マランゴ」州ノ憲兵中隊

ヲ分遣シ「ジョエーヌ」モント「ノット」アベン「ナン」ノ諸州(本部「ジョエーヌ」サヴ「オーヌ」シ「アヴ」アリ)ヲ以テ第二十八編隊ヲ新設ス故ニ第二十七編隊ハ「ボ」ドアル「セイヤ」及ヒ「ヌヂユラ」ノ四州ヨリ成リ「ボ」ヌヂユラノ二中隊ハ依然第五十三大隊ヲナシ「ドアル」セイヤノ二中隊ハ第五十四大隊ヲ編成セリ

共和曆第十三年九月十七日ノ布告第四編第十四條ニ準據シ第二十八編隊(本部「ジョエーヌ」ニ於テハ「ジョエーヌ」及ヒ「アベン」ナン)ノ二中隊ヲ以テ第五十五大隊「マランゴ」及ヒ「モント」ノット)ノ二中隊ヲ以テ第五十六大隊ヲ編成シ一時之ニ「ハルム」ノ中隊ヲ編入セリ以上二大隊ノ外第二十八編隊ニハ尙ホ海港及ヒ造船場ノ憲兵第七中隊ヲモ加ヘタリ

千八百八八年五月二十四日元老院ノ決議ニ因リ「ハルム」及ヒ「プレーザンス」ノ公國ト「トスカ」ヌ國トヲ分割シテ「タロ」アルノ「マ」チ「ラン」チ「チ」ン「プロ」ヌノ四州(首府「ハルム」「ラ」ロ「ラン」ヌ「リ」ヴ「ール」ヌ「シヤ」ン「ヌ」ニテ設置セシニ因リ第五十七及ヒ第五十八大隊ヲ以テ第二十九編隊ヲ編成シ「フ」ロ「リ」シ「ヌ」ヲ以テ本部トセリ第二十七大隊ハ「ハルム」又ハ「タロ」ノ中隊ニシテ曾テ第二十八編隊ニ屬セ

シ「パルム」即チ「ダロ」ノ憲兵中隊ト「アル」ノ中隊ヨリ成リ第五十八大隊ハ「チン  
 アロー」及ヒ「メ」ヲテ「メ」ノ二中隊ヲ以テ編成セリ又千八百〇八年七月二十  
 三日ノ布告ニ由リ「ダロ」州ハ既ニ「ボルグ」公ノ領地ニ屬セシモ憲兵中隊ハ  
 依然其地ニ駐在シ再ヒ之ヲ第二十八編隊ニ復セリ又第五十七大隊ハ僅カニ  
 「アル」ノ中隊ヲ存セシノミ  
 千八百八年十一月二十一日ノ布告ヲ以テ「タル」エ、ガロンヌ」州ヲ設置シ該州  
 ノ憲兵中隊ヲ以テ第九編隊ニ附屬セリ  
 千八百十年二月十七日ノ元老院ノ決議ニ由リ「ローム」ヲ以テ佛蘭西帝國ノ屬  
 地トナシ「ローム」及ヒ「トラシメ」ノ二州ヲ作り「ローム」及ヒ「スポレト」ヲ首府  
 トナシ「ローム」及ヒ「ウ」井「テル」ノ二中隊ヲ「ローム」州ニ移シ「トラシメ」州ニ  
 ハ僅カニ一中隊ヲ置キタリ以上ノ三中隊ヲ以テ第三十編隊（本部「ローム」）第  
 五十九大隊ヲ編成セリ  
 千八百九年十月十四日及ヒ十二月二十五日發布ノ「イリ」縣設置ニ關スル  
 勅令ニ由リ「ガル」ヨール「カラ」ン「イ」ド「ク」ロ「ダ」ル「ラ」ギ「ユ

「ズ」ノ諸中隊（首部「レ」バツク「ウ」井「ラ」ツク「トリ」エ「スト」「カル」スタツト「ザ」ラ「ラ  
 ギ」ユ「ズ」）ヲ以テ第三十一編隊（本部「レ」イ「バ」ツク）ヲ編成シ「カル」ヨールノ中隊ハ  
 大尉ヲ以テ其指揮ニ任シ餘ノ五中隊ハ大隊長ヲ以テ指揮官トセリ又其各中  
 隊ニ計官少尉ヲ附シ「カ」ラ「ン」チ「イ」及ヒ「ラ」ギ「ユ」ズノ二中隊ニハ中尉二名其他  
 ハ各三名ヲ附シ而シテ其居住地ヲ定メス  
 千八百十年四月二十四日ノ元老院決議ヲ以テ「ア」シ「ユ」シ「ユ」レ「ン」州（首府「ボ  
 ア」ール「ヂ」ユツク）ヲ設置シ三郡ヲ以テ之ヲ「ツ」チ「ト」州ニ合シ更ニ全月二十  
 六日ノ布告ヲ以テ「ア」シ「ユ」シ「ユ」レ「ン」州ニ憲兵一中隊（乘馬兵二十五伍徒歩  
 兵十伍）ヲ置キ之ヲ第十七編隊ニ附屬セシム又全布告ヲ以テ「ツ」チ「ト」州ノ  
 中隊ハ其乘馬兵ヲ三十伍徒歩兵ヲ十伍ニ増加セリ然ルニ同年五月十五日ニ  
 至リ「ア」シ「ユ」シ「ユ」ド「レ」ス「カ」ウ「州」首府「ミ」デ「ル」「ア」ール）ヲ設置セシニ因リ「ツ」チ「ト」  
 州ノ憲兵中隊ハ之ヲ第十六編隊ニ附屬セシメタリ  
 千八百十年九月十三日勅令ヲ發シ和蘭國ヲ分割シテ佛蘭敦州ヲ設ケ全年十  
 月十八日更ニ勅令ヲ以テ「ズ」イ「デ」ル「セ」「ア」シ「ユ」シ「ユ」ド「ラ」ム「ズ」「イツ」セル「シ」ユ「ベ」リ

ユール、シ、ド、イッセル、ラレーズ、エム、グクシダントール、エム、グアリヤンタ  
 ール、諸州ニ憲兵中隊ヲ置キ、アムステルダム、ハイキ、ブルス、ハイ、ツォー  
 ル、レーンウル、デシ、ゲロミシク、アウリツク、ヲ以テ首府トス、初メノ三中隊ハ乘  
 馬兵三十七伍、徒歩兵二十四伍、第三十二編隊ヲ編成シ、アムステルダム、ヲ  
 以テ首府トシ、後ノ四中隊ハ乘馬兵四十九伍、徒歩兵三十一伍ヨリ成リ、以テ第  
 三十三編隊トシ、グロチシク、ヲ首府トス、  
 千八百十年十二月二十六日ノ勅令ハ、グアレ、ヲ編制シ、サンプロン、及ヒ首府  
 シヨン、ヲ創設シ、其第四章第四十九條ノ規則ニ因リ、該州ニ乘馬兵三伍、徒歩兵  
 六伍、ノ憲兵中隊ヲ置キ、之ヲ第二十編隊ノ所轄ニ附ス、  
 全日ノ布告ヲ以テ、イセツル、ニ、ユペリ、ユトル、州ニ、レー、及ヒ、モンステ、ノ管區、ア  
 ーシ、ド、リツセル、州ニ、スタイン、ツエール、ノ管區、エム、グクシダントール、州ニ  
 「ニコ、ハウセシ、」ノ管區ヲ増シ、全時ニ左ノ諸州ノ憲兵ヲ増加ス、即チ、イヒツセ  
 ル、シ、ユペリ、ユトル、州ニ、乘馬兵五伍、徒歩兵一伍、ブリシ、ド、リツセル、州ニ、乘馬  
 兵四伍、徒歩兵二伍、エム、グクシダントール、州ニ、乘馬兵二伍、徒歩兵二伍、ヲ増加

セリ、千八百十一年四月二十七日、元老院ノ議決ヲ以テ、レー、モンステ、スタイン  
 プ、オー、ル、及ヒ、ニコ、ハウセシ、ノ四管區ヲ合シテ、リツ、ア、ノ一州ヲ作り、首府ヲ  
 「モンステ」トシ、其會テ、此四管區ニ設置セシ、憲兵四伍ヲ以テ、ツリ、ア、ノ中隊ニ編  
 入シ、之ヲ第十七編隊ノ管轄ニ附ス、  
 千八百十年七月四日ノ布告ヲ以テ、エム、シ、ユツ、ペリ、ユール、州、ブー、シ、ユ、ユ  
 ウ、エ、セ、ル、州、ブー、シ、ユ、ド、レル、州、首府、ヲ、スタ、ナ、ブ、リ、ユ、ツ、ク、ブ、レ、イ、ム、ハ、ン、ブ、ール、  
 ノ憲兵ヲ合シ、第二十四編隊(首府、ハ、ン、ブ、ール)ヲ編成シ、更ニ、第三十三編隊ノ所  
 轄、エム、グクシ、ダ、ン、トール、州、ノ憲兵中隊ト軍港及ヒ造船場ノ憲兵八中隊ヲ之  
 ニ加ヘタリ、  
 千八百十一年四月十九日ノ元老院議決ヲ以テ、ゴロ、リヤ、モーヌ、二州ヲ合シ、以  
 テ、コル、ス、ノ一州ヲ作り、ア、ヤ、ツ、ク、シ、ヨ、ヲ以テ首府トス、千八百十二年十二月  
 二十二日勅令ヲ發シテ、憲兵二中隊ヨリ成ル所ノ第二十六編隊ヲ編成シ、其第  
 一中隊ヲ、ア、ヤ、ツ、ク、シ、ヨ、府ニ置キ、以前ノ、ク、ヤ、モ、ー、ヌ、州ヲ以テ其管區トシ、第  
 二中隊ヲ、バ、ス、ナ、ア、府ニ置キ、以前ノ、ゴ、ロ、州ヲ以テ其管區ト定ム、但シ、其編隊ノ

士官ハ大佐一名少佐一名計官少尉一名第一中隊ハ大尉一名中尉六名乘馬一等軍曹一名徒步一等軍曹八名乘馬二等軍曹二名徒步二等軍曹十五名乘馬憲兵卒十五人徒步憲兵卒百十五人第二中隊ハ大尉一名中尉六名乘馬一等軍曹二名徒步一等軍曹十一名乘馬二等軍曹三名徒步二等軍曹二十二名乘馬憲兵卒二十五人徒步憲兵卒百六十五人

第五十九大隊ヲ以テ最後ノ憲兵大隊トス第三十一第三十二第三十三及ヒ第三十四編隊ハ之ヲ大隊ニ區分セシメ共和曆第九年十一月十二日ヲ以テ憲兵條例ヲ改正セシ以來編隊ハ凡テ之中隊ニ區分シ大尉ヲ以テ中隊長トナセリ然レモ其一二中隊ノ如キハ假リニ少佐ヲ以テ中隊長トセシヨアリ概シテ少佐(中隊長ハアラヌ)ハ各編隊ニ一名ヲ限リ之ヲ大佐所在ノ首府置シ共和曆第十二年一月一日(千八百〇三年九月二十二日)ノ決議ニ因リ編隊長ハ以後之ヲコロシテ大佐ト稱セリ

憲兵參謀即チ其監軍部<sup>アンフベリオン</sup>ハ漸次規模ヲ擴張シ終ニ總理監督一名(コチグリヤノ侯爵大將)モシモイ監督六名中將二名少將四名ヲ置ケリ千八百〇一年ヨリ千

八百十四年ヨリ至ルマデ憲兵一伍ハ兵六名(伍長ヲ算入ス)ヲ以テ編成スルヲ制規トセリ然レモ爾來尙ホ數年間ハ十名ノ徒步憲兵ヲ以テ一伍トセシモノ百十六伍アリ後其數ヲ減シテ三十七伍トシ第二十七編隊ヲ作り以來屯伍ハ兵卒十名ヲ以テ編成シ之ヲ他隊ニ比スレハ乘馬兵二名徒步兵二名ノ増員ナリ

第一帝政ノ末ニ當リ計官ハ單ニ少尉ノミニ限ラス尙ホ中尉ノ計官數名ヲ設置セリ

千八百十四年五月三十日及ヒ六月八日締結ノ講和條約ニヨリ佛國ハ權力ニ其三條ニ示ス所ノ土地ヲ增加シ千七百九十二年二月一日ノ舊境界ニ復ス千八百十四年七月十一日勅令ヲ發シ憲兵ヲ二十四編隊トシ之ヲ八監軍九十五中隊ニ區分シ内六中隊ハ沿海管區八十九中隊ハ内地諸州ニ之ヲ部署セリ

憲兵參謀即チ監軍部ニ總理監督(コチグリヤノ侯爵大將)モシモイ一名監督中將四名少將四名ヲ置キ各將官ヲ以テ監軍部長ニ任ズ

第一編隊及ヒ第二十四編隊ヲ除クノ外各州ニ憲兵一中隊ヲ配置ス蓋シ第一編隊ハ特リ其編制ヲ異ニシ其憲兵ハ之ヲ諸隊ヨリ徵募シ交代ヲ以テ進級セ

而シテ其任務ハ皇帝ノ遊獵巡行ヲ警衛シ皇居ヲ守衛シ巴里府及ビモイ  
 州ノ各管區ノ警察ヲ司ルニアリ  
 各伍ハ一等軍曹若クハ二等軍曹一名憲兵卒五名ヲ以テ編成シ憲兵士官下士  
 兵卒ハ他兵科ヨリ選シ一等止級ナル列次ヲ占ム然レモ指揮ノ權限ハ其軍隊ニ  
 於テ同等ナルモ以テ次位ニテ之ヲ恩給ハ憲兵隊ニ附屬シ在職十年以上ニアラ  
 ガレバ此特典ニ預ルヲ得又憲兵ハ近衛隊ノ左方師團兵ノ右方ニ於テ其列  
 次ヲ占ムヲ得  
 那拿崙第一世統治ノ末年ニ於テ憲兵ヲ爲シニ差ヤ緊要ナルモシテ千八百十  
 五年三月二十日及ビ五月一日ノ二勅令ナリ而シテ前者ハ侯爵「ロヴゴ」ヲ以テ  
 憲兵總理監督ニ任シ後者ハ第四第五第六第九第十第十第十二第十三第十  
 四第二十及ビ第三十二編隊ノ徒步及ビ乘馬ノ各伍ニ人員二名ツ、ヲ増加セ  
 リ  
 路易十八世ノ歸國ニ當リ千八百十五年七月二十一日ノ勅令ヲ以テ憲兵監軍  
 部ヲ廢シ其諸局及ビ文庫ハ之ヲ憲兵軍事警察及ビ逃亡人取扱ノ諸局ニ合シ

テ陸軍省ニ憲兵及軍事警察局ヲ設置シ將官ヲ以テ其局長トセリ  
 千八百十五年九月十日發布ノ條例ヲ以テ更ニ憲兵ノ編制ヲ改正シ各編隊ヲ  
 以テ千八百十四年七月十一日ノ條例ト同一ノ編成ニ復シ特リ其番號ヲ變更  
 セリ即チ第十一第十二第十三第十四第十五第十六第十七第十八第十九第二  
 十第二十一第二十二第二十三第二十四編隊ノ番號ヲ改メテ第十三第十四第  
 十五第十六第十七第十八第十九第二十第二十一第二十二第二十三第二十八  
 第二十九第三十第三十一第三十二第三十三第三十四第三十五第三十六第三  
 十七第三十八第三十九第四十編隊ト定メ其三編隊ヲ一監軍トシ又其  
 和曆十一月十二日ノ決議ニ由リ會テ探定セシ舊制ヲ復シ編隊ヲ區分シテ大  
 隊トシ中隊ヲ以テ一大隊ヲ編成シ少佐ヲ以テ隊長トシ中隊ハ皆ナ大尉ヲ  
 以テ其指揮ニ任シ更ニ中隊ヲ小隊ニ小隊ヲ屯伍ニ區分シ憲兵八名(内一等軍  
 曹一名又ハ二等軍曹一名)ヲ以テ一伍トシ第一編隊ハ千八百十四年七月十一  
 日ノ條例ヲ以テ制定セシ如ク皇帝ノ遊獵巡行ヲ警衛シ皇居ヲ守衛シ「セイ  
 州」ノ警察ヲ以テ其任務トナセリ  
 總員ハ海軍憲兵ヲ算入シテ一萬八千〇十八人内大佐二十四名少佐四十六名一



等大尉八十九名二等大尉八名(内三名ハ第一編隊六名ハ海軍憲兵ニ附屬ス)計官九十四名(内一等中尉四十八名二等中尉四十六名)乘馬一等軍曹五百十六名徒歩一等軍曹二百〇六名乘馬二等軍曹千〇三十四名徒歩二等軍曹四百十四名乘馬憲兵卒一萬〇八百五十八人徒歩憲兵卒四千三百四十人(喇叭手ヲ算入ス)伍數ハ乘馬兵千五百五十五徒歩兵六百二十伍内六十四伍徒歩十五伍乘馬四十五伍)ヲ以テ補充兵トシ所要ニ應ジテ之ヲ使用ス

第一 監軍<sup>アンスヘクシヨ</sup> 第二及ビ第三編隊本部巴里、ヴネルサイユ、カエシ

第十編隊 第一大隊 第二大隊ハ二中隊ヲ以テ編成ス其第一中隊ハ皇居及ビ遊獵巡行ノ警衛中隊ト稱スルモノニシテ第二中隊ハセイス州ノ中隊ナリ

第二編隊 第二大隊「セイス、モ、チアノズ」及ビ「ロアレ」第三大隊「チアノズ」及ビ「セイス、モ、チアノズ」

第三編隊 第四大隊「カルヴァド」及ビ「マンシユ」第五大隊「セイスアンフオリユ」

第二 監軍 第四第五及ビ第六編隊本部「フランソワ」ラシス「アンシユ

第四編隊 第六大隊「マセ」及ビ「チウキ、モ、ロア」第七大隊「サルト」及ビ「ロヤンヌ」

第五編隊 第八大隊「カス」及ビ「グワレリス」及ビ「ヨリト、ウユ、ソール」第九大隊「フ井ニステール」及ビ第三沿海管區

第六編隊 第十大隊「マシス、チロア」及ビ「アールアンフエリユール」第十一大隊「モルピアン」及ビ第四沿海管區

第三 監軍 第七第八及ビ第九編隊本部「ウイ」及ビ「ヨハ」

第七編隊 第十二大隊「アンドル、エ、ロアール、エ、シエール」第十三大隊「ウキヤン」及ビ「アンドン」

第八編隊 第十四大隊「アリエ」及ビ「アイトーム」第十五大隊「ニエーヴル」及ビ「シエール」

第九編隊 第十六大隊「ツィセーヴル」及ビ「ヴァンデ」第十七大隊「シャラント」

アレフエリエール」及ビ第五沿海管區

第四監軍 第十第十一及第十二編隊本部「ボルドー」「リモージュ」「カホー」  
 第十編隊 第十八大隊「シロンド」及ヒ「シャラント」 第十九大隊「ランド」及ヒ「バ」  
 第二十編隊 第二十大隊「ナートヴジャンヌ」及ヒ「クルーズ」 第二十一大隊「ドル」  
 第二十二編隊 第二十二大隊「ロ」及ヒ「ガロンヌ」 第二十三大隊「アヴェ」  
 第二十四編隊 第二十四大隊「ナートヴジャンヌ」及ヒ「クルーズ」 第二十五大隊「アヴェ」  
 第二十六編隊 第二十六大隊「ナートヴジャンヌ」及ヒ「クルーズ」 第二十七大隊「アヴェ」  
 第二十八編隊 第二十八大隊「ナートヴジャンヌ」及ヒ「クルーズ」 第二十九大隊「アヴェ」  
 第三十編隊 第三十大隊「ナートヴジャンヌ」及ヒ「クルーズ」 第三十一大隊「アヴェ」  
 第三十二編隊 第三十二大隊「ナートヴジャンヌ」及ヒ「クルーズ」 第三十三大隊「アヴェ」  
 第三十四編隊 第三十四大隊「ナートヴジャンヌ」及ヒ「クルーズ」 第三十五大隊「アヴェ」  
 第三十六編隊 第三十六大隊「ナートヴジャンヌ」及ヒ「クルーズ」 第三十七大隊「アヴェ」  
 第三十八編隊 第三十八大隊「ナートヴジャンヌ」及ヒ「クルーズ」 第三十九大隊「アヴェ」  
 第四十編隊 第四十大隊「ナートヴジャンヌ」及ヒ「クルーズ」 第四十一大隊「アヴェ」

第十五編隊 第三十八大隊「ガトル」及ヒ「アルデーヌ」 第三十九大隊「ヘド」  
 第十六編隊 第三十大隊「ブッシュ」及ヒ「ウオークリエーズ」 第三十  
 一大隊「ヴァール」及ヒ「メーヌ」 第三十一大隊「ハユルス」 第一及ヒ第二中隊ヲ以テ編  
 成ス  
 第十七編隊 第三十二大隊「ハユルス」 第一及ヒ第二中隊ヲ以テ編  
 成ス  
 第十八編隊 第三十三大隊「イゼール」及ヒ「モンブラン」 第三十四大隊「ドローム」  
 及ヒ「チール」  
 第七監軍 第十九第二十及ヒ第二十一編隊本部「リヨン」「シジョン」「アザン」  
 「ソン」  
 第十九編隊 第三十五大隊「ロリス」及ヒ「ソリス、エ、ロアール」 第三十六大隊  
 第二十編隊 第三十七大隊「コルトドール」及ヒ「ナート、マルヌ」 第三十八大隊

チープ及ヒヨンス」  
第二十一編隊 第三十九大隊「ツープ」及ヒ「チートツリス」 第四十大隊「ヨユラ」  
及ヒ「エーン」

第八監軍 第二十二第二十三第二十四編隊本部「ナンシー」「メックス」「アチー」  
第二十二編隊 第四十一大隊「ムールト」及ヒ「グナスヨユ」 第四十二大隊「チー  
ズン」及ヒ「バーラン」  
第二十三編隊 第四十三大隊「バード、カレ」及ヒ「ソンス」 第四十六大隊 「ノ  
ル」「エトス」及ヒ「第一沿海管區」  
第一編隊ノ二中隊ハ每隊ニ士官八名即チ一等大尉一名二等大尉一名中尉五  
名計官一名ヲ有ス通常第一中隊ヲ稱シテ獵務中隊ト云ヒ第二中隊ヲ「セー」  
州ノ中隊ト云ヘリ第一中隊ハ乘馬兵三十伍ヨリ成リ其總員ハ士官ヲ算入シ  
テ二百四十八人第二中隊ハ乘馬兵二十五伍徒歩兵二十伍ヨリ成リ其總員ハ  
士官ヲ算入シテ三百四十六人ナリ以上ノ編成ハ千八百十四年七月十一日ノ  
制定ニ係ルモノト稍ヤ異ナル所アリ即チ舊編成ニ在テハ副官大尉一名ヲ置

キ計官ハ第一編隊ノ二中隊ニ一名ヲ附シタリ  
第十七編隊ノ第一中隊ハ「バスチア」ヲ首部トシ第二中隊ハ「アヤマクシヨ」ヲ以  
テ首部トセリ然ルニ千八百十四年七月十一日ノ布告ニハ第一中隊ノ首部ヲ  
「アジャクシヨ」ニ第二中隊ハ「バスチア」ニ其首部ヲ移セリ  
千八百十五年十二月二十日及ヒ二十五日締結ノ條約ニ因リ千八百十六年二  
月十四日ヲ以テ佛國ハ再ヒ千七百九十年ノ舊境界ニ復シ(但シ第一條ノ改正  
ヲ除ク)第十八編隊ハ「モンブラン」ノ中隊ヲ撤シ第三十三大隊ハ一時「ノーゼー  
ル」ノ一中隊ニ減シタリ此ヲ以テ更ニ其權衡ヲ整復センガ爲メ第十六及ヒ第  
十八ノ二編隊ヲ左ノ如ク改正セリ  
第十六編隊 第三十大隊「アイシユ、グユ、ローヌ」及ヒ「ザークラユーズ」 第三十  
一大隊「ヴァトル」及ヒ第六沿海管區  
第十八編隊 第三十三大隊 「イゼトル」及ヒ「ドローム」 第三十四大隊 「パッ  
スアルプ」及ヒ「オートアルプ」  
第四及ヒ第二十編隊ハ中隊ノ部署ヲ改正セシ後左ノ如ク編成セリ

第四編隊 第六大隊「ナルヌ」及ヒ「アイヤンヌ」 第七大隊「エウル、エ、ロ、アール」及ヒ「サルト」

第二十編隊 第三十七大隊「コルト、ドール」及ヒ「イヨナス」 第三十八編隊「ナ、プ」及ヒ「オ、ト、マルヌ」

千八百十七年十月二十三日及ヒ十一月十五日又布告ニ因リ地方憲兵少佐ノ職務ヲ編隊長ノ職務ニ編合シ其所在地ノ中隊ト皇帝ノ遊獵及ヒ巡行ノ警衛中隊ハ少佐ヲ以テ隊長トセリ而シテ編隊中ノ各中隊ハ依然トシテ變動セシ所ナク唯大隊ノ名稱ヲ廢セシノミ也  
千八百十八年八月二日又布告第十五章ニ準據シ憲兵ヲ採用及ヒ進級規則ハ左ノ如ク制定セリ  
憲兵ハ年齡三十五年以上四十年以下ニシテ乘馬兵ハ一米突七三二、徒歩兵ハ一米突七〇五ノ身長ヲ要シ且品行方正ノ證明書ヲ所有シ讀書ヲ能クシ師團ニ在テ再從シ又ハ十年間服役シ正當者暇休ヲナスモタルヘシ師團兵ノ下士ニシテ以上ノ例規ニ合格シ且三ヶ年間下副官歩兵曹長又ハ乘馬曹長ノ職

ヲ奉セザルモノ憲兵ニ等軍曹ヲ採用セザルヲ得  
年齢二十五年以上四十年以下ノ中尉ニシテ在職二年以上ニシテ憲兵中尉ニ缺員三分四ノ補缺タルヘシ又計官タルハ其志願者ヲ得  
又大佐ニ憲兵編隊長ノ缺員五分ニシテ補缺タルヲ得  
一二等軍曹ニ進級シ編隊毎ニ之ヲ定メ憲兵ニ等軍曹ヲ師團ノ一等軍曹ニ缺員ニ充テ之ニ轉職シ中尉ニ缺員二分一ハ憲兵下士所以補缺ス最前ノ中尉ニシテ在職四年後中尉ニ適任證ヲ受ケ且其技能アリ計官タルヲ得  
猶ホ少尉ニ於ル如ク中尉ニ進級シ師團ノ一等軍曹ニ充テ之ニ轉職シ大尉及ヒ少佐ニ憲兵全隊ノ順序ヲ以テ其進級ヲ定ム大尉ノ職務ハ中尉ニ充テ之ニ任シ少佐ノ職務ハ大尉ヲ以テ之ニ任ス其進級ハ其其三歳ニハ停年ニシテ三分一ハ拔擢シテ三分一ハ拔擢シテ定ム少佐ニシテ同編隊長ニ昇級ス但シ其三歳ニハ停年ニシテ三分一ハ拔擢シテ定ム少佐ニシテ同編隊長ニ昇級ス  
又其最初中佐ニ任シ在職四年後大佐ニ進級シテ千八百十八年ノ時代ニ當リ各伍ノ兵員ヲ減シテ六人乃至八人トシ其數乘馬兵ヲ千六百伍徒

歩兵ハ六百五十伍ニ及而シテ千八百五十九年八月八日監軍兼陸軍少將  
 千八百二十年三月十六日ノ布告ニ由リ皇帝ハ遊獵巡行ノ警衛中隊ヲ以テ撰  
 拔憲兵ヲ編成シ第一編隊ヲ「セイヤ州」中隊ニ號セラレ同隊三月三十日  
 ニ至リ更ニ憲兵條例ヲ發布シテ其員二名一ハ憲兵少尉ニ以テ之ニ計ス  
 千八百二十年三月三十日ヲ以テ制定シテ憲兵隊ニ編成ハ少尉  
 憲兵二十四編隊ニ大佐若クハ中佐以テ其編隊長トシ而シテ各州及出洋海營  
 區ノ編隊ハ更ニ之ヲ中隊小隊及ヒ屯伍ニ區分ス各編隊屯在ノ首府ニ少佐一  
 名ヲ置キ以テ編隊長駐在地ニ憲兵中隊ヲ指揮シテ其他諸中隊ハ大尉ヲ以  
 テ中隊長トシ各中隊中尉計官中尉又ハ少尉其名主附以テ但シテ各州中隊  
 ノミ計官大尉ヲ附シ各中隊ハ中尉若クハ少尉ヲ以テ隊長トシ乘騎兵四千六  
 百伍徒歩兵六百五十伍ニシテ各伍ニ憲兵五名伍長ヲ算入スヲ以テ編成セリ  
 總員ハ一萬四千〇八十六人内大中佐二十四名少佐二十四名中隊長大尉六十  
 八名計官大尉三名小隊長又ハ計官中尉少尉四百六十九名乘馬二等軍曹五百三  
 十三名徒歩一等軍曹二百十六名乘馬二等軍曹千〇六十七名徒歩二等軍曹四

百三十四名乘馬憲兵卒及ヒ喇叭手八千人徒歩憲兵卒及ヒ喇叭手三千二百五  
 十人

編隊ヲ監軍ニ集合スルノ制ヲ廢セシモ監督九名即チ中將三名少將六名ハ尙  
 \*依然トシテ憲兵隊ニ附屬セリ

第一編隊 本部 巴里

- 「セイヤ州 四小隊」
- 「巴里府 二小隊」
- 「セインドミール」一小隊
- 「セイヤ、エ、マール」州 五小隊
- 「メルン」
- 「クロージミキ」
- 「フジタース」
- 「プロダ」
- 「アン」

第二編隊 本部 「ヤルトル」

- 「エウル、エ、マール」州 四小隊
- 「ヤルトル」
- 「マヤトードン」
- 「ドル」
- 「ノッヤン、ル、ロ」
- 「トル」
- 「ヤルト州 四小隊」
- 「ラ、フレ、フ、シ、ユ」
- 「マ、メ、ール」
- 「セ、ト、ン、カ、レ、ト」

「ロアネ州 四小隊」キルレアム」「シアン」「モンタネロー」「ピサウキエー」

「チルヌ州 四小隊」アランソン」「モルターギユ」「アルシマンタン」「ドムフロム」

「セイス、アネ、エ、ロアネ州 五小隊」ルリアン」「ハーヴル」「ギエツプ」「ヌーシヤ」

「エウソル州 五小隊」ネガルー」「レリアンデリイ」「ケルチー」「ルオヴキエー」「ボシキエー」

「チアーズ州 六小隊」ボイヴェー」「クレルモン」「キエロトギユ」「サンリ」

「シムム州 五小隊」ア、聖、ア、ホ、ル」「ツトラム」「モネギキエー」「ボリヌス」

「カネ、ア、ド、州 六小隊」流、モン」「リシエー」「ペーユー」「フアレーズ」「ボンレヴェツ」

「シムム州 六小隊」セー、ン、ロー」「ヴァローギユ」「モルテーン」「ライタンヌ」「シエルプ」

「シムム州 六小隊」セー、ン、ロー」「ヴァローギユ」「モルテーン」「ライタンヌ」「シエルプ」

第四編隊 本部「カキ」

「カネ、ア、ド、州 六小隊」流、モン」「リシエー」「ペーユー」「フアレーズ」「ボンレヴェツ」

「シムム州 六小隊」セー、ン、ロー」「ヴァローギユ」「モルテーン」「ライタンヌ」「シエルプ」

「シムム州 六小隊」セー、ン、ロー」「ヴァローギユ」「モルテーン」「ライタンヌ」「シエルプ」

「シムム州 六小隊」セー、ン、ロー」「ヴァローギユ」「モルテーン」「ライタンヌ」「シエルプ」

「シムム州 六小隊」セー、ン、ロー」「ヴァローギユ」「モルテーン」「ライタンヌ」「シエルプ」

「シムム州 六小隊」セー、ン、ロー」「ヴァローギユ」「モルテーン」「ライタンヌ」「シエルプ」

「シムム州 六小隊」セー、ン、ロー」「ヴァローギユ」「モルテーン」「ライタンヌ」「シエルプ」

「シムム州 六小隊」セー、ン、ロー」「ヴァローギユ」「モルテーン」「ライタンヌ」「シエルプ」

「シムム州 六小隊」セー、ン、ロー」「ヴァローギユ」「モルテーン」「ライタンヌ」「シエルプ」

「シムム州 六小隊」セー、ン、ロー」「ヴァローギユ」「モルテーン」「ライタンヌ」「シエルプ」

「シムム州 六小隊」セー、ン、ロー」「ヴァローギユ」「モルテーン」「ライタンヌ」「シエルプ」

「シムム州 六小隊」セー、ン、ロー」「ヴァローギユ」「モルテーン」「ライタンヌ」「シエルプ」

「シムム州 六小隊」セー、ン、ロー」「ヴァローギユ」「モルテーン」「ライタンヌ」「シエルプ」

「シムム州 六小隊」セー、ン、ロー」「ヴァローギユ」「モルテーン」「ライタンヌ」「シエルプ」

「シムム州 六小隊」セー、ン、ロー」「ヴァローギユ」「モルテーン」「ライタンヌ」「シエルプ」

「シムム州 六小隊」セー、ン、ロー」「ヴァローギユ」「モルテーン」「ライタンヌ」「シエルプ」

「シムム州 六小隊」セー、ン、ロー」「ヴァローギユ」「モルテーン」「ライタンヌ」「シエルプ」

「シムム州 六小隊」セー、ン、ロー」「ヴァローギユ」「モルテーン」「ライタンヌ」「シエルプ」

「シムム州 六小隊」セー、ン、ロー」「ヴァローギユ」「モルテーン」「ライタンヌ」「シエルプ」

「シムム州 六小隊」セー、ン、ロー」「ヴァローギユ」「モルテーン」「ライタンヌ」「シエルプ」

「シムム州 六小隊」セー、ン、ロー」「ヴァローギユ」「モルテーン」「ライタンヌ」「シエルプ」

「シムム州 六小隊」セー、ン、ロー」「ヴァローギユ」「モルテーン」「ライタンヌ」「シエルプ」

「モリスアタ州」四小隊「ヴァンヌ」がナヴァ「ロッセン」「プロセルメ」

「ロッセン」又沿海警區「モリス」正小隊「ヴァンヌ」がナヴァ「ロッセン」「プロセルメ」

「モリス」第七編隊 本部「ツール」

「ヴァンヌ」州「モリス」州「正五編隊」ツール「モリス」州「モリス」州「モリス」州

「ロアル、エ、大、州」本五小隊「プロア」「ロモランタン」「ヴァンドーム」

「ヴァンヌ」州「モリス」州「ボアナエ」「シヴレー」「シヤートルロール」「ルードン」「モンモリ」

「モリス」州「モリス」州「正小隊」ツール「モリス」州「モリス」州「モリス」州

「ヴァンヌ」州 四小隊「シヤートル」「ル、ブラン」「イヌードン」「ラシヤートル」

「モリス」州 第八編隊本部「本編隊」ツール「モリス」州「モリス」州「モリス」州

「ヴァンヌ」州 四小隊「ナラン」「モンリユソン」「ガンナ」「ラ、パリツ」

「ヴァンヌ」州 五小隊「本編隊」ツール「モリス」州「モリス」州「モリス」州

「コネー」州 四小隊「シヴレー」「クラムシー」「シヤートル」「シノン」「コス」

「ヴァンヌ」州 三小隊「ブルシユ」「セー、アヌン」「サンセール」

「モリス」州 第八編隊本部「本編隊」ツール「モリス」州「モリス」州「モリス」州

「ヴァンヌ」州 四小隊「ヨール」「バルキヤ」「ラ、メ、キヤ」「ヴァンヌ」

「ヴァンヌ」州 三小隊「本編隊」ツール「モリス」州「モリス」州「モリス」州

「ヴァンヌ」州 六小隊「ラ、ロッシェル」「シヨンザック」「マランヌ」「ロツ」

「ヴァンヌ」州 六小隊「ラ、ロッシェル」「シヨンザック」「マランヌ」「ロツ」

「ヴァンヌ」州 六小隊「ラ、ロッシェル」「シヨンザック」「マランヌ」「ロツ」

「ヴァンヌ」州 六小隊「ラ、ロッシェル」「シヨンザック」「マランヌ」「ロツ」

「ヴァンヌ」州 六小隊「ラ、ロッシェル」「シヨンザック」「マランヌ」「ロツ」

「ヴァンヌ」州 六小隊「ラ、ロッシェル」「シヨンザック」「マランヌ」「ロツ」

「ヴァンヌ」州 六小隊「ラ、ロッシェル」「シヨンザック」「マランヌ」「ロツ」

「ヴァンヌ」州 六小隊「ラ、ロッシェル」「シヨンザック」「マランヌ」「ロツ」

「ヴァンヌ」州 六小隊「ラ、ロッシェル」「シヨンザック」「マランヌ」「ロツ」

「ヴァンヌ」州 六小隊「ラ、ロッシェル」「シヨンザック」「マランヌ」「ロツ」

「ヴァンヌ」州 六小隊「ラ、ロッシェル」「シヨンザック」「マランヌ」「ロツ」

「ヴァンヌ」州 六小隊「ラ、ロッシェル」「シヨンザック」「マランヌ」「ロツ」

「ヴァンヌ」州 六小隊「ラ、ロッシェル」「シヨンザック」「マランヌ」「ロツ」

「ヴァンヌ」州 六小隊「ラ、ロッシェル」「シヨンザック」「マランヌ」「ロツ」









千八百二十八年十二月二十八日ノ裁定ニ由テ憲兵ニ千四百人ノ減員アリ又千八百二十九年ヨリ千八百三十年ニ至ル間ニ於テ五十伍ヲ增加ス當時乘馬兵千八百伍(内六百伍ハ曹長之ヲ指揮ス)徒歩ハ五百伍アリ而シテ乘馬兵六百伍ノミ下士之ヲ指揮シ每伍兵卒六名ヲ以テ編成ス其他ハ伍長ヲ算入シテ五名トス

千八百三十二年六月十九日ノ布告ニ由リ陸軍省ハ千八百三十三年十月三日ヲ以テ各港及ヒ造船所警察ヲ爲メニ憲兵五中隊ヲ派遣シ之ヲ海軍大臣ノ直轄ニ屬セシメルニ決シテ其首要ナルモノヲ舉クレハ少佐ヲ指揮ニ屬スル中隊ノ數ヲ増シ千八百三十八年三月十六日ノ條例第三百七十七條ニ據リ八名トセシ計官大尉ノ定員ヲ更ニ増加シテ編隊ノ本部ニ一名トシテ配當シ又少佐ノ指揮ニ屬スル中隊ノ首部ニ在リテ大尉ヲ以テ小隊長トシセイヌ州ノ中隊ニハ軍醫副一名ヲ附シ且下副官ノ職務ヲ制定シテ巴里府ニ於テ各伍ノ勤務ヲ管理セシム第

十七編隊ニ統工長一名ヲ附シ更ニ第二十五編隊ヲ設置ス又千八百四十一年九月八日ノ布告ニ由リ地方憲兵隊ノ定員ヲ左ノ如ク改正ス大尉十八名中佐七名少佐三十九名中隊長大尉四十八名計官大尉二十五名小隊長大尉三十九名計官中尉六十一名小隊長中尉三百五十五名軍醫副一名下副官三名乘馬一等軍曹五百八十八名及ヒ二等軍曹千二百七十七名徒歩一等軍曹二百四十四名及ヒ二等軍曹五百四十七名統工長一名又實テ地方憲兵隊ノ定員ニ計官附屬一等軍曹ヲ設置セシモ幾何モ其クテ之ヲ廢シテ故ニ千八百四十一年ニ於テハ千八百二十年ニ此ニテ乘馬憲兵二百六十六伍及ヒ徒歩百十二伍ヲ増加セリ然レテ下士ノ指揮ニ屬スル乘馬兵ニハ六名ヲ以テ每伍ヲ編成シ其他ハ僅カニ五名ヲ以テ實際増加セシ兵員ハ千五百五十五名ニ過ラズ斯クテ數ヲ増シタルモノハ千八百三十年ノ革命屆人心惻々各其業ヲ變セザルヲ以テ王路易非立第一世即位ノ初年ニ於テ佛國西部ノ諸州ニ著シク憲兵ヲ増加セシメ因ルナリ千八百三十三年十月一日陸軍省ノ裁定ニ由リ第四第五第六及ヒ第九編隊ニ於テハ臨時分屯所百四十四ヲ所ヲ設置シ其下士二等軍曹

及徒步憲兵ヲ常備屯伍ニ編入シ且前年十年三月以共解隊ニシテ憲兵  
 隊ノ動員三大隊ヲ加ヘリ又千八百九十三年四月二十三日ノ布告ニ由リ臨時  
 經費百四十萬六千法以テ多數ノ徒步及乘馬憲兵ヲ臨時召集シ千八百  
 九十年於ル如ク徒步憲兵六百伍ヲ設置セシ然レ共千八百九十五年ヨリ千八百  
 四十年至ル五十年間ニ於テ其數漸ク減少シ千八百四十年四月ノ調査時  
 據ニ依リ十八州ニ部署セテ憲兵ハ總力ニ乘馬夫三伍(臨時募集)徒步憲兵(通過  
 等)而シテ多ク及テ千八百九十一年國境ニ配置シテ五百六十以重百六十之計  
 千八百九十四年九月八日ノ現員ヲ比シテ僅力ニ三十五名ノ増加内四十五  
 然レ共千八百九十五年四月十日ノ布告ヲ以テ夏ニ於テ四百名ヲ増加セシ其  
 故ニ憲兵隊員全員ハ此計至リテ千八百九十五年六月迄多ク差違セリ其内  
 士官五百九十五人ヲ除テ憲兵隊中四百四十八人ヲ以テ乘馬憲兵所九百五十五  
 伍徒步憲兵八百伍員ニ配當シ而シテ乘馬兵六百伍伍員在リテ憲兵率六名ヲ以  
 テ兵伍員編成シテ士官力指揮ヲ任シ他軍兵三百伍伍員以テ編成シ二等  
 軍曹總指揮及徒步各伍ハ五名計又成置謀百六十五等軍曹ヲ以

テ伍長トシ他ノ五百三十四伍ヲ指揮セリ二等軍曹ニ任セリ千八百四十七  
 年四月十一日ノ布告ニ由リ九千九百八十八法ノ臨時費ヲ以テ憲兵  
 千人ヲ増加シ以テ乘馬憲兵百三十二伍(内四十四伍ハ六名八十八伍ハ五名ヲ  
 以テ一伍トス)徒步憲兵五十九伍(各伍ハ五名ヲ以テ編成ス)ヲ設置セリ又同年  
 十一月十八日ノ布告ニ由リ「セオニス、エチア、ノ州」ノ憲兵中隊ニ於テハ計官及  
 以小隊長十二人ノ職務ヲ大尉ニ委任シ千八百五十年七月二十九日ノ布告ハ  
 實ニ經費定額ヲ増加シテ憲兵分屯所ノ設ケナキ各區ハ一ヶ所ヲ以テ設置セ  
 リ即チ最初ノ決議ヲ以テ二百三十一伍(乘馬兵百五十四伍徒步兵七十七伍)ヲ  
 新設シ次ニ各區ニ一伍ヲ設置スヘキ規則ヲ實施セリ千八百四十八年ノ革命  
 後ニ於テ人心恟々タリシモ此計於テ稍ヤ靜穩ニ歸スルヲ得タリ  
 千八百二十年發布シテ憲兵採用規則ハ千八百十八年八月二日之ヲ制定セシ以  
 來未ダ改正ヲ加ヘザルモ今年十月二十九日ノ布告ヲ以テ兵役四年以上ノモ  
 ノハ憲兵志願者タルヲ許可セリ  
 進級規則ハ依然トシテ變更セシ所ナシ但改正條例ニ據リテ計官中尉ニシテ

既ニ大尉ニ昇級スルモ尙ホ計官ノ職務ニ任ズルヲ得ズ然レモ其人員ハ各管區ニ一名トス且ツ計官大尉ハ必ス其編隊ノ本部ニ駐在スヘキモノト定メタリ千八百二十一年十一月十五日ノ裁定ハ千八百十八年八月二日ノ條例第九十五條ヲ改正シ乘馬中隊長ノ進級ハ拔擢ニ因ルモノト定メタリ千八百二十年十月二十九日ノ布告第三十一條ノ明文ニ據リ憲兵士官下士及ヒ兵卒ハ其直チニ上級ナルモノ、列次ニ就クヲ得タリ然ルニ此規則ハ千八百三十二年四月十四日ノ布告第二十一條ヲ以テ之ヲ廢シタリ曰ク尙レノ場合ニ在リテモ其現職ノ位階ヨリ上位ノ列次ニ就クヲ得スト又千八百二十年十月二十九日ノ布告第三十五條ニ由リ憲兵士官下士及ヒ兵卒ニシテ滿十年以上其兵科ニアルモノハ其上級ノ位階ヲ以テ退職スルヲ得タリ然レモ此特典ハ千八百三十年四月十一日ノ法令第十條ヲ以テ廢止セララル但シ該條款ニ據レハ恩給ハ軍人現職ノ官等ニ準シ之ヲ支給スト云又其第十一條ニ由リ憲兵卒ハ服役十二年以上ニ至レハ各兵種ノ士官下士二等軍曹ノ十二年以上勤績セシモノ、恩給五分ノ一ヲ増加セラルヘキ特典ニ預リタリ又千八百四十

一年一月二十日ノ布告ニ由リ下士二等軍曹及ヒ憲兵卒ハ憲兵隊附ヲ命セシ后昇給セサレハ其恩給ハ曾テ師團ニ在リシキノ官等ニ比シテ給與セリ近衛憲兵士官ハ千八百五十七年六月十七日ノ布告第八條ニ由リ六ヶ年間其官職ニ在ルモノハ退職ノ際級一等ヲ進ムルヲ得タリ然ルニ千八百七十年九月四日近衛兵ヲ解隊セシ以來此ノ特典モ共ニ廢止ニ屬シタリ千八百二十年十月二十九日發布ノ憲兵採用格例ハ千八百三十八年三月十六日ノ布告(千八百三十二年四月十四日ノ法令實施規則)ヲ以テ聊カ改正ヲ加ヘ更ニ之ヲ採定シ凡ソ其所屬兵科ノ如何ヲ問ハズ又常備預備若クハ免役兵タルモノモ既ニ三年間兵役ニ服シ且年齡身幹品行共ニ合格ノモノハ憲兵卒タルヲ得タリ但年齡四十五年ニ至ルマテ服役ヲ許サ、ルハ單ニ舊憲兵ノミニ限レリ

師團兵ノ下副官歩兵曹長若クハ騎兵曹長ニシテ一ヶ年以上服役ノモノハ若干員ヲ限リ憲兵二等軍曹ノ職ニ就カシム  
憲兵中尉ニ缺員アルキハ其三分二ハ之ヲ師團ノ中尉ニ取ル但シ是ハ年齡二

十五年以上四十年以下ニシテ在職一ケ年以上ノモノニ限ル面シテ此中尉ハ計官ノ職務ニ任スルヲナシ改正條例ニ據レハ計官附ハ憲兵一等軍曹ニ限レリ又師團兵ノ大佐ヨリ憲兵編隊長ニ轉任スルモノモ其法ハ上ニ異ナルナシ千八百三十八年以後ニ於テモ憲兵ハ尙ホ諸兵科ヨリ徵集セリ但其採用規則ニ改正ヲ加ヘン所アルノミ

第一 千八百五十四年三月一日ノ布告ヲ以テ憲兵ノ身長ヲ乘馬兵ハ一米突七十二徒歩兵ハ一米突七十ニ定メシヲ千八百六十七年十月七日ノ勅令ニ於テ乘馬兵ヲ一米突七十一徒歩兵ハ一米突六十九ニ減シ更ニ千八百七十二年十月九日ノ大統領ノ裁定ニ因リ乘馬兵ヲ一米突七十徒歩兵ヲ一米突六十八ニ減シ且有階著又ハ身體強壯ナルモノハ制規ノ身長ニ一珊知米突不足セルモ尙ホ之ヲ採用セリ又千八百七十八年十月二十一日以後ハ以上二兵科共ニ其身長ヲ一米突六十六ニ定メタリ

第二 千八百六十一年十月二日ノ勅裁ニ由リ現役下副官ハ憲兵一等軍曹タルヲ得タリ

第三 憲兵中尉ニ缺員アルキ其三分二ハ師團兵ノ中尉ヲ以テ補缺セリ然ルニ千八百五十一年十二月二十二日ノ布告ハ更ニ其數ヲ三分一ニ減シ且憲兵大尉ノ缺員四分一ハ他兵科ノ大尉ヲ以テ補缺スルヲ定メ但シ其大尉ハ年齡三十歳以上四十年以下ニシテ在職二年以上タルヲ要ス然ルニ千八百六十年一月一日ノ勅裁ニ由リ其二年ニ改メ

第四 師團兵ノ少尉ハ千八百七十年三月十六日ノ勅裁ニ由リ憲兵少尉ノ補缺員タルヲ得ルヲ猶ホ中尉ニ於テ如シ又千八百三十一年八月十二日ノ布告ニ憲兵少尉ハ計官ノ職務ニ就クヲ得タリシカ千八百三十八年三月十六日ノ布告ヲ以テ之ヲ廢止セリ

第五 千八百六十一年十月一日ノ勅裁及ヒ全年十月二十八日ノ省達ハ千八百五十一年三月一日ノ布告ニ反シ師團兵ノ士官ヲ以テ憲兵ノ計官ニ任スルヲ制ニ復シタリ

第六 騎兵大佐ヲ以テ憲兵編隊長ヲ補缺スルハ千八百五十一年十二月二十二日ノ布告第六條及ヒ千八百五十四年三月一日ノ布告第六十二條ヲ以テ缺

員五分一制限セシカ千八百七十三年七月二十一日の布告ヲ以テ之ヲ全廢  
 以來憲兵中佐ヲ以テ大佐ノ職務ニ任シタリ  
 第七ニ憲兵ハ其徵集ノ至難ナルヲ以テ千八百五十五年十月十日ノ勅令ニ由  
 リ徒歩及ヒ乘馬諸兵科ヨリ年齡二十五歳ニシテ服役十八ヶ月以上ノモノヲ  
 撰ビ之ヲ憲兵生徒トシ以テ憲兵ノ補缺員ヲラシム該生徒ハ其身長教育及ヒ  
 品行ニ關シテハ千八百五十四年三月一日發布ノ條例ニ合格スヘキヲ要ス蓋  
 シ此及如該方法ガ既ニ其以前ニ於テ屢々之ヲ實施セシカ千七百九十二  
 年ニ於テ各伍ニ見習生ヲ置キ以テ八月二十六日及ヒ三十七日ニ國境ニ派遣  
 セリ憲兵ノ補缺員ヲモハリ又千八百五十二年三月二十六日ノ布告ニ於テ新兵  
 中衣食及ヒ屬具自辨出ルルヲ撰拔シテ憲兵生徒トシ各憲兵屯伍ニ在テ  
 四年間服役シテ以テ之ヲ憲兵ニ採用セシカアリ然レニ千八百十四年七月  
 八日布告ヲ以テ終ニ之ヲ廢シ千八百三十年十二月三十日ノ省達ヲ以テ大ニ募  
 集規則ヲ緩キシ乘馬憲兵トシテ各伍ニ編入シ一伍ニ一名ノ割合ヲ以テ補缺  
 員ヲ養成セリ又千八百三十二年十月二日ノ省令ニ由リ制規ヲ身長一米突七

三三八ニ四半密里米突短キモ之ヲ採用シ乘馬憲兵ニモ亦其補缺者ヲ設ケタ  
 又千七百七十八年四月二十八日ノ布告第一編第三十一條ニ補缺者ノ數ヲ總  
 司憲ノ駐在所ニハ四名中尉ノ駐在所ニハ二名ト定メ降テ千八百七十年八月  
 二十日更ニ省達ヲ發シ諸隊ノ憲兵補缺センカ爲メニテ服役六ヶ月以上ノ  
 モノニ制規及ヒ身長ニ二三珊知米突短キモ補缺憲兵ニ採用セリ千八百七十  
 一年二月十四日ノ布告ハ曾テ軍人ヲリシモノ及ヒ年齡四十五年以上六十年以  
 下ノ退職下士ニ等軍曹并ヒ憲兵卒及中尉リ補缺者ヲ撰拔シ以テ臨時憲兵伍  
 ヲ編成セリ然ルニ以上ノ募集法ヲ千八百七十年三月二十七日ヲ以テ之ヲ  
 停止セリ  
 第八ニ他兵科ヨリテ憲兵ニ志願者アルモノハ年齡及從前之ヲ制限設ケテ  
 リシカ千八百六十三年三月三十一日及ヒ千八百七十二年七月二十一日ノ省  
 令ヲ以テ之ヲ確定シ步兵曹長又ハ騎兵曹長并ヒ憲兵ニ等軍曹ノ候補者ハ  
 三十二年下副官ニシテ憲兵曹長及中尉ニシテハ三十五年中少尉ニシテ管區  
 長又ハ計官ヲ轉スルモノハ三十四年大尉ニシテ憲兵大尉タルヘキモノハ三

十六年正定ヲアリ然ルニ今日幸在千八百七十八年九月三十日ノ省令ニヨリ他兵科中少尉ハ二十五年以上三十六年以下大尉ハ二十五年以上四十年以下ト定メ而シテ少尉ハ在職一年以上ヲ要シ中尉大尉ハ其新故ヲ論セザルコトヲ定メ而シテ六十三年三月三十一日及千八百九十三年三月三十一日ノ進級令ハ千八百九十三年四月廿四日ノ法令ヲ以テ其停年ノ制限著シキ改正加ヘタルモ其他ハ總テ變更セシ所ナシ少尉及ヒ中佐ハ改正條令ニ因テ大利益ヲ得タリ蓋シテ從前ノ進級法ハ據ルハ中佐ハ停年四年ナリシト更ニ二年差減ヲ全日在職ハ少尉亦其停年ノ三年差減ヲ以テ但中佐ハ千八百三十七年以前在職ニ其進級速カナリシ千八百三十八年三月十六日ノ布告第三百八十八條ニ因テ大中佐ノ員數ヲ一定セカ故ニ中佐ハ其缺員ヲ待テ進級スル旨至レバ爾來二十年間缺員アレハ二十年ヲ以テ進級ヲ得タリシカ爾后檢閱條令ヲ發布アリ爲メニ進級上ニ滯滞ヲ來タセリ而シテ其拔擢進級ハ猶モ他兵科ノ將校ニ於テ如ク又中佐ハ進級名簿ノ順序ヲ以テ大佐ニ異級スル例甚多ク其間ハ中佐ニ於テ亦其停年ノ三年差減ヲ以テ進級スル

千八百五十四年三月十日ノ布告ヲ以テ二等軍曹及ヒ一等軍曹ノ候補者ハ其停年差減ヲアリ此布告ハ千八百五十一年十二月二十二日ノ條例ニ照シ各州駐在ノ憲兵編隊ニ於テ其階級順序ヲ定メ各編隊ハ下副官曹長及ヒ幼年兵ヲ設置シ全時并再計官附一等軍曹ヲ置キ而シテ其條例ハ逐次裁定ヲ經テ之ヲ完全ナクシ以テ今日憲兵ノ編制募集及ヒ進級ニ關スル一大法典ヲ得タル以上ノ諸條例ニ準ヒ憲兵ハ今日之ヲ他兵科ヨリ募集シ又其一部隊ニ在テ他兵種ヨリ一等軍曹少尉中尉及ヒ大尉管區長并計官ヲ取テ之ニ任及リ但憲兵曹長下副官少佐中佐大佐ハ缺員ヨリ特ニ憲兵ヨリ補缺スルヲ例トセリ

千八百二十年十月二十九日ノ布告ハ憲兵隊ヲ二十四編隊ニ編成シ千八百四十年四月三十日ノ布告ヲ以テ更ニ之ヲ改正シ「ハ」及ヒ「オ」レン「フ」ニ中隊ヲ以テ第二十五編隊ヲ編成シ「ス」ト「ラ」ニ「ガ」リ「ル」ヲ本部トシ第二十第二十二及ヒ第二十五編隊ハ之ヲ左ノ各地ニ設置セリ

第二十編隊



第二十二編隊「ハイルト」グロスマ「サウト、マルス」

第三十五編隊「サト、ビシ」

第二十五編隊ハ千八百六十年六月九日ノ勅令ヲ以テ其編成ヲ改正セリカ故  
キ第三十編隊及ヒ第三十五編隊ハ左ノ如ク編成セリ  
千談二十十編隊「ド十」  
モ第三十五編隊「バー、レン」チー、レン「チート、ソース」

千八百五十九年十月十四日ハ本統領ヲ布達シ以テ第十七編隊ト泰然四中  
隊ニ區分ス其第十七及ヒ第三中隊ハ小佐之ヲ指揮シ第二及ヒ第四中隊ハ大尉  
ヲ以テ之ヲ指揮シ任ス第十中隊ニハ計官大尉ヲ附シ餘ハ第三中隊ハ中尉若ク  
ハ少尉ヲ以テ計官ヲ職務ヲ負擔セシメ各中隊ニ於テ中尉又ハ少尉ハ麾下ニ  
テハ首座駐在ニ補充兵「コル」島各地ノ屯伍(七名乃至十名)ヲ以テ編成ス又  
「バスチア」ヲ以テ該編隊ノ本部トシ第二及ヒ第三中隊ハ大尉ヲ以テ第一小隊  
ヲ指揮任ス  
第六中隊ハ本部「バスチア」五小隊「バスチア」  
第七中隊ハ本部「バスチア」五小隊「バスチア」

第三中隊 本部「バスチア」四小隊「コルト」  
第四中隊 本部「バスチア」四小隊「アツヤシチ」

第四中隊 本部「サルト」五小隊「サルト」  
千八百五十九年伊國ノ役中「サル」  
條約ヲ以テ「サウナア」ト「ニス」ヲ佛國ニ讓與セリ此ニ於テ之ヲ「サウナア」  
「サト」  
「及ヒ」ト「ス」ヲ以テ首府トス又「アル」  
離セシ「グラツ」郡ト「ニ」  
以上三ヶ所ノ憲兵中隊ハ千八百六十年四月十一日全年六月九日ノ勅令及ヒ  
全年全月二十一日全年十月三十日ノ省令ヲ以テ之ヲ設置ス「サウナア」及  
ヒ「チート」  
二百五十一

ニ編入シテ第二十六編隊ヲ作り「アルプマリチー」ノ中隊ハ之ヲ第十六編隊ニ編入シ以テ第十六第十八第二十六編隊ヲ左ノ如ク編成セリ

第十六編隊 本部「マルセイユ」

「ブリスニ、ワマ、ロ、」ニ六管區若クハ小區「マルセイユ」「チーハーギユ」「エークス」

「グロニ」「チー」ニ四管區若クハ小區「グロニ」「チー」

「グロニ」ニ四管區若クハ小區「グロニ」「チー」

「グロニ」ニ四管區若クハ小區「グロニ」「チー」

「グロニ」ニ四管區若クハ小區「グロニ」「チー」

「グロニ」ニ四管區若クハ小區「グロニ」「チー」

「グロニ」ニ四管區若クハ小區「グロニ」「チー」

「グロニ」ニ四管區若クハ小區「グロニ」「チー」

「グロニ」ニ四管區若クハ小區「グロニ」「チー」

「グロニ」ニ四管區若クハ小區「グロニ」「チー」

「グロニ」ニ四管區若クハ小區「グロニ」「チー」

「グロニ」ニ四管區若クハ小區「グロニ」「チー」

「グロニ」ニ四管區若クハ小區「グロニ」「チー」

「グロニ」ニ四管區若クハ小區「グロニ」「チー」

「グロニ」ニ四管區若クハ小區「グロニ」「チー」

「グロニ」ニ四管區若クハ小區「グロニ」「チー」

「グロニ」ニ四管區若クハ小區「グロニ」「チー」

「グロニ」ニ四管區若クハ小區「グロニ」「チー」

「グロニ」ニ四管區若クハ小區「グロニ」「チー」

「グロニ」ニ四管區若クハ小區「グロニ」「チー」

「グロニ」ニ四管區若クハ小區「グロニ」「チー」

「グロニ」ニ四管區若クハ小區「グロニ」「チー」

「グロニ」ニ四管區若クハ小區「グロニ」「チー」

「グロニ」ニ四管區若クハ小區「グロニ」「チー」

「グロニ」ニ四管區若クハ小區「グロニ」「チー」

「グロニ」ニ四管區若クハ小區「グロニ」「チー」

「グロニ」ニ四管區若クハ小區「グロニ」「チー」

「グロニ」ニ四管區若クハ小區「グロニ」「チー」

「グロニ」ニ四管區若クハ小區「グロニ」「チー」

「グロニ」ニ四管區若クハ小區「グロニ」「チー」

「グロニ」ニ四管區若クハ小區「グロニ」「チー」

「グロニ」ニ四管區若クハ小區「グロニ」「チー」

千八百五十二年二月十九日及ヒ二十九日ノ布告ヲ以テ之ヲ改正シ第十七編隊ノ第二中隊第四中隊及ヒ亞非利加編隊ノ第二中隊ニ限リ大尉ヲ以テ其指揮ニ任ス憲兵幹部ノ總員ハ大佐十九名中佐七名少佐九十名中隊長大尉三名計官大尉二十七名小隊長大尉二百二十九名計官中尉六十六名小隊長中尉百九十三名軍醫副一名下副官二十六名乘馬曹長六十五名乘馬一等軍曹七百二十六名乘馬二等軍曹千六百三十五名徒步曹長三名計官附屬一等軍曹九十三名徒步一等軍曹三百九十七名徒步二等軍曹七百三十六名銃工長二名幼年兵四百六十五名トス之ニ第十七編隊及ヒ亞非利加編隊ノ兵員ヲ算入スレバ其將校ヲ併セテ總員一萬九千九百四十七人トナレリ

憲兵一小隊ハ従前ノ如ク一管區ノ憲兵ヲ以テ編成シ管區廣濶ニ過クルモノハ更ニ之ヲ小區ニ區分ス

千八百五十一年十二月二十二日ノ布告並ニ千八百五十二年二月十九日及ヒ二十九日ノ布告中大尉ノ指揮ニ屬スル小隊及ヒ其二小區ニ區分スヘキモノニ關シテハ千八百五十二年三月二十二日千八百五十三年八月七日及ヒ千八

百五十四年八月二十九日ノ諸布告ヲ以テ之ヲ完成セリ且ツ舊小區ヲ廢シ更ニ新小區ヲ設置ス其數ハ千八百五十四年八月二十九日ノ布告ヲ以テ制定セシモノニ全シ

千八百五十四年二月二十八日ノ布告ヲ以テ編隊長附書記二等軍曹二十六名ヲ設置セリ

同年三月一日發布ノ憲兵條例ヲ以テ更ニ憲兵隊ヲ改設シ以來小隊ノ名稱ヲ廢シ管區ヲ以テ之ニ代ヘ又小隊長タル大尉及ヒ中少尉ハ之ヲ管區長ト改稱セリ

佛國西部ノ憲兵伍ハ其數甚ク多キヲ以テ千八百五十四年既ニ之ヲ減シ更ニ千八百五十六年六月七日ノ布告ヲ以テ他所ノ定數ニ準スルヲ得タリ翌年ニ至リ若干ノ管區及ヒ屯伍ノ位置ヲ變換シ乘馬兵一伍ニ付徒步兵二伍ノ割合ニ定メタリ

「ユルス」島ノ憲兵隊ハ千八百六十年二月十一日ノ勅令ヲ以テ其屯駐ト編成ヲ改正シ「ユルス」及ヒ「サルデーヌ」ノ補充兵ヲ廢シ「セント・マリ」ト「エシツシエ」ヲ

及ビ「ル」ガ「井」ノ「管」區ハ其首部「グ」ツ「ス」ト「ガ」カ「ト」ヨ「キ」及「ビ」セ  
 「ト」ノ「リ」ユ「シ」「ハ」ル「テ」ノ「諸」地ニ移シ第十七編隊附ノ士官下士二等軍曹憲  
 兵卒幼年兵ヲ九百二十八名馬匹ヲ百八十五頭ト定メ其幹部ハ聯隊長大中佐  
 一名少佐二名中隊長大尉二名管區長大尉二名中少尉十六名計官大尉一名中  
 少尉三名下副官一名曹長一名一等軍曹九名二等軍曹十八名憲兵卒百二十七  
 名以上乘馬曹長二名計官階屬三等軍曹四名一等軍曹六名八名編隊長附書記  
 二等軍曹一名二等軍曹七十七名憲兵卒五百七十一名以上徒步銃工長二名幼  
 年兵七十名有セリ  
 千八百六十四年六月十五日ノ勅令大尉「シ」「ハ」大「オ」ア「及」ビ「ア」ガ「シ」ヲ「メ」補充兵  
 大解散セシム猶ホ千八百六十年ノ「コ」ル「ス」及「ビ」サル「テ」ニ「ス」ノ補充兵ニ於ルカ  
 如ク「シ」テ「ハ」千八百六十八年ノ「コ」ル「ス」及「ビ」サル「テ」ニ「ス」ノ補充兵ニ於ルカ  
 千八百六十七年三月二十八日ノ勅令ヲ以テ第十八編隊ヲ更ニ二中隊ニ復シ  
 少佐ヲ以テ之ガ指揮ニ任シテ其全員九百〇一名ハ六百三十名ニ減シ  
 幹部ハ本國憲兵中隊ト其數ヲ等シテ唯之ニ三名ノ銃工長ヲ增加セルヲ「ミ」又

分屯所ノ兵員ヲ五名乃至九名トシ徒步及ヒ乘馬憲兵ヲ以テ混成屯伍ヲ編成  
 セリ爾來「コ」ル「ス」島駐在憲兵ノ編制ハ專ラ千八百二十年十月二十九日ノ條例  
 ニ基ツキタリ第一中隊首部「バ」ス「チ」ア「バ」ス「チ」ア「コ」ル「ト」カ「ル」ヅ「井」ウ「エ」ス「コ」ヅ「ア」  
 ト「ビ」エ「ヂ」ク「ロ」ス「ア」リ「エ」チ「リ」ノ各管區長大尉二名中少尉ノ内四名第二中隊  
 首部「ア」シ「ヤ」シ「ヨ」ア「シ」ヤ「シ」ヨ「サ」ル「テ」ニ「ス」グ「ロ」ツ「セ」ツ「ウ」井「ユ」ホ「ニ」フ「ア」シ「ヨ」ノ  
 各管區長大尉二名中少尉ノ内三名  
 千八百六十八年十二月四日ノ省令ハ所管ノ首府ニシテ未タ徒步憲兵ヲ署カ  
 サル各地ニハ一伍ヲ設置スルノ計畫ヲ以テ先ヅ二十二ヶ所ノ首府ヨリ其設  
 置ニ着手セリ  
 千八百六十九年九月二十五日ノ勅令ヲ以テ下士ノ指揮ニ厲スル乘馬憲兵伍  
 ハ六名ヲ五名ニ減シ乘馬憲兵二十五ヲ改メテ徒步憲兵五十伍ヲ作り更ニ徒  
 歩憲兵二十伍ヲ新設セリ  
 千八百六十九年十月十五日ノ勅令ニ由リ千八百七十年一月一日以後ハ各編  
 隊ハ同所ノ師管ヨリ其兵ヲ徵集シ師管ノ首府ヲ以テ編隊長ノ駐在地ト定ム

此ニ於テ師管ト編隊トハ其番號チ一ニスルヲ得タリ然レモ第一第八第九及  
ビ第十六師管ハ其區域甚ダ廣大ナルヲ以テ其各師管ニ限リ憲兵二編隊ヲ設  
置セリ千八百六十九年十月十五日ノ裁定其他改正新設等アリシガ故ニ地方  
憲兵隊ハ稍々従前ノ編成ヲ變シ千八百七十年四月ノ調査ニ據レバ其編成即  
チ左ノ如シ

第一編隊 本部 巴里

「セイヌ」州 小區長大尉七名即チ巴里府ニ二名  
「セーンド」ニ一名 「クルブ」ヴオアトニ一名 「ヴァンサンヌ」ニ一名 「モ  
ントルー」シユニ一名  
「セイヌエチアーズ」州 管區長又ハ小區長大尉五名 中尉三名 「ヴェルサイ  
ユ」セーノン「マエルマン、アン、レイ」コルベイエ「ランブイエ」ボントアーズ「モンモ  
ラムシ」エタン「マント」  
「チアーズ」州 管區長大尉三名 中尉一名 「ボーヴェ」サンリ「コンピエーギ  
ユ」クレルモン

「セイヌ、エ、アルヌ」州 管區長大尉三名 中尉二名 「メロン」フチン「チヌ」プロ

「モー」クロン「ミエ」プロヴァン

第二十三編隊 本部 「ナルレアン」

「ロアレ」州 管區長又ハ小區長大尉三名 中尉二名 「ナルレアン」シアン「モン

タル」ヨ「ボー」シキレシ「ピチ」ヴ「ユ」

「エウール、エ、ロアール」州 管區長大尉三名 中尉一名 「シヤルトル」シヤト

ドン「ドル」ノ「フレ、ル、ロトル」

「チープ」州 管區長大尉一名 中尉四名 「トロアユ」パール、シユール「セイヌ」バ

「ル、シユール、チープ」アルシ「シユール、チープ」ノ「シヤンシユール、セイヌ」

「イチンヌ」州 管區長大尉三名 中尉二名「チーゼール」シヨア「ギ」サンヌ「ア

ヴァロン」トニ「チール」

第二編隊 本部 「ルーアン」

「セイヌ、アン」フユリユール「州」管區長又ハ小區長 大尉三名 中尉二名 「ル

リアン」イーヴトル、ハーヴル「チエツ」エルブ「フ」ヌー「シヤ」テル

「エウル州」 管區長大尉三名 中尉二名「エヴルー」「ルーヴ井エ」「ボンチードメー  
ル」「レリ、アンデリー」「ベルチー」

「カルヴァドー州」 管區長大尉三名 中尉三名「カエン」「ペーユー」「リジュー」「フア  
レーズ」「ボンレヴエツク」「ヴ井ール」

「チルス州」 管區長又ハ小區長大尉三名 中尉二名「アランソン」「モルターニユ」  
「アルシヤヤンタン」「レীগル」「ドンフロン」

第三編隊 本部 「リユー」

「ノール州」 管區長又ハ小區長大尉五名 中尉三名 「リユー」「ツエ」「ヴァラン  
シヤンヌ」「カンブレ」「ドンケルク」「ルーペー」「アヴエヌヌ」「ハズヴルーク」

「パード、カレド州」 管區長大尉三名 中少尉ノ内三名 「アルラ」「ブローローギユ」  
「セーシメール」「セーシポール」「モントルイユ」「ベチユーヌ」

「ソナム州」 管區長大尉三名 中尉二名 「アシヤン」「アブベヴ井ーユ」「ペロンヌ」  
「モンチヂエー」「ツールラン」

第四編隊 本部「シヤードロン、シエール、マルス」

「マルス州」 管區長又ハ小區長大尉三名 中尉三名 「シヤードロン」「レイム」「エペ  
ルチト」「セザンヌ」「ヴ井トリール、フラシソアー」「セーシメーヌウール」

「エースヌ州」 管區長又ハ小區長大尉三名 中尉三名「ラチン」「セーシカンタン」  
「ソアツソン」「シヨニー」「シヤトーチエリー」「ヴェルヴァン」

「アルダンヌ州」 管區長大尉三名 中尉二名「メヂエール」「レテル」「セダン」「ロクロ  
アー」「ヴーシエー」

第五編隊 本部「メツス」

「モゼール州」 管區長大尉三名 中尉一名「メツス」「チチンヴ井ール」「サールヴミ  
ルヌ」「ブリー」

「ムーズ州」 管區長大尉三名 中尉一名「パール、ル、ヂユツク」「コンメルシー」「ヴエ  
ルドン」「モンメヂー」

「ムールト州」 管區長大尉三名 中尉二名「ナンシー」「リユチヴ井ール」「ツール」「シ  
ヤートー、サラン」「サールプール」

「ヴォズマユ州」 管區長大尉一名 中尉四名「エビナール」「ミールクール」「ヌーシ

「ヤト」セーン、ヂエ「ルミールモン」

第六編隊 本部「ストラスプール」

「パリラン」州 管區長大尉三名 中尉一名「ストラスプール」シユレスタット「ウ  
井センブール」サヴェルヌ

「チーラシ」州 管區長又ハ小區長大尉三名 中尉一名「ユルマール」ミユルウー  
ズ「ペールファオール」セーシール「イ」

第七編隊 本部「ブザンソン」

「ツープ」州 管區長大尉三名 少尉一名「ブザンソン」ボーム、レーダーム「モンペ  
リヤール」ボンタルリエ

「シユエラ」州 管區長大尉二名 中尉二名「ロン、ル、ソーニエ」ドール「ポリギー」セー  
ンクロード

「チートマルヌ」州 管區長大尉二名 中尉一名「シヨールモン」ラングル「ヴァシー」  
「チート、ソーヌ」州 管區長大尉三名 少尉一名「ヴェズール」グレー「リユール」

第八編隊 本部「リヨン」

「ロース」州 管區長又ハ小區長大尉二名 中尉二名「リイヨン」ヴヰールフラン  
「ヌ」ヴオール「タラール」

「ロアール」州 管區長又ハ小區長大尉三名 少尉一名「セーリントン」テナヤンヌ「モン  
ブリソン」ロアール「リイヴ、ド、ヂエ」

「ドローム」州 管區長又ハ小區長大尉三名 中尉二名「ブリヴァ」ツールノン「チ  
ル」ヤンチエール「アンノチー」チーブナ

第二十四編隊 本部「ヂシヨン」

「コト、ドール」州 管區長又ハ小區長大尉三名 中尉二名「ヂシヨン」スミユー  
ル「ボーヌ」イヌ、シユール、チーユ「シヤチー」ヨン、シユール、セイヌ

「ソーヌ、エ、ロアール」州 管區長大尉四名 中尉一名「マールソン」シヤールンシユ  
ール、ソーヌ「シヤロル」チートン「ルーハン」

「エーソン」州 管區長大尉三名 中尉二名「ブール」ベルレイ「トレヴー」ナンチア「シ  
エクス」

第九編隊 本部「マルセイユ」

「グーシュ、シユロース州」 小區長大尉三名 中尉三名「マルセイユ」「エノクス」「アルト」「ラーバーニユ」「サロン」「タラスコン」

「ヴォークリコーズ州」 管區長大尉三名 中尉一名「アヅ井ニヨン」「ナランジュ」「カルパントラ」「アプト」

第二十五編隊 本部「ニース」

「アルプ、マリチーム州」 管區長又ハ小區長大尉一名 中少尉ノ内三名「ニース」「マントン」「ピユシエテニエ」「グラリス」

「ヴァール州」 管區長又ハ小區長大尉三名 中尉二名「ドラギニアン」「プリニョール」「ツィロン」「フレシユ」「イユール」

「バースアルプ州」 管區長又ハ小區長大尉二名 中尉四名「ヂーギユ」「フォルカルクキエー」「リエー」「システロン」「バルスロン」「チット」「カステルラーヌ」

第十編隊 本部「モンペルリエ」

「ペロール州」 管區長又ハ小區長大尉三名 中尉三名「モンペルリエ」「ベヴェール」「ロデーヴ」「セツト」「ベダリユ」「セトンボン」

「アヴェイロン州」 縦區長大尉三名 中尉二名「ローデ」「ウ井ール」「フランシユ」「ルロイ」「エヌバ」「ナシ」「セ」「フ」「ツ」「ク」「ガール州」 管區長大尉二名 中尉一名「マンド」「マルヴヨール」「フロラック」

第十一編隊 本部「ベルビニヤン」

「ピレネーナリヤンタール州」 管區長大尉二名 中尉一名「ベルビニヤン」「セレン」「アラード」

「アリエーシュ州」 管區長大尉二名 中尉一名「フチアー」「バルミエー」「セインジロン」

「チード州」 管區長大尉三名 中尉一名「カルカソンヌ」「ナルボンヌ」「リムー」「カステルヌーヴ」

第十二編隊 本部「ツールーズ」

「チート、ガロンヌ州」 管區長大尉二名 中尉二名「ツールーズ」「セインゴーマン」「ウ井ール」「フランシエ」「ミユレ」



「タルチガロンヌ」州 管區長大尉二名 中尉一名「モントーバン」「カステルサラザン」「モアサック」

「ロー州」 管區長大尉二名 中尉一名「カチール」「フ井オヤック」「グールドン」

「タルヌ州」 管區長大尉二名 中尉三名「アルビー」「カストル」「プラサック」「ラヴオ」

「ガイヤック」

第十三編隊 本部「ペーヨンヌ」

「バドスピレチ」州 管區長又ハ小區長大尉二名 中少尉ノ内四名「ペーヨンヌ」

「ボ」ハスルラン「チロロン」「モーレナン」「ラルデー」

「ランゴ州」 管區長又ハ小區長大尉二名 中尉二名「モンドマルサン」「ダークス」

「サトブル」「セーモンセヴエミ」

「ジエール州」 管區長大尉二名 中尉三名「オトク」「ミランド」「コンドン」「レクツ」

「ル」

「チイトピレチ」州 管區長大尉二名 中尉一名「タルグ」「パニエール」「アルヴユ」

「レ」

第十四編隊

本部「ボルドー」

「ジロンド州」 管區長又ハ小區長大尉三名 中少尉ノ内四名「ボルドー」「ラレナ」

「リブキルヌ」「ラバスザード」「レスパール」「バザー」「ブーレ」

「シヤラントアンフエリエール州」 管區長大尉三名 中尉三名「ラロツシエル」

「ロツシヌフォール」「セーント」「セーモンジュアンダンジュリー」「マヨンザック」「マ」

「ランヌ」

「ドルドーギユ州」 管區長又ハ小區長大尉三名 中尉三名「ペリグー」「サルラー」「ベ」

「ルジエラック」「ラランド」「ノントロシ」「リベラック」

「ロツテガロンヌ州」 管區長大尉二名 中尉二名「アオヤン」「マルマンド」「チラツ」

「ク」「ヴネールヌ」「グシユール」「ロー」

第十五編隊

本部「ナント」

「ユアールアンフエリエール州」 管區長大尉二名 中尉三名 「ナント」「セーモン」

「ナゼール」「シヤトープリヤン」「アンヌヌー」「パーンブー」

「メーヌ、エ、ロアール州」 管區長大尉三名 中尉二名「アンシエール」「シヨレー」「ソ」



「ロートル、キシエール州」 管區長大尉二名 少尉一名「プロアー」「ヴァンドーム」  
「ロモランタン」

「グジャンヌ州」 管區長大尉二名 中少尉ノ内三名 「ポアナエ」「シヤートルロ  
「ルードン」「モンモリヨン」「シヴレー」

第十九編隊 本部「プールヌエ」

「シエール州」 管區長又ハ小區長大尉二名 中尉三名「プールヌエ」「セーンアマ  
「グジャンヌ州」「サンコアン」「サンセール」

「ニエーヴル州」 管區長大尉三名 中尉一名「チヴエー」「ユヌヌ」「クラムシー」「シヤ  
「トーション」

「アリエ州」 管區長大尉二名 中少尉ノ内二名「ムーラン」「モントリユワン」「ラハ  
リツヌ」「ガンナ」

「アンドル州」 管區長大尉二名 中尉二名「シヤートートル」「イスードン」「ルブラ  
ン」「チシヤートール」

第二十編隊 本部「クレルモンフエラン」

「アピトドドーム州」 管區長大尉三名 中少尉ノ内二名「クレルモンフエラン」

「リヨム」「ノイツァール」「チエール」「アンペル」

「チルトロアール州」 管區長又ハ小區長大尉二名 中尉二名「ルア井」「プリユー

「ド」「ル、モナスチエ」「イサンヌヨール」

「カンタール州」 管區長大尉二名 中尉二名「チーリヤツク」「セーンフルール」「ミ

ユラ」「モーリヤツク」

第二十一編隊 本部「リモーヌ」

「チートヴジャンヌ州」 管區長大尉二名 中少尉ノ内二名「リモーヌ」「ペラツ

ク」「セーンイリエイ」「ロツシユシユアール」

「クルーズ州」 管區長大尉二名 中尉二名「グレー」「チーピユツツン」「プーサツク」

「プーアルガヌーフ」

「ユレーズ州」 管區長大尉二名 中尉一名「チエール」「プリーヴ」「ユツセル」

「シヤラント州」 管區長大尉二名 中尉三名「アングーレーム」「ユンフオラン」「リ

「イゼリル州」管區長又ハ小區長大尉三名 中尉二名「グルノーブル」ラツール  
 「ジュパン」グ井ヤンヌ「ラミュール」セーシマルステシ  
 「チリトアル」管區長大尉二名 中尉一名「カツプ」ブリヤンソン「アンプロ  
 「サヴチア」州管區長又ハ小區長大尉二名 中少尉ノ内三名「シャペリー」セ  
 「モンヌ」ユアジ、ド、モーリヤンヌ「ポンド」ポーヴオアザン「アルベルト」グ井ール  
 「チリトサヴ」オアザン州管區長大尉一名 中少尉ノ内三名「アンチシー」セーシ  
 「ジュリヤン」ボシヌ「グ井」ル「ト」ル「其」入「其」入  
 爰ニ其要領ヲ舉クレハ左ノ如シ二十六編隊九十中隊 四百二十一管區又ハ  
 小區乘馬兵二千五百二十五徒步兵千五百〇三伍各伍ハ共ニ憲兵卒五人ヲ  
 以テ編成ス(但「島」ハ一種特別ノ編成ヲ用フ)編隊長大佐十八名中佐八名

少佐九十名大尉二十七名計官中少尉ノ内六十三名管區長又ハ小區長中少尉  
 ノ内百八十八名セイヤ洲ハ軍醫一名下副官二十六名曹長六十四名一等軍曹  
 七百〇七名二等軍曹千五百二十四名(以上乘馬)一等軍曹四百〇七名二等軍曹  
 八百九十六名(以上徒歩)乘馬憲兵卒九千二百八十七名徒歩憲兵卒五千二百八  
 十三名計官附屬一等軍曹九十名編隊長附書記二等軍曹二十六名幼年兵四百  
 六十名銃工長二名總員一萬九千四百〇一名  
 千八百七十年李佛戰爭ニ際シ憲兵隊ヲ編成セシキニ當リ同年七月二十五日  
 ノ省達ヲ以テ會テ憲兵士官下士二等軍曹兵卒ニシテ各隊ニ分遣セラレシモ  
 ノハ依然其本職ヲ失フコナキテ憲兵編隊長ニ訓告セリ又同年十月二日「ソ  
 ル」府護國政府ノ布達ヲ以テ各師團ニ憲兵一隊ヲ置キ乘馬憲兵卒三十三名ヲ  
 以テ一隊ヲ編成シ士官一名ヲ以テ隊長トス其孤立小部隊ハ憲兵二名二等軍  
 曹一名ヲ以テ編成セリ  
 同年十月十日護國政府ハ「ツール」府ニ於テ法令ヲ發シ戰爭中ハ憲兵下士ヲ以  
 テ師團兵ノ少尉ニ任スルヲ得セシム

同年十月三十一日ノ決議ニ由リ護國政府ノ委員タル内務兼陸軍大臣ハ「ツール」府ニ司憲部ヲ設置シ大尉一名一等軍曹一名二等軍曹二名憲兵卒十七名ヲ以テ之ヲ編成ス

同年十二月二十日「ボルドー」府ニ於テ護國政府ノ委員内務兼陸軍大臣ハ憲兵ヲ動員シ之ヲ各中隊ノ首部ニ集合セシムルヲ布告シ各軍團ノ背後ニ在テ其風紀ヲ維持セシム此ニ於テ第十四編隊ヲ始メ第二第八第九第十三第十四第十五第十六第十八第十九第二十第二十一第二十二第二十四及ヒ第二十六ノ諸編隊ヲ動員シ更ニ千八百七十一年一月二十六日及ヒ二月五日ノ布告ヲ以テ第二十五及ヒ第十七編隊ヲ動員ス而シテ此ノ動員セシ各伍ハ同年二月二十七日行政官長ノ決議ニ因テ駐在本地ニ復歸セリ李佛戰爭後佛國ハ同年五月十日「フランクフォール」ノ條約ニ因テ「アルサース」州「ベルフオール」管區ノ一部ヲ除ク「ロレナ」州ノ一部ヲ失ヒ此ニ於テ第六編隊ハ廢絶ニ歸シタリ「ゼル」州及ヒ「ムールト」州ノ二中隊ハ之ヲ合シテ「ハールト、エ、モゼル」州ノ一中隊ヲ編成シ「ナートン」州ノ中隊ハ「ベルフオール」管區ノ一部ヲ以テ之ヲ増加

ス此ヲ以テ「ナレシ」府ノ第五編隊ハ之ヲ左ノ如ク編成セリ

「ムールト、エ、モゼル」州 「ナンシー」リユチヴヰール「ツール」ブリー「管區長大尉二名中尉一名

「ムーズ」州 「バル、ル、ジュツク」コンナルシー「ヴェルドン」モンメシー「管區長大尉三名中尉一名

「ヴオスジュ」州 「エピナール」ミールクル「ヌーシャトー」セーンジエ「ルミール」モン「管區長大尉一名中少尉ノ内四名

第七編隊ノ所轄「ナートン」州ノ中隊ハ「ヴェズール」グレー「ベルフオール」及ヒ「リエール」ノ管區長大尉三名中尉一名ヲ以テ編成ス然ルニ千八百七十四年九月十八日ノ省達ニ由リ「ベルフオール」ノ憲兵ハ之ヲ分遣兵トシ大尉ヲ以テ之ヲ指揮ニ任シタリ

此時ニ當リ其廢絶ニ屬スルモノヲ舉クレハ即チ左ノ如シ第六編隊「パリ、ス、レ」州「チー、レン」州及ヒ「モゼル」州ノ中隊「ストラスブール」シユレスダット「ウヰセ」ンブール「サヴエルヌ」コルマール「ミュルウース」セーン、ルイー「シャトラーン」サ

トルブトル」メツス」チチンヅ」セル」サトル」グミ」ヌ」ノ第十二管區又ハ小區及  
ヒ四十一伍又減員ハ編隊長一名少佐三名管區長又ハ小區長大尉一名及ヒ中  
少尉ノ内四名下副官一名曹長二名計官附屬一等軍曹三名編隊長附書記二等  
軍曹一名幼年兵十五名トス又爾後ノ發布ニ係ル諸布告ヲ以テ更ニ多少ノ増  
減アリ故ニ千八百七十四年六月一日ニ在テハ乘馬兵二千二百六十九伍徒步  
兵千五百五十五伍トス因テ更ニ其人員ヲ類別スレハ下副官二十五名曹長六  
十二名一等軍曹六百六十七名二等軍曹千五百十五名(以上乘馬)一等軍曹四百  
九十五名二等軍曹千〇六十名(以上徒步)乘馬憲兵卒九千〇七十一名徒步憲兵  
卒六千二百九十九名ナリ

「ロアール」州ノ中隊ハ幼年兵一名ヲ廢シ更ニ千八百七十四年七月二日ノ省達  
ニ由テ幼年兵二十九名ヲ増シ又千八百七十一年九月二十三日大統領ノ裁決  
ニ由リ「チルトン」ノ管區ヲ二小區ニ分チ小區長中少尉ノ内一名ヲ増ス故ニ千  
八百七十四年八月一日ノ調査ニ據レハ總員二萬〇三百九十二人内大佐十三  
名中佐十三名アリ是レ千八百七十三年七月二十一日ノ布告ヲ以テ州ノ二十

五編隊及ヒ亞非利加編隊ハ大佐十三名中佐十三名ヲ以テ定員トセシガ故ナ  
リ又千八百七十五年四月二十七日大統領ノ裁定ヲ以テ内地ニ五編隊ヲ増加  
シ改正管區ニ準シ左ノ如ク之ヲ編成セリ

巴里府ノ管區

第一編隊 本部 「セイヌ」中隊「セイヌ」中隊「セイヌ」中隊「セイヌ」中隊

第一軍團

第二編隊 本部 「リ」中隊「ノール」中隊「バード」中隊「カレ」中隊

第二軍團

第三編隊 本部 「アミヤン」中隊「フレ」中隊「チアーズ」中隊「エース」中隊

第三軍團

第四編隊 本部 「ル」中隊「アン」中隊「セイヌ」中隊「アン」中隊「エウル」中隊「カル」中隊

第四軍團

第五編隊 本部 「ル」中隊「アン」中隊「サル」中隊「エウル」中隊「エウル」中隊「マイヤン」中隊

第五軍團

第六編隊 本部 「ナルレアン」 四中隊「ツアレ」セイヤ、エ、マルヌ「ヨンヌ」ロアール、エ、シエール

第六軍團

第七編隊 本部 「シャイロン」 三中隊「マルヌ」アルダヌヌ「ラーブ」

第八編隊 本部 「ナンシー」 三中隊「ムールトエモゼル」ムーズ「ヴォス」ヨユ

第七軍團

第九編隊 本部 「ブザンソン」 三中隊「ドーブ」ナートソイヤ「ナートマルヌ」ベ

ルフォールハ大尉ノ指揮ニ屬スル分遣隊

第十編隊 本部 「ブール」 二中隊「エーソン」ヨユラ

第八軍團

第十一編隊 本部 「ブール」シユ 四中隊「シエール」ニエーヴル「コートドール」

「ソイヤエ、ロアール」

第九軍團

第十二編隊 本部 「ツール」 三中隊「アンドンル、エ、ロアール」メイヤエロアール

「アンドンル」

第十三編隊 本部 「ボアチエ」 二中隊「ウジャンヌ」ツィセヴェール

第十軍團

第十四編隊 本部 「ランヌ」 三中隊「イール、エ、ヴレーヌ」マンシユ「コートジユ

ノール」

第十一軍團

第十五編隊 本部 「ナント」 四中隊「ロアールアンフェリユール」モルピアン

「フサニステール」ヴァンデー

第十二軍團

第十六編隊 本部 「リモージュ」 三中隊 「ナートウジャンヌ」クルーズ「シヤ

ラント」

第十七編隊 本部 「ペリグー」 二中隊 「ドルドーギユ」コレーズ

第十三軍團

第十八編隊 本部 「クレルモン」 三中隊「ブドドーム」アリエ「カンタール」  
第十九編隊 本部 「セーシテチエンス」 二中隊「ロアール」チート「ロアール」

第十四軍團

第二十編隊 本部 「リヨツ」 三中隊「ローム」イゼール「ドローム」  
第二十一編隊 本部 「シヤンペリ」 三中隊「サヴチアー」チート「サヴチアー」  
「チド」アルプ

第十五軍團

第二十二編隊 本部 「マルセイユ」 四中隊「ブーシユ、ジユ、ローム」ヴオータリ  
「マルセイユ」アルデーシユ「ガール」  
第二十三編隊 本部 「ニス」 三中隊「アルプマグリチーム」ヴァール「パリスア  
ルプ」

第二十四編隊 本部 「バスチア」 三中隊「コルス」島ノ第一及ヒ第二中隊  
第十六軍團

第二十五編隊 本部 「モンペリエ」 三中隊「エロール」アヴエイロン「ロゼール」  
第二十六編隊 本部 「ペルピギヤン」 三中隊「ピレチナリヤンタール」チード  
「タルヌ」

第十七軍團

第二十七編隊 本部 「ツールーズ」 三中隊「チートガロンヌ」アリエ「ジュ」ジ  
「エール」  
第二十八編隊 本部 「アジヤン」 三中隊「ロットテガロンヌ」ロー「タルチガロン  
ヌ」

第十八軍團

第二十九編隊 本部 「ボルドー」 三中隊「シロンド」シヤラントアンフエリユ  
「ル」ランド  
第三十編隊 本部 「ペーヨンヌ」 二中隊 「パリスピレチ」チート「ピレチ」  
以上ノ改設ニ因テ憲兵士官ノ定員中ニ大佐二名中佐三名計官大尉五名ヲ増  
シ計官中尉五名ヲ減ス又新タニ設置セシハ下副官五名編隊長附書記五名ニ



シテ曹長五名ハ之ヲ廢セリ  
地方憲兵ハ古來國政ノ變革ニ因テ時々其名稱ヲ改メシテ左ノ如シ

初期ノ二共和政時代ニ在テハ國民憲兵

那拿崙一世及ビ三世ノ治世ニハ帝國憲兵

路易八世及ビ查理十世ノ時代ニハ王國憲兵

路易非立一世ノ治下ニ在テハ地方憲兵現政府ニ於テハ單ニ憲兵ト稱ス

我佛國ハ其土地ノ一部ヲ失ヒシモ憲兵ハ之ヲ戰爭以前ニ比スレバ其實員更

ニ増加セリ千八百七十年九月四日ノ改革及ビ翌年三月十八日ノ暴動ニ際シ

人民靜穩ヲ欠クヲ以テ輿論ハ更ニ屯伍ノ増加ヲ望ミタリ

制服 千七百九十一年二月十六日ノ法令第三章第一條ハ警視兵ノ制服ニ左

ノ改正ヲ加ヘ以テ新設憲兵ノ服裝ヲ定ム

第一 襟及ビ袖端ノ縁ニ白色縁條ヲ縫着ス

第二 國風ノ帽章ヲ廢シ白色帽章ヲ以テ之ニ代ヘ又卸紐ニ *force a loi* (法律ニ

カ)ノ文字ヲ附シ以テ百合花ニ代ヘ外套ハ紺色ヲ以テ薄鼠色ニ代フ

### 第三 飾緒ヲ廢ス

千七百九十二年四月十四日及ビ二十九日ノ布告第四章第二條ハ以上ノ服裝

ヲ存シテ改メズ唯袖及ビ袖端ノ縫裁ヲ騎兵ト全一ニセシム

千七百九十七年三月二十七日ノ法令第一章第二條ハ千七百八十九年七月十

四日以來警視兵ニ用井シ三色飾緒ヲ再ヒ佩用セシム

千八百十九年以前ノ改正ハ多ク裝飾ニ關スルヲ以テ姑ク之ヲ略ス

那拿崙一世ノ治世ニハ鷲ヲ刻シタル卸紐ヲ用井シカ路易八世ニ至テ百合花

ニ改メ且白色ノ帽章ヲ用フ然レモ其服裝稍ヤ異様ニ流レシヲ以テ之ヲ制ス

ルカ爲メ千八百十九年二月五日ノ布告ヲ以テ左ノ如ク王國憲兵ノ制服ヲ制

定セリ

正服 紺羅紗ノ上衣、裏面及ヒ反縁ハ緋羅紗、雌黃色絨製ノ袴、銀縁ノ帽、白色銀

線ノ帽章、

略服 紺羅紗、反縁ハ緋羅紗、鼠色羅紗ノ袴、黑縁ノ帽、白色ノ帽章

卸紐、將校ハ銀製、兵卒ハ鍍銀、之ニ百合花及桂枝ヲ刻シ其周縁ニ *gendarmerie*

royale (王國憲兵)

ノ文字ヲ附ス反縁ノ章飾將校ハ銀製ノ榴彈、下士二等軍曹ハ銀

絲、憲兵卒ハ白絲ヲ以テ縫着ス、

徽章、將校ハ位階ニ應シ、銀製ノ肩章、左方ニ銀製ノ飾緒ヲ佩用ス、

一等軍曹ノ袖章ハ銀線二條、二等軍曹ハ一條、屯伍長ハ右肩上ニ三葉、左方ニ飾

緒ヲ帶フ、以上ハ銀絲ト紺毛絲ヲ以テ之ヲ製シ、憲兵卒ハ白絲ヲ用フ又飾緒ノ

金具ハ銀製トス、喇叭手ハ襟及ヒ袖端ニ銀線ヲ附シ三葉ト飾緒ハ銀絲ト紺毛

絲ヲ以テ之ヲ製ス公務中憲兵ハ飾緒ト三葉ヲ附着ス

士官ハ外套、騎兵ハ短衣外套、歩兵ハ外套、士官及ヒ屯伍長ハ紺絨製ノ帽子、線條

其他ノ裝飾ハ銀製、但シ屯伍長ハ紺毛絲ヲ之ニ混シ、憲兵卒ハ白色絲トス、

小屬具、上部ニ白布製ノ飾ヲ附シタル黒襟、手套ハ鹿皮製ヲ用フ乘馬兵ハ、ク

リスパン式ノ手套、士官用ノ軍刀ノ紐ハ金製ノ球子ニ革製ノ編條トス乘馬

兵ハ雄黄色徒歩兵ハ白色ノ紐ヲ用フ士官ハ鍍銀鐵製ノ拍車ヲ附シタル長靴、

兵卒ハ鐵製ノ拍車、徒歩兵ハ黒紗製ノ脚絆正服用ハ膝部ニ至リ略服用ハ腓部

ニ至ルヲ制規トス

大屬具、士官ハ革帶ハ雄黄色ノ懸革ヲ附シ銀線ヲ以テ其縁ヲ飾リ鍍金銅製

ノ金具ヲ附ス徒歩兵ハ之ニ肩帶及ビ胴亂携帶革ヲ附シ乘馬兵ハ鈎銃劍革及

ビ胴亂携帶革ヲ附ス金具ハ銅製ニシテ革帶ノ縁ハ白絲ヲ以テ飾ル金具ノ徽

章ハ卸鈕ニ全シ胴亂及ビ銃劍鞘ヲ附着ス

馬具、士官ノ鞍ハ佛式一條ノ藍色線ヲ以テ其縁ヲ飾リ拳銃革鞘ハ黒色ナリ

鍍銀ノ銅ヲ以テ其端ヲ飾ル鞍被鞘蓋及ビ外套ノ托革ハ紺絨ニシテ之ニ銀線

ヲ附シ鞍被ノ榴彈モ銀製トス兵卒ノ鞍及ビ鞍被ハ士官ニ同シ唯鹿子色ニシ

テ線條ト榴彈ハ白絲ヲ以テ縫着ス勒フ井レ一當胸帶尾鞞<sup>カウチヒヤール</sup>半黒色ノ革條ヲ

附シタル半銃靴裝結革條<sup>ボットドニースケツトングロロンドシヤルシユ</sup>ドラコンヌ銃沓鹿子色ノ鍍革士官ノ卸環<sup>アッセル</sup>ハ鍍銀ノ

鉄製兵卒ハ青銅色ノ鉄製トス鍍ハ皆ナ青銅色ヲ施シ銜ハ士官ハ鍍銀鐵製兵

卒ハ鍍錫鐵製トス

兵器、士官及ビ乘馬下士ハ輕騎兵ノ軍刀及ビ拳銃一組、乘馬二等軍曹及ビ

憲兵卒モ亦全上ノ兵器ト銃劍附短銃ヲ携帶ス徒歩兵ハ全上ノ短銃ト短刀ヲ

帶フ士官ハ徒歩及ビ交際服ノキハ劍ノ佩用ヲ許可セラル

第十七編隊ニ在テハ從來ノ帽ヲ廢シ黑色正帽ヲ以テ之ニ代ヘ之ニ銀線肩庇及ビ鍍銀ノ銅板ヲ附着シ其銅板ニハ *gendarmérie royale* (憲王國)ノ文字ヲ刻ス且長靴ヲ廢シ乘馬兵ハ半長靴ヲ穿ツ鞍ハ英式ニシテ士官兵卒共ニ鹿子色ノ革ヲ以テ之ヲ製ス

千八百二十二年五月二十五日及ビ千八百二十六年五月三日ノ布達ヲ以テ被服ヲ改正シ更ニ同年九月二十二日ヲ以テ憲兵ノ制服條例ヲ改正ス此改正條例ニ據レハ略袴ハ紺鼠ノ羅紗ヲ用ヒ夏季ハ士官下士兵卒共ニ白布ノ袴ヲ用フ徒歩兵ハ更ニ短衣ヲ加ヘ略服ノ帽ヲ廢シ襟ハ長サ二十五珊知米突ニシテ其二密里米突ヲ折り黑色縁條ヲ以テ上縁ヲ飾ル士官ノ半長靴ニハ黑色鐵製ノ拍車ヲ附ス徒歩兵ハ夏季ノ袴ト全地質ノ脚絆ヲ着シ背囊ヲ負ヒ左方ニ拳銃ノ革套ヲ帶フ又鍍革ハ黑色トス觀兵飾隊式ニハ馬頭及ビ馬尾ニ緋絨製ノ薔薇花ヲ附シ士官ハ銀製兵卒ハ白毛ノ總及ビ紐結ヲ以テ之ヲ裝飾ス士官ハ市街又ハ交際服ヲ着スルキ又下士ハ駐在所ノ服裝ニアルキハ劍ノ佩用ヲ許可セラル徒歩兵ノ兵器ハ拳銃ヲ以テ完成ス

第十七編隊ハ正服ヲ廢シ馬上ノ勤務ニハ紺鼠ノ袴ニ黒キ革ヲ膝部マデ附着ス又千八百三十年七月十三日ノ省達ヲ以テ紺布製ノ袴ヲ着用セシム各編隊ニ於テハ全上ノ省達ヲ以テ乘馬兵ノ「クリスパン」式手套ヲ廢シ步騎共ニ全一ノ手套ヲ用フ又從來ノ襟ヲ廢シ折襟ヲ以テ之ニ換ヘ飾緒ヲ左肩上ニ移シ肩章ノ三葉ヲ以テ之ニ換ハラシム

千八百三十年九月八日ノ布告ニ由リ袖飾ハ緋羅紗ヲ用井白羅紗ノ「パット」ハ紅色ノ縁條ヲ以テ飾リ正袴ハ白色ニシテ乘馬兵ハ羊皮徒歩兵ハ羅紗ヲ以テ之ヲ製ス又帽子ノ銀線ヲ廢シ黒線ヲ以テ之ニ代ヘ而シテ銀線四條ヲ前後ニ附ス革帶及ビ釣劍革ノ銅板并ニ鈕鈕ニハ *gendarmérie departementale* (憲地方)ノ文字ト雄雞ヲ彫刻シ其周縁ニ *sûreté publique* (安)ノ文字ヲ刻ス又全月三十日ノ省達ニヨリ飾緒ノ壓口ニ四個ノ雄雞ヲ附ス

千八百三十一年二月二十八日ノ裁定ニ因リ袴下ニ「スヴァロ」式ノ長靴ヲ穿テ以テ大長靴ヲ廢シ紺色袴ヲ以テ白色袴ニ代ヘ紅色縁條ヲ附シタル紺ノ袖飾ヲ以テ白色「パット」ノ紅色袖飾ニ代ヘタリ又全年四月十三日ノ省達ニ由リ

從前ノ鞍被<sup>ヤブス</sup>ヲ廢シ更ニ紺羅紗ヲ以テ縁ヲ飾リタル黑色羊皮ノ鞍被<sup>シヤアラック</sup>ヲ採用ス  
然ルニ又翌年六月五日ノ裁定ヲ以テ「スヴァロ」式長靴紺色ノ袴羊皮ノ鞍被  
ヲ廢シ更ニ步騎二兵正服ニ白羅紗ノ袴及ヒ騎兵用ノ長靴長脚胫并ニ鞍被ヲ  
採用セリ

千八百三十五年十一月六日ノ省令ニ由リ肩章ノ三葉ハ綿毛ヲ用ニ革具ノ白  
線ヲ廢シ蘆色<sup>シヨソク</sup>ヲ以テ之ニ代ヘ縁端ヨリ十五密里米突出セシム且ツ縁邊ハ  
白色内部ハ黃色ヲ用フ又正服ハ更ニ布告ヲ發スルマテ其支給ヲ停止ス爾來  
地方憲兵ハ正服ヲ着用スルヲ得ス千八百四十六年八月二十一日ニ至リ更ニ  
其制服ヲ舊ニ復シ一般ニ紅色ノ胸當ヲ用フ又乘馬兵ニハ千八百四十年五月  
四日ノ裁定ヲ以テセイヌ洲ノ中隊ニ用フル所ト全一ノ白色トリコ製ノ袴ヲ  
着用セシム千八百二十六年九月二十二日發布ノ條例以後ノ諸規則ハ之ヲ千  
八百三十六年四月十八日ノ訓令中ニ編纂シ臨時憲兵隊ヲ編成スルニ當リ憲  
兵條例ニ未ダ曾テ記載セザル二等軍曹給養下士臨時一等軍曹曹長下副官副  
官監給少佐軍醫獸醫等ノ徽章ヲ制定セリ

千八百三十六年四月十八日ノ訓令ハ毛製略帽ヲ以テ士官下士副官監給少佐  
軍醫獸醫及ヒセイヌ洲ノ憲兵ニ採用シ徒歩兵ハ第十七編隊ト全一ノ正帽<sup>シヤアラック</sup>ヲ  
用フ又千八百四十年九月二十六日ノ省達ヲ以テ其正帽ヲ改正シ之ニ銀製交  
叉帶ノ銀線ヲ附シ更ニ其帶ノ中間ニ紅色編條ヲ附着ス第十七編隊ハ從來ノ  
正帽ヲ廢シ亞非利加正帽ヲ以テ之ニ代ヘ現今セイヌ洲ノ中隊ニ於テハ普通  
帽子ヲ採用ス又千八百三十六年四月十八日ノ訓令ハ鞍囊ヲ以テ拳銃革鞘ニ  
代ヘタリ

此訓令后ニ於テ發布セシモノハ千八百四十六年八月二十一日ノ布告ニシテ  
之ニ千八百四十二年七月八日千八百四十四年八月二十六日同年十一月十四  
日ノ省令ヲ以テ改正セシ左ノ諸件ヲ載セタリ曰ク其一小長靴ノ拍車ハ士官  
ハ鐵製ニシテ青銅色ヲ施シ乘馬兵ハ之ヲ漆塗ニス其二帽子ノ眉庇ハ漆塗革  
ヲ用フ其三上長官ノ帽子ニハ縁線三條ノ絢<sup>ガンス</sup>ヲ付ス又千八百四十六年八月二  
十一日ノ布告ヲ以テ帽子ノ縁ニ一條ノ銀線ヲ附シ將校ハ略裝又ハ公務外ニ  
ハ毛線一條ヲ附シタル帽子ヲ用フルヲ許可セリ全時ニ將校ノ馬具ヲ改正シ

鞍ハ鹿子色ノ革ヲ以テ製シ之ニ兵卒ト全一ノ鞍囊ヲ附ス又鐙革ハ鹿子色ニシテ鐙ハ磨キタル鐵製ニ改正セリ

千八百五十七年十月二十日更ニ布告ヲ發セリ此布告以前十一年間ニ於テハ千八百五十年六月二十四日千八百五十一年六月十一日千八百五十二年七月八日及ヒ十一月二十七日千八百五十三年四月五日及ヒ十月五日千八百五十四年二月十八日及ヒ五月八日ノ諸布告ニ由リ其規定セシモノ左ノ如シ

第一 「セイヌ」州ノ中隊ヲ除クノ外他ノ諸中隊ハ更ニ布告アルマテハ正服ノ調製ヲ停止ス

第二 紺色袴ヲ以テ紺鼠色ノ袴ニ代ヘ士官ニハ銀製ノ徽章ヲ附シタル雨衣ノ着用ヲ許可セリ

第三 下副官ハ金製肩章ヲ右方ニ下等肩章ヲ左方ニ附着シ之ニ幅十密里米突ノ扁條ト銀絲製ノ飾緒ヲ附ス又曹長ノ章條ヲ三線ニ定ム

第四 幼年兵ハ外套略衣絨製ノ袴正帽(以上ハ其兵種制規ノ色ヲ用フ)布製ノ袴襟及ヒ半長靴ヲ以テ其制服トス

第五 「セイヌ」州ノ中隊及ヒ第十七編隊ノ劍把及ヒ革帶ノ銅鈕釦壓口正帽ノ金具ニ鷲ノ徽革ヲ附シ而シテ其鈕釦及ヒ銅鈕釦上ノ gendarmerie departementale

(憲兵方)ノ文字ヲ gendarmerie imperiale (帝國憲兵)ノ文字ニ代ヘタリ

第六 馬上ノ公務ニハ従前騎兵ノ長靴上ニ穿テタル袴ヲ廢シ更ニ半ハ密着セル洪牙利式ノ袴ヲ穿タシメ又騎兵ニ厩袴ヲ支給シ正帽ヲ用シム兵卒ノ鐙及ヒ拍車ハ從來ノ漆塗ヲ廢シテ磨キタル鐵製ニ改メ又徒步憲兵ノ拳銃革囊ヲ廢シ拳銃ハ之ヲ夾紙中ニ納メテ携帶セシメ乘馬憲兵ノ拳銃ハ從來ニ挺ナリシチ一挺ニ減シタリ

其他手套及ヒ革帶ノ懸革銃ノ負革ハ黃色ヲ廢シテ白色トシ「セイヌ」州ノ中隊ハ依然「クリスパン」式ノ手套ヲ用井營内ハ小長靴營外ハ半長靴ヲ穿タシメ以テ徒步憲兵ノ半靴及ヒ脚絆ニ代ヘタリ最初ハ袴ノ側章ニ紺羅紗ヲ用井後之ヲ廢シテ薄藍ニ改ム又將校ノ朝衣ニ紺羅紗ノ外套ヲ着セシメ徒步憲兵ノ外套ヲ廢シ「コレ」マント「種」外套ヲ以テ之ニ代ヘ且ツ密着ノ袴ト大長靴ヲ廢シテ之ニ代フルニ股革ヲ附シタル袴ヲ以テセント屢々之ヲ試驗セシカ終ニ好結

果チ見ルニ至ラサリキ又白布製ノ袴ト鞍カボットト腰シ戰時ハ股革ヲ採用セリ千八百六十八年六月二十四日ト千八百七十二年八月十三日ノ布告ハ千八百五十七年十月二十日以後ノ發布ニ係ル改正ノ諸件ヲ編次セシモノニシテ前者ハ專ラ馬具ニ關スル件トス其外形ニ就キテハ別ニ改正セシ所ナキカ如シ唯憲兵ノ黒色ナル鎧革ヲ廢シ鹿子色ノ鎧革ヲ以テ之ニ代ヘタルハ其改正中ニテ稍ヤ著ルシキモノナリ

又後者ハ千八百七十一年十二月七日ノ省令ニ關シ從來ノ服ヲ廢シ正衣チユニツクヲ以テ之ニ代ヘ徒歩憲兵ニハ其衣ニ裏ヲ附セヌ乘馬騎兵ノ正衣ニハ緋絨ノ裏ヲ附ス又「コンデ」式ノ長靴ヲ以テ半長靴ニ代ヘ漆塗革ノ革帶ヲ以テ士官ノ革帶ニ代フ又從前ノ銅鈕ト釦鈕ヲ廢シ更ニ榴彈ノ周邊ニ *gendarmerie, ordre public* (安寧ヲ保持スル憲兵)ノ文字ヲ刻シタル釦鈕ト銅鈕ヲ以テ之ニ代ヘ壓口チシメ四個ノ榴彈ヲ以テ飾リタルモノヲ用フ革具ハ黄色及ヒ白色ノ二種ヲ存シテ唯其形ヲ變シ幅ヲ狭クセシノミ將校ノ釣劔革ハ黒色革製ニシテ之ニ紅色ノ裏革ヲ附シ屯伍長ノ釣劔革ハ又黒革製ナレバ裏革ヲ附着セズ將校ノ「マント」ヲ廢シ外ヲ

兼チタル「カボット」ヲ着用セシメ其兩袖ニ官等ノ徽章ヲ附ス又千八百七十二年七月八日ノ省令ヲ以テ採用セシ紺綿製ノ襟飾ハ之ヲ營外勤務ノ爲メニ保存ス

兵器ニ改正ヲ加ヘシヨリ今日憲兵士官ハ輕騎兵ノ軍刀拳銃及ヒ正劔ヲ攜帶シ乘馬ノ下士二等軍曹及ヒ憲兵卒ハ輕騎兵ノ軍刀拳銃千八百六十六年改造千八百七十四年式騎銃及ヒ銃劔又徒歩ノ下士二等軍曹憲兵卒ハ拳銃千八百六十六年式改造千八百七十四年式騎銃及ヒ銃劔ヲ攜帶ス其他此二兵科ノ下士二等軍曹及ヒ喇叭手ハ正劔ヲ佩用ス又憲兵卒徒歩ノ時ハ拳銃ヲ其革套ニ納メテ之ヲ革帶ト帶劔革ニ附着シ帶劔革ハ之ヲ右肩上ニ負フ

### 第五款 西班牙征討軍ノ憲兵

千八百〇七年戰爭ノ初期ニ當リ西班牙征討軍ノ憲兵ハ僅カニ警察上ノ勤務ヲ帶フルニ過キサリシカ千八百〇八九年ノ交ニ至リ其兵員大ニ増加シ終ニ少將ヲ以テ其指揮ヲ執ラシムルニ至レリ千八百十年ニ於テハ此警察兵ノ外尙ホ西班牙憲兵隊ト稱スルモノアリテ其兵員四千八少將之カ隊長ヲリ千八

百十一年ニ至リ之ヲ「カルタローギユト」ビユルゴノ二編隊ニ區分シ更ニ之ヲ二十中隊ニ分チ第一ヨリ第二十ニ至ル番號ヲ附シ隊毎ニ步騎二兵ヲ以テ編成シ中隊長少佐之ヲ指揮シ騎兵士官三名即チ大尉一名中少尉各一名又ハ中尉二名少尉一名及ヒ歩兵士官三名即チ中尉一名少尉二名之ニ附屬ス第一第五第九及ヒ第十七ノ各中隊ハ少佐一名騎兵大尉一名中尉一名少尉一名歩兵中尉一名少尉二名之ニ附屬シ第二第三第四第六第七第八第十第十一第十二第十三第十四第十五第十六第十八第十九第二十ノ各中隊ハ少佐一名騎兵中尉二名少尉一名歩兵中尉一名少尉二名之ニ附屬ス

千八百十二年及ヒ千八百十三年ニ左ノ六編隊ヲ以テ西班牙軍ノ憲兵ヲ編成セリ  
第一編隊 本部「ヴァラドリ」新設中隊六個ヲ以テ編成ス  
第二編隊 本部「サラゴツス」舊中隊六個即チ第五第七第九第十第十一第十二中隊ヨリ成ル  
第三編隊 本部「パンプリューヌ」舊中隊五個即チ第六第十六第十七第十八

第十九中隊ヨリ成ル

第四編隊

本部「ヴネトリヤ」舊中隊五個即チ第一第二第三第四第八中隊ヨリ成ル

第五編隊

本部「ビユルゴ」舊中隊四個即チ第十三第十四第十五第二十中隊ヨリ成ル

第六編隊

本部「フネギエール」他ノ中隊ヲ以テ編成セリ

以上六編隊ノ士官ハ總員百八十八名内大佐六名少佐十二名大尉三十二名計官六名(第一編隊ノ計官ハ大尉相當官他ノ五名ハ中尉相當官)中尉六名第二編隊少尉二十名第三第四第五及ヒ第六編隊(乘馬中尉四十六名徒歩中尉二十名徒歩少尉四十名)

千八百十三年十四年ノ交ニ當リ佛軍ノ西班牙國ヲ撤去スルヤ憲兵モ亦續テ本軍ト共ニ引揚ケタリ

第六款 海軍警吏隊

佛帝查理曼以後ハ海軍大ニ衰微セシカ聖路易ノ獎勵ニ因リ稍々其勢ヲ挽回

查理五世ニ至テ人員漸ク増加セシカ後再ヒ衰ヘ其眞ニ隆盛ニ赴キタルハ  
 路易十三世及ヒ十四世ノ治世ニアリ當時ノ宰相「リツシユリユール」及ヒ「コベル  
 ル」ハ心力ヲ悉シテ海軍ノ擴張ヲ謀リ此時初テ海軍ニ司憲ヲ設クルノ必要ヲ  
 感シ陸軍司憲ト全一ノ職制ヲ定メタリ

千七百〇四年四月路易十四世勅令ヲ發シ海軍ニ司憲七名ヲ置キ之ヲ「プレス」  
 「ロツシユフオール」「マルセイユ」「ドンケルク」「ル」「ハーヴル」「ポールルイ」  
 「ペーヨン」  
 「ス」ノ諸港ニ部署シ各司憲ノ配下ニ次官一名警察官一名檢事一名書記一名及  
 ヒ警吏若干ヲ附ス後「マルセイユ」ノ司憲ハ「ツローン」ニ移リ「ポールルイ」  
 「ロツシユフオール」ノ司憲ハ之ヲ廢セリ又路易十五世ノ治世ニハ「ブリス」「ツローン」  
 「ロツシユフオール」ノ各港ニ司憲一名警察官一名檢事一名書記一名及ヒ警吏  
 十二名ヲ置キ「ハーヴル」及ヒ「ドンケルク」ノ各港ニハ警察官一名ト警吏四名又  
 ハ六名ヲ置キタリ然レモ警吏ハ皆ナ港内ニ駐在スルコトナシ以上ノ三大港ニ  
 在テモ警吏ハ僅カニ六名ニ過キズ其他ハ皆ナ所管ノ各州ニ在テ海軍裁判官  
 ノ指揮ニ屬シ公務ニ従事セリ

千七百九十年發布水上警察條例ノ實施アルマテハ司憲ヲ存セタリシカ千七  
 百九十一年九月二十日及ヒ十月十二日ノ布告第二章第十七第十九及ヒ第二  
 十條ヲ以テ海軍ノ司憲部ヲ廢シ其兵員ハ之ヲ港ノ憲兵屯伍ニ編入シ士官下  
 士及ヒ警吏ハ其官等ニ準シテ之ヲ憲兵隊ニ採用シ司憲及ヒ次官檢事ハ其才  
 能ニ應シ之ヲ裁判官ニ任用セリ又其轉任セサル司憲ハ本給ノ三分二ヲ給與  
 シテ退職セシメ警吏ハ造船場ノ憲兵又ハ國民憲兵ニ任シタリ

### 第七款 海軍ノ憲兵

千七百九十一年九月二十日及ヒ十月十二日ノ布告ヲ以テ海軍司憲ヲ廢シ更  
 ニ憲兵屯伍ヲ設ケ專ラ要港殊ニ造船場ニ於テ之ヲ使用ス又各伍ハ憲兵卒四  
 名ヲ以テ編成シ一等軍曹若クハ二等軍曹ヲ以テ隊長トナス又「プレス」「ツロ  
 ン」及ヒ「ロツシユフオール」ノ各港ニハ屯伍長一名(中尉以上ノモノ)ヲ置キ其指  
 揮ニ任ス

海港ノ憲兵ハ全隊ヲ合シテ其進級ノ順序ヲ定メ二等軍曹及ヒ一等軍曹ハ一  
 部ヲ停年ニ取り一部ヲ皇帝ノ拔擢ニ取ル中尉ニ二名ノ缺員アレハ一名ハ最



モ故參ノ一等軍曹ヨリ取り他ノ一名ハ皇帝之ヲ海軍省附屬士官又ハ造船場ノ憲兵下士中ヨリ勅撰ス新任中尉ハ其港内國民憲兵隊附中尉ノ次席ニ就キ故參順序ヲ以テ大尉ニ昇級ス然レモ尙ホ其造船場ニ在テ依然中尉ノ職務ニ從事セサルヲ得ス

共和曆第二年一月十七日(千七百九十三年十月八日)ノ布告ニ由リ國民議會ハ「ブレス」港ノ憲兵ニ二等軍曹一名憲兵卒十三名ヲ増加セリ

共和曆第九年十一月十二日(千八百〇一年七月三十一日)共和政府總督ノ布達第一章第四條ニ由リ海港及ビ造船場ノ憲兵ヲ左ノ如ク編成セリ即チ憲兵六中隊ヲ以テ之ヲ大港及ビ造船場ノ所管編隊ニ編入シ而シテ其各中隊ハ士官二名(二等大尉一名二等中尉一名)及ビ憲兵卒一伍六名(屯伍長ヲ算入ス)ノ七伍乃至九伍ヲ以テ成リ一等軍曹若クハ二等軍曹ヲ屯伍長トス又其屯伍中一伍ハ乘馬兵ヲ以テ之ヲ編成セリ

中隊ノ部署及ビ兵力

第二編隊 「ハルヴル」ノ中隊 徒歩一等軍曹二名 二等軍曹五名(内一名ハ乘

馬)憲兵卒三十五名(内五名ハ乘馬)

第四編隊 「ブレス」及ビ「ロリヤン」ノ中隊 「ブレス」ノ中隊 一等軍曹三名(内一名ハ乘馬)徒歩二等軍曹六名憲兵卒四十五名(内五名ハ乘馬)「ロリヤン」ノ中隊モ亦之ニ同シ

第七編隊 「ロツシユフオール」ノ中隊モ亦「ブレス」ニ同シ

第十七編隊 「アンヴェール」ノ中隊モ亦「ハルヴル」ニ同シ

第二十三編隊 「ツィロン」ノ中隊モ亦「ブレス」ニ同シ

總計四十八伍(内乘馬兵六伍)二等大尉六名二等中尉六名乘馬一等軍曹三名同二等軍曹三名徒歩一等軍曹十二名同二等軍曹三十名乘馬憲兵卒三十名徒歩憲兵卒二百十名

憲兵士官ハ革命ノ際海軍憲兵士官又ハ常備軍ニ附屬シテ出戰五回以上ニ及ビシ海軍士官中ヨリ之ヲ募集シ又補助ハ海軍主計ヨリ之ヲ募集ス憲兵卒ハ海軍憲兵地方憲兵又ハ海陸軍ノ下士兵卒ヨリ之ヲ徵集ス

共和曆第十一年十二月六日(千八百三年八月二十四日)ノ裁定ヲ以テ各中隊ニ

於テ經理會議ヲ設置シ大尉中尉及ビ一等軍曹ヲ以テ議員トシ別ニ下士一名  
ヲ置キ書記及ビ出納ノ職務ニ任ヌ又同上ノ裁定ニ因リ海港及ビ造船場ノ憲  
兵ノ制服ヲ地方憲兵ト同一ニシ唯其卸鈕ニ刻スルニ編隊ノ番號ヲ以テセス  
シテ錨ヲ附スルノ差アルノミ

第一帝政ノ時ニ當リ中隊ノ數ヲ六個乃至八個ト定メ「アンヴェル」ノ中隊ハ第  
十七編隊ヨリ轉シテ第十五編隊ニ編入シ各中隊ハ一ヨリ八ニ至ル番號ヲ附  
シ左ノ如ク之ヲ部署セリ

第十五編隊 第一中隊 「ブーローギユ」ニ二等大尉一名 「アンヴェル」ニ二等  
中尉一名

第二編隊 第二中隊 「シエルブール」ニ二等大尉一名二等中尉一名  
第四編隊 第三及ビ第四中隊 第三中隊 「ブレス」ニ二等大尉一名二等中尉  
一名 第四中隊 「ロリヤン」ニ二等大尉一名二等中尉一名

第七編隊 第五中隊 「ロツシュエフオール」ニ二等大尉一名二等中尉一名  
第三十三編隊 第六中隊 「ットロン」ニ二等大尉一名二等中尉一名

第二十八編隊 第七中隊 「スペナヤ」ニ二等大尉一名主計少尉一名「ヴェーヌ  
及ビリヴトルヌ」ニ二等中尉二名

第二十四編隊 第八中隊 「ハンブール」ニ二等大尉一名「ブレイム」ニ二等中尉  
一名

千八百十四年七月十一日ノ布告ハ海軍憲兵中隊ヲ減シテ六中隊トシ之ヲ第  
三第五第六第九第二十及ビ第二十三編隊ノ管轄ニ附シ憲兵卒六名(隊長ヲ算  
入ス)ノ一伍ヲ以テ編成セシム千八百十五年九月十日更ニ布告ヲ發セシモ以  
上ノ六中隊ニハ改正ヲ加ヘス唯第二十及ビ第二十三編隊ノ番號ヲ改メテ第  
二十四及ビ第十六トシ各編隊ニ二等大尉一名二等中尉一名計官一名ヲ附シ  
各伍ハ兵八名(屯伍長ヲ算入ス)ヲ以テ編成シ其數ヲ左ノ如ク改メタリ

第二十四編隊 第一中隊 首部 「ブーローギユ」九伍(内二伍ハ乘馬)  
第三編隊 第二中隊 首部 「ハーヴル」六伍(内一伍ハ乘馬)  
第五編隊 第三中隊 首部 「ブレス」九伍(内一伍ハ乘馬)  
第六編隊 第四中隊 首部 「ロリヤン」七伍(内一伍ハ乘馬)

第九編隊 第五中隊 首部 「ロツシユフオール」十一伍(内一伍ハ乘馬)

第十六編隊 第六中隊 首部 「ツローン」第三編隊ニ全シ

總計二等大尉六名二等中尉六名計官六名乘馬及ヒ徒步ノ下士二等軍曹并ニ  
憲兵卒四百〇八名其後乘馬伍ヲ廢シテ悉ク之ヲ徒步ト改メタリ

千八百二十一年十月二十日ノ布告ニ於テ各伍ノ兵員二名ヲ減セリ千八百十  
九年三月三十一日ノ裁定ハ海軍憲兵大尉及ヒ中尉ヲ以テ府縣ノ憲兵大中尉  
ト其官等ヲ全一ニシ而シテ大尉及ヒ中尉ニ等級ヲ設ケス且海軍憲兵中隊ノ  
數ヲ五個ト定メ「ハーヴル」ノ海軍管區ハ「シエルブル」ヲ以テ首部トシ「プレス」  
「ロリヤン」「ロツシユフオール」「ツローン」ノ各海軍管區ハ其地ヲ以テ首部トス以  
上ノ中隊ハ第四第五第六第九及ヒ第十六編隊ニ附シ各中隊ニハ大尉一名中  
少尉二名(内一名計官)ヲ置ク又王政復興ノ時ニ當リ之ヲ軍港及ヒ造船場ノ王  
國憲兵ト稱セリ

千八百三十年九月八日ノ布告ヲ以テ其制服ヲ改正シ之ヲ府縣ノ憲兵ト全一ニ  
ス唯其鈕釦ノ周邊ニ *Gendarmerie des ports et arsenaux* (軍港及造船場憲兵)ノ文字ヲ附シタリ

千八百三十二年六月十九日ノ條例ヲ以テ軍港及ヒ造船場ノ憲兵ヲ海軍大臣  
ノ直轄トシ之ニ海軍憲兵ノ名稱ヲ附ス該憲兵中隊ニハ其所屬海軍管區ノ番  
號ヲ附シ第一中隊(大尉一名計官一名中尉二名)ヲ除クノ外ハ各中隊ニ大尉一  
名計官一名中尉一名ヲ附屬セシメ各伍ハ憲兵卒五名(一等軍曹又ハ二等軍曹  
ノ屯伍長ヲ算入ス)ヲ以テ編成ス而シテ之ヲ各中隊ニ部署セシ數ハ各々多少  
ノ差アリ

第一中隊 「シエルブル」九伍一等軍曹三名二等軍曹六名憲兵卒三十六名  
第二中隊 「プレス」十一伍一等軍曹三名二等軍曹八名各憲兵卒四十四名  
第三中隊 「ロリヤン」十三伍一等軍曹四名二等軍曹九名憲兵卒五十二名  
第四中隊 「ロツシユフオール」七伍一等軍曹二名二等軍曹五名憲兵卒二十八  
名

第五中隊 「ツローン」十一伍一等軍曹三名二等軍曹八名憲兵卒四十四名  
憲兵ハ海軍下士兵卒中ニテ憲兵採用規則ニ合格セルモノヲ取テ之ニ任ス又  
憲兵中尉ニ缺員アレハ海軍歩兵士官中ヨリ之ヲ補缺シ來リシカ千八百三十

三年一月一日ニ至リ此制ヲ廢ス  
 千八百四十六年十一月二十一日ノ布告ニ於テ海軍憲兵ニ一等軍曹一名二等軍曹二名及ヒ憲兵卒十二名ヲ増加シ之ヲ第一第二第四第五中隊ニ部署セリ  
 千八百五十八年七月十五日ノ布告ヲ以テ海軍憲兵ノ名稱ヲ改メ之ヲ海軍帝國憲兵ト稱ス然レモ其五中隊ノ番號及ヒ管區ニハ別ニ改正ヲ加ヘス憲兵ハ千八百五十四年三月一日ノ憲兵採用規則ニ準シテ之ヲ募集シ士官ノ進級ハ五中隊ノ總員ヲ合シ其故參停年順序ヲ追テ昇級セシム中尉ノ缺員ハ年齡二十五年以上三十五年以下ノ海軍中尉ニシテ一ケ年以上其職ニ在ルモノヲ取リ其缺員ノ半數ヲ補缺ス千八百六十七年六月二十二日ノ布告ハ府縣ノ憲兵ト全一ノ方法ヲ以テ更ニ海軍大尉及ヒ計官ヨリ憲兵士官ノ缺員ヲ補缺セシム千八百五十八年七月十五日ノ布告ニハ別表ヲ附シ以テ士官下士二等軍曹ノ部署及ヒ部隊又ハ孤立兵ノ沿海分遣地ヲ示シ然リ全員ハ士官下士ヲ算入シテ三百三十二名即チ少佐二名中隊長大尉三名計官大尉一名計官中尉四名小隊長中尉七名内二名ハ府外「バグ」及ヒ「マルセイユ」計官附一等軍曹五名

現役一等軍曹十九名二等軍曹四十一名憲兵卒二百四十名トス千八百六十一年十月十五日ノ布告ヲ以テ更ニ十三伍(一等軍曹三名二等軍曹九名憲兵卒四十八名)ヲ増設ス故ニ三百二十二名ノ總員ハ更ニ三百八十二名ニ増加セリ  
 海軍憲兵ハ海軍參軍之ヲ統轄シテ編隊長ノ職務ヲ執行シ來リシチ千八百六十六年五月三十一日ノ海軍省達ヲ以テ之ヲ廢シ更ニ千八百七十二年五月二十一日ノ省達ヲ以テ三ケ月毎ニ檢閲ヲ執行セシム  
 千八百六十六年十月二十六日ノ勅令ヲ以テ海軍憲兵ノ全員ヲ六百二十一人ニ定ム(士官並ニ幼年兵ヲ算入ス)而シテ其編成ハ猶ホ今日ニ於ル如ク第一第二及ヒ第五中隊ハ中隊長少佐三名計官大尉三名第三及ヒ第四中隊ハ中隊長大尉二名計官中尉二名「ツローン」及ヒ「バグ」ハ小隊長大尉二名「シエルフール」「プレス」「ロリヤン」「ロツシユフオール」及ヒ「マルセイユ」ハ小隊長中少尉五名其他曹長五名計官附一等軍曹五名一等軍曹三十二名二等軍曹七十七名憲兵四百六十四名幼年兵二十一名ヲ以テ編成セリ  
 千八百七十年九月四日ノ事變以來海軍憲兵ノ舊稱ヲ復シ其採用規則ハ地方

三年一月一日ニ至リ此制ヲ廢ス  
 千八百四十六年十一月二十一日ノ布告ニ於テ海軍憲兵ニ一等軍曹一名二等軍曹二名及ヒ憲兵卒十二名ヲ増加シ之ヲ第一第二第四第五中隊ニ部署セリ  
 千八百五十八年七月十五日ノ布告ヲ以テ海軍憲兵ノ名稱ヲ改メ之ヲ海軍帝國憲兵ト稱ス然レモ其五中隊ノ番號及ヒ管區ニハ別ニ改正ヲ加ヘス憲兵ハ千八百五十四年三月一日ノ憲兵採用規則ニ準シテ之ヲ募集シ士官ノ進級ハ五中隊ノ總員ヲ合シ其故參停年順序ヲ追テ昇級セシム中尉ノ缺員ハ年齡二十五年以上三十五年以下ノ海軍中尉ニシテ一ケ年以上其職ニ在ルモノヲ取リ其缺員ノ半數ヲ補缺ス千八百六十七年六月二十二日ノ布告ハ府縣ノ憲兵ト全一ノ方法ヲ以テ更ニ海軍大尉及ヒ計官ヨリ憲兵士官ノ缺員ヲ補缺セシム千八百五十八年七月十五日ノ布告ニハ別表ヲ附シ以テ士官下士二等軍曹ノ部署及ヒ部隊又ハ孤立兵ノ沿海分遣地ヲ示シタリ全員ハ士官下士ヲ算入シテ三百三十二名即チ少佐二名中隊長大尉三名計官大尉一名計官中尉四名小隊長中尉七名内二名ハ府外ハ「トウル」及ヒ「マルセイユ」計官附一等軍曹五名

現役一等軍曹十九名二等軍曹四十一名憲兵卒二百四十名トス千八百六十一年十月十五日ノ布告ヲ以テ更ニ十二伍(一等軍曹三名二等軍曹九名憲兵卒四十八名)ヲ増設ス故ニ三百二十二名ノ總員ハ更ニ三百八十二名ニ増加セリ海軍憲兵ハ海軍參軍之ヲ統轄シテ編隊長ノ職務ヲ執行シ來リシチ千八百六十六年五月三十一日ノ海軍省達ヲ以テ之ヲ廢シ更ニ千八百七十二年五月二十一日ノ省達ヲ以テ三ヶ月毎ニ檢閲ヲ執行セシム  
 千八百六十六年十月二十六日ノ勅令ヲ以テ海軍憲兵ノ全員ヲ六百二十一人ニ定ム(士官並ニ幼年兵ヲ算入ス)而シテ其編成ハ猶ホ今日ニ於ル如ク第一第二及ヒ第五中隊ハ中隊長少佐三名計官大尉三名第三及ヒ第四中隊ハ中隊長大尉二名計官中尉二名「ツィロン」及ヒ「ハトウル」ハ小隊長大尉二名「シェルフール」「ブレス」「ロリヤン」「ロツシユフオール」及ヒ「マルセイユ」ハ小隊長中少尉五名其他曹長五名計官附一等軍曹五名一等軍曹三十二名二等軍曹七十七名憲兵四百六十四名幼年兵二十一名ヲ以テ編成セリ  
 千八百七十年九月四日ノ事變以來海軍憲兵ノ舊稱ヲ復シ其採用規則ハ地方

ノ徒步憲兵ニ準ス千八百七十二年四月八日身長ニ關シ海軍省達ヲ以テ之ニ  
地方憲兵ト同一ノ改正ヲ加ヘタリ  
兵器及ヒ制服ニモ亦地方憲兵ト同一ノ改正ヲ加ヘ殊ニ千八百七十二年七月  
十三日ノ省達ヲ以テ更ニ其制服及ヒ兵器ヲ一定セリ

### 第八款 殖民地ノ憲兵

第十四世紀ノ末年查理五世ノ治世ニ當リ此ニ初テ殖民論ノ端ヲ開キシカ爾  
來百五十年間絶テ其說ヲ唱ヘシモノナク降テ「フアンソア」一世ノ時代ニ至  
リ「ジャック、カルチエ」ナルモノ北米「カナダ」ニ移住シ顯理四世ノ時代ニ至テ更  
ニ殖民論ノ再焰セシヲ見タリ爾後大ニ政府ノ着意ヲ惹キ起シ路易十三世及  
ヒ十四世ノ治世間千六百九十七年「クスウヰク」ノ條約ヲ締結スルニ至ルマテ  
ニ當時ノ宰相「リツシユクユ」及ヒ「コルベール」ハ熱心ニ其實施ヲ謀リ暫時ニ  
シテ偉効ヲ奏シタリ然レモ其銳進ノ勢力ハ永ク繼續スルヲ得ス千七百十四  
年路易十四世ノ「ユトレツク」ノ條約ハ實ニ其退歩ノ徵ヲ呈セシモノナリ千七  
百六十三年路易十五世ニ至リ巴里ノ條約アリ七年ノ戰爭此ニ始テ其局ヲ結

ヒシモ殖民政略ハ萎靡振ハズ尋テ路易十六世末年ノ變亂第一共和戰及ヒ第  
一帝政ノ戰亂ハ倍々退歩ノ勢ヲ助長セシカ遂ニ路易十六世ノ時ニ於テ初テ  
殖民地内ノ施政ヲ整復スルニ至レリ

殖民地警察ノ法内地ト稍ヤ相似タリ而シテ其警察ハ民兵ヲ以テ之ニ任シ土  
人ヲ編入シ士官ヲ以テ統轄セシム千七百九十一年六月十二日及ヒ七月十日  
發布セ「インドマング」ノ殖民管理ニ關スル勅令ハ殖民地ノ大將裁判所及ヒ警  
察隊ヲ廢シ憲兵隊ヲ以テ之ニ代ヘタリ因テ往時殖民地ニ大將裁判所ノ設ケ  
アリシヲ知ルナリ憲兵ハ全員四百人以上七百人以下ニシテ乘馬徒歩ノ二兵  
各々半數ヲ以テ編成シ徒步憲兵ハ專テ市街ノ警察ニ任シタリ

制服ハ本國各地方ノ憲兵隊ニ全シ  
大將裁判所及ヒ警察隊ニ附屬セシモノニシテ殖民政議會及ヒ知事之ヲ不適  
任ト認メサルモノハ其官等ノ儘ニテ之ヲ憲兵ニ採用セリ

第一帝政ノ時代ニハ今日ニ於ケル如ク佛國ニ補充隊ヲ置キ以テ殖民地ノ憲  
兵ヲ養成セシカ此補充兵ハ之ヲ殖民地ニ派遣セシ「ナク多クハ之ヲ軍隊ノ

憲兵ニ採用セリ  
千八百十四年「マルチニツク」及ヒ「グアドループ」ノ二ヶ所ニ始テ殖民地ノ憲兵ヲ設置シ「マルチニツク」ノ憲兵ハ少佐ヲ以テ其指揮ニ任シ「グアドループ」ハ大尉ヲ以テ隊長トナセリ

千八百二十年「マルチニツク」及ヒ「ブールボン」島ヲ二中隊トシ大尉二名中尉四名ヲ之ニ附ス

千八百二十三年十二月三十日ノ勅令ヲ以テ殖民地ニ特別隊ヲ編成シ之ニ憲兵ヲ編入セリ

千八百二十五年一月二十六日ノ勅令ヲ以テ千八百二十六年一月一日以後ハ殖民地ノ徒歩及ヒ乘馬憲兵ヲ陸軍省ヨリ派遣スルコトナセリ又千八百二十八年十二月二十一日ノ勅令ニ由リ凡テ殖民地ニ於ル軍事ノ統轄及ヒ經理ハ千八百三十年一月一日ヲ以テ之ヲ海軍省ノ管理ニ附シ唯其憲兵隊ノミ依然陸軍ノ所轄ニ屬セリ

千八百三十年ニ於テハ殖民地ノ憲兵ハ僅カニ二中隊アリシノミ即チ「マルチ

ニツク」ノ中隊ハ全員六十八名ニシテ大尉一名中尉二名一等軍曹四名二等軍曹六名乘馬憲兵卒五十五名「グアドループ」ノ中隊ハ八十八名ニシテ即チ大尉一名中尉二名一等軍曹五名二等軍曹十名乘馬憲兵卒七十名ナリ

千八百三十一年ニ至リ「セーンピエール」及ヒ「ミクロン」ノ二島ニ憲兵二伍ヲ設置ス

千八百三十五年八月十七日ノ布告ヲ以テ以上三部隊ノ兵力ヲ確定シ「マルチニツク」及ヒ「グアドループ」ノ各中隊ニハ中隊長少佐一名小隊長中少尉ノ内二名乘馬一等軍曹五名(内一名ハ計官ノ職務ニ任ス)二等軍曹十二名及ヒ乘馬憲兵卒八十名又「セーンピエール」及ヒ「ミクロン」島ノ分遣隊ハ一等軍曹一名二等軍曹一名徒歩憲兵卒八名ヲ以テ編成セリ

千八百四十年九月六日ノ布告ヲ以テ「マルチニツク」及ヒ「グアドループ」ノ中隊ノ兵員ヲ増加シ百人ヲ百四十八人トシ更ニ「ブールボン」島ニ百人ノ一中隊佛領「ギーンヤンヌ」ニ五十人ノ半中隊ヲ設置シ之ヲ左ノ如ク部署セリ

「マルチニツク」及ヒ「グアドループ」ノ各中隊ハ中隊長少佐一名小隊長中少尉ノ

内二名計官中少尉ノ内一名一等軍曹八名二等軍曹十六名乘馬憲兵卒百二十名ヲ以テ編成ス

「ブールボン」島ノ中隊 中隊長大尉一名小隊長中少尉ノ内二名計官中少尉ノ内一名一等軍曹五名二等軍曹十一名乘馬憲兵卒八十名

佛領「ギーンヤンヌ」ノ半中隊 大尉一名中尉一名乘馬一等軍曹三名(内一名ハ計官ノ職務ニ任ス)二等軍曹五名乘馬憲兵卒四十名

佛領「ギーンヤンヌ」ノ憲兵半中隊ハ中尉ヲ以テ隊長トシ該半中隊及ヒ「ブールボン」島ノ幹部ハ地方憲兵編隊ノ士官下士憲兵卒ヲ以テ編成セリ

千八百四十六年四月十三日ノ布告ニヨリ「マルチニツク」及ヒ「グアドループ」ノ各中隊ニ於テハ大尉ヲ以テ首府ノ小隊長トシ佛領「ギーンヤンヌ」ノ半中隊ハ從來乘馬伍ノミヲ以テ編成セシカ爾后ハ乘馬憲兵三伍徒步憲兵六伍ヲ以テ編成シ一等軍曹一名二等軍曹二名憲兵卒十三名(以上乘馬)及ヒ一等軍曹二名二等軍曹四名憲兵卒二十四名(以上徒步)ヨリ成レリ「セーンピエール」及ヒ「ミリロ」ノ島ノ分遣隊ハ徒步一伍ヲ増加シ十人ヲ十五人トシ一等軍曹一名二等軍曹

二名徒步憲兵十二名ヲ以テ編成ス

千八百四十六年十月十七日ノ布告ヲ以テ殖民地ノ憲兵ニ乘馬兵二十人ノ分遣隊ヲ増加シ以テ濠洲ニ於ケル佛領ノ警察勤務ニ任ス此分遣隊ハ中少尉ノ内分遣隊長一名計官ノ職務ヲ執ル乘馬一等軍曹一名乘馬二等軍曹三名及ヒ乘馬憲兵卒十五名ヨリ成レリ又千八百五十一年十一月十二日ノ布告ヲ以テ更ニ分遣隊ヲ濠洲ニ發シ徒步憲兵卒十名一等軍曹一名二等軍曹一名憲兵卒八名ヲ以テ之ヲ編成シ且全年十二月一日ノ布告ニ由リ中少尉ヲ以テ其隊長トナセリ

千八百五十二年一月二十日ノ布告ヲ以テ佛領「ギーンヤンヌ」ノ半中隊ヲ増加シテ百人ヲ一中隊トシ「ブールボン」島ト全一ノ編成ニ改メタリ即チ憲兵卒九十六名乘馬一等軍曹一名乘馬二等軍曹二名乘馬憲兵卒十八名徒步一等軍曹四名徒步二等軍曹八名徒步憲兵卒六十三名

千八百五十二年七月十日ノ布告ヲ以テ殖民地五ヶ所ノ憲兵中隊ニ幼年兵ヲ附ス又千八百五十三年七月九日ノ勅令ヲ以テ佛領「ギーンヤンヌ」ノ憲兵中隊ハ



幼年兵ヲ除キ士官ヲ合シテ其兵員ヲ百五十人トシ乘馬二等軍曹一名同憲兵卒五名徒歩一等軍曹三名同二等軍曹七名同憲兵卒三十四名ヲ加フ又千八百五十四年一月十一日ノ布告ハ少佐ヲ以テ其中隊長トシ大尉ヲ首府ノ管區長トシ各中隊ニ計官附屬曹長及ビ一等軍曹ヲ設置ス

千八百五十四年九月三十日ノ布告ヲ以テ一等軍曹一名二等軍曹二名憲兵卒十二名幼年兵一名ヨリ成レル憲兵分遣隊ヲセチガルニ設置ス

千八百五十五年七月二十一日及ビ十月三十一日ノ布告ニ由リ「マルチニツク」ノ中隊ヲ增加シテ百六十六人トシ「ギーヤース」ノ中隊ヲ士官幼年兵ヲ合シテ百七十六人トシ左ノ如ク編成セリ

「マルチニツク」ノ憲兵中隊 中隊長少佐一名管區長大尉十名中少尉ノ内一名計官中少尉ノ内一名曹長一名計官附屬一等軍曹一名乘馬一等軍曹七名同二等軍曹十五名同憲兵卒百十五名徒歩一等軍曹一名同二等軍曹二名同憲兵卒十五名幼年兵五名

佛領「ギルバネ」ノ憲兵中隊 乘馬二等軍曹四名同憲兵卒二十七名徒歩一等

軍曹八名同二等軍曹十七名同憲兵卒百〇九名其他ハ「マルチニツク」ノ中隊ニ全シ

千八百五十七年一月二十四日ノ布告ヲ以テ「グアドループ」ノ中隊ヲ百六十六名トシ其部署ヲ「マルチニツク」ノ中隊ノ如ク定メタリ

千八百五十九年八月六日ノ布告ハ「レユニオン」島ノ憲兵ヲ増加シテ百二十名トシ乘馬徒歩二兵ヲ以テ屯伍ヲ編成ス又千八百七十年十一月十日ノ布告ヲ以テ之ヲ「マルチニツク」「グアドループ」「ギーヤース」ノ中隊ト全一ノ編成ニシ兵員ヲ百六十三名ト定ム即チ士官四名曹長一名會計附屬一等軍曹一名乘馬一等軍曹一名同二等軍曹十一名同憲兵卒七十五名徒歩一等軍曹四名同二等軍曹八名同憲兵卒五十四名幼年兵五名

千八百六十年二月十八日ノ布告ヲ以テ濠洲諸島ノ憲兵ヲ分離シテ各別ニ其分遣隊ヲ編成シ「マイナ」島ハ一等軍曹一名二等軍曹二名徒歩憲兵卒十二名幼年兵一名ヲ以テ一隊ヲ作り「ヌーヴェールカレドニー」島ハ中尉一名乘馬一等軍曹一名同二等軍曹三名同憲兵卒十五名徒歩一等軍曹一名同二等軍曹一名

同憲兵卒八名ヲ以テ其分遣隊ヲ編成セリ  
 千八百六十一年六月十五日陸軍省ノ決議ヲ以テ憲兵五十三名ノ分遣隊ヲ編成シ之ヲ「パリス、コシヤンシーム」ノ佛國殖民地ニ派出セリ其編成ハ司憲大尉一名司憲附屬中尉一名書記徒步一等軍曹一名乘馬一等軍曹一名同二等軍曹三名全憲兵卒十六名徒步一等軍曹二名全二等軍曹四名全憲兵卒二十四名又千八百六十八年十月十二日ノ布告ヲ以テ之ヲ「コシヤンシーム」ノ憲兵分遣隊ト稱シ之ニ計官中少尉一名乘馬一等軍曹二名全二等軍曹二名全憲兵卒十六名徒步一等軍曹二名全二等軍曹四名全憲兵卒二十三名幼年兵二名ヲ増加シ其兵員ヲ百〇五人ト定メタリ又千八百七十年二月二十三日ノ布告ヲ以テ「コシヤンシーム」ノ分遣隊ヲ百二十六人ニ改メ少佐一名(隊長)大尉一名中少尉ノ内二名(内一名ハ計官)曹長一名計官附屬一等軍曹一名乘馬一等軍曹二名全二等軍曹七名全憲兵卒四十名徒步一等軍曹四名全二等軍曹九名全憲兵卒五十六名幼年兵二名ヲ以テ編成セリ又千八百七十四年二月二十一日ノ布告ヲ以テ「コシヤンシーム」ノ憲兵ヲ舊編成ニ復シ其兵員ヲ五十五人ニ減シ大尉一名

(隊長)中少尉ノ内一名出納掛一等軍曹一名乘馬一等軍曹三名同二等軍曹七名同憲兵卒四十名幼年兵二名ヲ以テ編成ス  
 千八百六十一年十月一日ノ布告ヲ以テ「グアドループ」ノ憲兵ニ中少尉ノ内一名乘馬一等軍曹二名全二等軍曹三名全憲兵卒七名ヲ増加シ其全員ヲ百七十九人トナセリ

同日第二ノ布告ヲ發シ「セチガール」ノ憲兵ニ徒步一等軍曹一名同二等軍曹二名全憲兵卒六名ヲ増加シ中少尉ノ内一名ヲ以テ隊長トス又千八百七十四年二月二十六日ノ布告ヲ以テ二十六名ヲ減シテ左ノ九名ヲ加フ即チ一等軍曹一名二等軍曹一名徒步憲兵卒六名幼年兵一名  
 千八百六十三年一月二十八日ノ布告ヲ以テ大尉ヲ「ヌーヴェールカレドニー」ノ分遣隊長トシ千八百六十七年十二月二十五日ノ布告ヲ以テ其全員ヲ六十三人ト定ム即チ大尉一名中尉一名計官附屬一等軍曹一名幼年兵一名千八百七十一年十一月十九日第三回ノ布告ヲ以テ二十人ヲ増加シ更ニ千八百七十二年三月九日ノ布告ヲ以テ之ヲ一中隊ニ編成シ「ヌーヴェールカレドニー」ノ

中隊ト稱シ全員ヲ百十五人トシ大尉一名中少尉ノ内二名内一名ハ計官曹長一名計官附屬一等軍曹一名乘馬一等軍曹四名同二等軍曹九名同憲兵卒六十六名徒歩一等軍曹二名同二等軍曹五名同憲兵卒二十五名幼年兵四名ヲ以テ編成セリ

千八百六十六年三月三十一日ノ布告ニ由リ「グアドループ」「マルチニツク」「レユニヨン」「佛領ギーヤリス」ノ各中隊ノ幼年兵ヲ四名ト定メ千八百六十八年四月四日ノ布告ヲ以テ佛領ギーヤリスノ憲兵ヲ六十九人トシ之ニ士官二名内一名ハ大尉ノ分遣隊長及ビ幼年兵二名ヲ編入ス又全上ノ布告ハ中少尉ノ内一名ヲ以テ「タイチ」ノ憲兵分遣隊トシ其兵員ヲ二十五人ニ改ム而シテ士官及ビ幼年兵一名ヲ算入ス千八百六十九年六月五日ノ布告ハ「マルチニツク」ノ憲兵ニ管區長中少尉ノ内一名乘馬一等軍曹一名全二等軍曹三名ヲ新クニ設置シ乘馬憲兵卒二名ヲ廢シ士官幼年兵ヲ合シテ其全員ヲ百六十八人ト定メタリ殖民地ノ憲兵ハ以上ノ改正ヲ加ヘシヨリ以來今日ニ至テハ「マルチニツク」「グアドループ」「レユニヨン」「ヌーヴエール」「カレドニール」ノ四中隊及ビ「コシヤンシ」

又「佛領ギーヤリス」「タイチ」「セーレン」「ピエール」及ビ「ミクソン」島セチ「ガール」等ノ分遣隊五個ヲ設ケ全員ハ八百〇三人ニシテ即チ少佐四名大尉六名中少尉ノ内十三名内計官四名曹長四名計官附屬一等軍曹四名乘馬一等軍曹三十一名同二等軍曹六十八名同憲兵卒四百三十六名徒歩一等軍曹十三人同二等軍曹二十六名同憲兵卒百七十二名幼年兵二十六名ヲ以テ之ヲ編成セリ又千八百七十八年八月六日陸軍省ノ決議ニ由リ殖民地ノ憲兵ニ生徒憲兵ヲ置ク但シ其生徒ハ千八百五十五年十月十日ノ布告ヲ以テ定メタル例規ニ合格セルモノナリ

制服ハ左ノ諸點ニ於テ地方憲兵ト異ナル所アリ即チ「キユルトカ」式ノ短衣、長靴ヲ穿タス紺麻布ノ袴、コルス「島」ノ憲兵ニ全シ鼠麻布ノ略衣、正帽、兵卒ハ黑色絨製ノ匾條一線、士官ハ黑色絹製ノ匾條一線ヲ附ス毛章ハ兵卒ハ緋絨、士官ハ銀綯、鈕鈕ニ *gendarmierie coloniale* (殖民地ノ憲兵)ノ文字ヲ刻ス

其後亞非利加洲ノ分遣憲兵ノ正帽及ビ營内勤務ニ用井シ製製ノ帽ヲ廢シ略帽ヲ以テ之ニ代ヘ而シテ今日ニ在テハ「キユルトカ」ヲ廢シテ正衣ヲ着シ又某

ノ殖民地ハ作業服ヲ以テ略服ニ代ヘタリ

### 第九款 「コルス」島ノ精兵隊

千八百二十二年十一月六日ノ勅令ヲ以テ第十七師管ニ特別大隊ヲ編成シ之ヲ「コルス」ノ精兵隊ト稱シ該島ニ駐屯シテ憲兵ヲ援助ス其本部及ビ四中隊ノ編成ハ左ノ如シ

本部 大隊長一名 副官大尉一名 計官一名 軍醫一名 下副官一名 喇叭又ハ鼓手二等軍曹一名 縫工長一名 銃工長一名 靴工長一名 各中隊ハ大尉一名 中尉一名 少尉一名 曹長一名 一等軍曹四名 給養掛下士一名 二等軍曹八名 精兵八十六名(内二名ハ鼓手又ハ喇叭手) 該大隊ノ全員ハ士官十六人兵卒四百〇五人ニシテ成ル可ク其地ノ人民ヲ以テ編成ス下士二等軍曹ハ其最初ノ編成ニ限り之ヲ島民ノ退職下士中ノ志願者及ビ「コルス」島ノ憲兵編隊中ヨテ進級セラルベキ二等軍曹及ビ憲兵卒ヨリ採用ス兵卒ハ之ヲ「コルス」ノ舊軍人又ハ徵兵令ニ合格ノ新兵ヨリ募集シ其定員尙ホ不足ナレハ輕歩兵第十編隊ノ兵卒中ヨリ採用ス進級ハ現行進級令ニ

準據シ且兵員ハ毎年「コルス」島ノ徵兵ヲ以テ補缺ス

制服 略衣及ビ太キ袴之ニ半脚胖ヲ附ス 外套 略帽 革帶之ニ拳銃ノ革

囊ヲ附ス

兵器 一兵ニ騎銃一挺 拳銃二挺軍刀一振

千八百四十五年七月二十三日及ビ八月六日ノ省令ニ由リ紺羅紗ヲ以テ製シタル亞非利加形ノ「カスケツト」ヲ以テ略帽ニ代ヘ之ニ耐水布ノ頭蓋廉及ビ黃銅製ノ山獵喇叭徽章ヲ附シテ裝飾トス又同年八月七日ノ省令ヲ以テ前年六月十七日ノ布告ヲ實施シ紺羅紗ノ正衣ヲ以テ略衣ニ代ヘ之ニ同色ノ笹縁ヲ附シ前部ハ四個ノ「ホツク」ト三個ノ繡飾細紐ヲ以テ合セ紺羅紗ノ無袖外套ヲ以テ従前ノ外套ニ代ヘ更ニ亞非利加形ノ「カスケツト」ヲ廢シテ再ヒ略帽ヲ用ヒ半靴ト脚胖ヲ廢シテ長靴ヲ採用セリ

千八百四十九年十月二十五日ノ服裝條例ニ據レバ「コルス」島及ビ「アル」シエリ「」ノ精兵ハ左ノ如ク被服ト屬具ヲ改正セリ即チ其正衣ハ胸部ニ九個ノ鈕釦ヲ附シ外套ハ無袖薄紺羅紗ニシテ三個ノ繡飾紐ヲ以テ前部ヲ合ハス又薄紺

羅紗ノ略衣、藍鼠羅紗ノ袴、紺麻布ノ袴、紺絨ノ正帽、薄紺ノ略帽、紐緊ノ半長靴、黒革製ノ彈藥盒、又肩章ハ兵卒ハ綠絨、士官ハ銀製、副官及ビ下副官ハ金製、袖章ハ二等軍曹ハ黃色絨、下士ハ銀線

兵器、士官ハ歩兵用軍刀「コルス」ノ精兵ハ歩兵用軍刀、擊莖銃、銃劍、亞爾塞ノ精兵ハ歩兵用軍刀、擊莖式「ドラゴン」銃、銃鎗

千八百四十一年九月八日諸兵科幹部ノ編成法ヲ制定シ以テ千八百二十二年十一月六日ニ布告セシ人員ヲ維持ス但計官ヲ大尉ノ等級トシ且喇叭二等軍曹一名喇叭手八名ヲ増加セリ千八百四十五年六月十七日ノ布告ハ大隊ノ兵力ヲ増減セサルモ之ヲ輕歩兵隊トナシ第十七師管司令將官ノ指揮ニ屬シテ警察勤務ニ任セリ且全布告ハ更ニ千八百三十八年三月十六日布達ノ徵募條例ヲ再ヒ記載シ現役歩兵ニシテ服役二年以上ノモノ及ビ服役滿期ノ兵ニシテ師團長ノ許可ヲ得ルモノハ之ヲ精兵ニ採用シ下士二等軍曹ハ歩兵隊ト全一ノ規則ニ照シ師管司令中將之ヲ任命シ少尉ノ缺員三分一ハ歩兵科少尉ヨリ取リ其三分二ハ既ニ進級名簿ニ登錄セル歩兵少尉又ハ下士ヲ以テ補缺ス

又中尉及缺員三分二ハ該大隊ノ少尉ヲ以テ補缺シ三分一ハ歩兵科中尉補缺之ヲ取ル大尉ノ缺員ハ該大隊ノ中尉ヲ以テ補缺ス且大尉及ビ少佐之ヲ歩兵科ノ同級者ニ合シ其順序ヲ追テ進級セシム  
千八百五十年四月二十三日ノ布告ハ「コルス」高精兵大隊ヲ廢止志願憲兵大隊ニ以テ之ニ代スルヲ命ジ

第十款

留守憲兵中隊即チ憲兵少隊

千八百三十年四月二十五日勅令ヲ發シ憲兵ノ在職十五年以上ニシテ既ニ老年劇務ニ堪ヘサル者未ダ退職ヲ望ム者ヲ以テ留守歩兵第三及第四第五十三中隊ニ編入シ留守憲兵中隊ニシテ其各中隊ハ士官四名一等大尉一名二等大尉一名三等中尉一名二等兵卒七十八名由書長一名由一等軍曹三名由給養掛下士一名由二等軍曹六名由歩兵六十五名由鼓手二名由以テ編成ス且留守憲兵第二中隊ハ之ヲリヨム「デブ」州ニ編成シ千八百三十二年ヲ以テリヨム「ニ」中隊ヲ設置セリ  
千八百三十年六月十六日ノ布告ヲ以テ徒歩憲兵ノ略服ヲ支給ス但シ

其帽子及飾緒ヲ廢止留守歩兵中隊者正帽ヲ撰拔兵隊肩章並ニ以之出代  
 へヨリ且卸鈕ニ *compagnie sedentaire de gendarmes* (留守隊)ノ文字ヲ刻ス兵器ハ師  
 團憲兵ノ短刀及ヒ千八百三十五年式短銃ヲ用フ  
 千八百三十年六月二十三日ノ省令ヲ徒歩憲兵ト全共ニ服裝品目並ニ  
 月十六日ノ布告ヲ完成セリ紺羅紗ノ外套並ニ藍鼠羅紗ノ袴冷白布並ニ袴冷雨衣  
 正帽ニ紺羅紗ノ略衣ニ脚脛ニ袖章及ヒ裝具ニ憲兵隊ニ全ニ對スル一  
 千八百四十五年十月八日ニ訓令ヲ以テ詳細ニ服制ヲ示シ且ニ憲兵隊全  
 一ノ服制ニシテ袖端ノ反縁ニ紺羅紗ノ襷袢ヲ縫着シ卸鈕ニ *compagnie de gendarmes  
 mes veterans* (老年隊)ノ文字ヲ附ス歩兵撰拔隊ノ肩章ハ紺羅紗ノ縁飾 薄紺  
 羅紗ノ袴 紺羅紗ノ略衣 雨衣ハ兵卒ハ鐵鼠色 士官ハ紺色 正帽ハ輕步  
 兵ニ全シ兵卒ハ之ニ紺絨ノ細紐及ヒ匾條ヲ附シ士官ハ之ニ銀製ノ卸鈕  
 中隊ノ番號ヲ刻シ毛章ハ撰拔兵ニ全シ略帽ノ縁飾及ヒ榴彈ハ兵卒ハ紺絨  
 士官ハ銀製トス兵卒ノ革具ハ白色 士官ハ銀製ノ肩章並ニ釣劍革ハ黑色 劍  
 條ハ憲兵隊ニ全シ胸部ノ徽章ハ歩兵隊員全シ袖章並ニ下士ハ銀製中士等軍

曹ハ紺絨 兵卒ノ兵器ハ上ニ全シ士官ハ劍ヲ佩用ス  
 千八百五十二年七月十日ノ布告ヲ以テ老年憲兵ニ各中隊ニ幼年兵三名ヲ附  
 シ千八百五十三年三月三十日ノ布告ハ老年憲兵隊ノ爲メ特別條例ヲ制定  
 シ之ヲ其所在地憲兵編隊長ノ管轄ニ附屬セシム  
 千八百五十四年二月十五日ノ布告ヲ以テ老年憲兵ニ中隊ヲ合シ第一中隊下  
 シ下副官ヲ設置シ士官ヲ六名兵卒ヲ百六十三名ニ增加ス  
 二等大尉一名 一等中尉二名 二等中尉二名 下副官一名 會計掛曹長十名 一等軍  
 曹六名 給養掛下士一名 二等軍曹十二名 憲兵卒百三十名 鼓手四名 幼年兵八名  
 其後之ヲリヨム「*プロシヤ*」州ヨリ「*ガイオン*」州ニ移ス又千八百七十  
 二年一月二十五日ノ布告ニ由リ同年二月十五日ヲ以テ之ヲ解散シ士官ハ退  
 職又ハ休職トシ下士二等軍曹憲兵卒ハ其既ニ退職ノ申請ヲ不モシ及ヒ同年  
 ニ於テ服役二十五年以上ノモノハ悉ク飯給セシメ其恩給ヲ與フルヲ以テ之  
 ニ廢兵ノ給料ヲ支給シ幼年兵ハ地方憲兵隊ニ附屬セシム

第十一款 志願憲兵隊



服ニ以毛製區條ヲ以表線端與飾ニテ於帽五五採用セリ又千八百五十年四月  
 二十七日國民議會百決議上屆年五月廿一日本統領大憲告ニ由リ千八百四  
 十五年七月五日迄以テ設置セリ勳員憲兵大隊內增加ニ及中隊內其全員  
 計千五百太正許テ急務第貳大隊ヲ稱シ更ニ一大隊ヲ巴里府ニ編成シテ之ヲ  
 第貳大隊正稱ニシ其各夫隊ニ編成者左ニ如シ第壹軍曹四十八名 第貳軍曹六名  
 本隊本部大隊隊長少佐三名 副官末尉三名 計官中少尉一名 軍醫六名  
 派副官計名ニ計官附兵等軍曹四名 計官附三等軍曹十名 鼓手計等軍曹十  
 名 副官大尉一名 計官一名 計官一名 計官一名 計官一名 計官一名 計官一名  
 本隊隊員勳員兼務尉亦各ニ由少尉末尉各一名 曹長八名 給養掛兵等軍曹八名  
 二等軍曹四名 兵士等軍曹九十六名 協憲兵率九百九十二名 八鼓手十六名  
 本隊而中其募集法ニ憲兵採用條例ニ準據スルニ入リ又附屬ニシテ  
 千八百五十年五月七日ニ省省ヲ以テ其各大隊ニ統領長一名ヲ設置シ千八百  
 五十二年七月十日ニ布告ス以テ各中隊ニ幼年兵士三名ト定テ同年三月十  
 一日ニ勅令ス以テ志願憲兵ニ大隊ヲ撰拔憲兵人改稱セリ其後一中等

千八百五十年四月二十日日本統領ノ布告ヲ以テ精兵大隊ヲ廢シ志願  
 憲兵一大隊ヲ以テ之ニ代ヘ第十七編隊ニ於ル如ク「コルス」全島ノ警察ニ任  
 タリ該大隊四中隊ヲ以テ編成シ其全員ハ四百十九名即チ大隊長少佐一名  
 計官中少尉四名 計官附一等軍曹四名 大尉四名 中少尉八名 曹長四名  
 給養掛二等軍曹四名 二等軍曹十六名 三等軍曹三十二名 憲兵卒三百  
 四十名 鼓手三名 一等軍曹一名 二等軍曹一名 三等軍曹一名  
 該大隊ハ第十七編隊ノ麾下ニ屬シ其進級採用法及ヒ服務訓練等ハ一切憲兵  
 條例ニ準據シ又該憲兵大隊下士二等軍曹兵卒ニシテ憲兵採用規則ニ  
 依テ中隊ニ該憲兵大隊ヲ轉任スルヲ得ルシテ而シテ該憲兵ハ高民ノ志願者  
 其全體大衆以上ニ達スルヲ得ス  
 制服及ヒ兵器ハ該憲兵ニ準據シテ步兵憲兵隊ニ全クニ準據シ且其要ニ  
 千八百五十年八月七日日本議會令ヲ以テ志願憲兵大隊ニ統領長一名ヲ設置シ千  
 八百五十年五月四日日本統領ノ裁定ヲ以テ鼓手由廣ク喇叭手由以テ之ニ代  
 へ同年十月二十日日本議會令ヲ以テ志願大隊ヲ廢シ其士官下士二等軍曹及



志願兵卒第十編隊中官編入志願兵卒  
 千八百七十年六月五日行政官長以決議由第八中隊步兵五去隊及  
 七騎兵大隊以志願兵編成其全員幼年兵之合算數若干  
 百五十三人其以志願兵編成之警察二任之且必要ニ應シテ地方憲兵  
 其增加ニ其編成ニ左如シキ  
 參謀、申佐一名、憲兵少佐一名、監給大尉一名、副官木尉  
 副官二名、軍醫一名、被服掛中尉一名、軍醫一名、醫藥掛中尉一名、  
 參謀、軍副官一名、一等銃工長一名、編隊長附書記等軍曹一名、計官  
 四十名、附中等軍曹一名、劍術教師一等軍曹一名、會計書記二等軍曹一名  
 餘費掛鼓垂等軍曹一名、軍醫掛一等軍曹三名、軍曹三十二名、憲兵卒二百  
 未隊中大尉八名、中尉十名、少尉十名、曹長八名、附給養掛中等軍曹八名、曹長等軍  
 曹、大曹四由八名、二等軍曹九十六名、憲兵卒八百名、鼓手或喇叭手  
 憲兵一人、名以志願兵卒各名、給養掛等軍曹一名、志願  
 騎兵中隊十乘隊十名、中尉四名、曹長一名、給養掛等軍曹一名、志願

其全軍曹八名、給養掛等軍曹一名、二等軍曹十六名、中隊兵卒百五  
 千八百七十名、喇叭手三名、踏鐵工三名、幼年兵二名、  
 千八百七十七年五月十八日大統領ノ布告ニ以テ騎兵少佐ヲ廢シ全年十二  
 月卷印中報告ノ旨ニ志願兵編隊ニ未佐又ハ中佐一名ヲ以テ隊長トシ、  
 百七十七年四月廿二日ノ省達ニ以テ全年三月二十日ノ布告ヲ實施シ志願  
 兵編隊ニ生徒憲兵ヲ採用ス、此生徒兵千八百五十名、日ヲ以テ布  
 告セシ規則ニ合符、且年齢二十三年以上ニシテ十八ヶ月以上兵役ニ服セシ  
 條件兵ヨリ採用ス、一等軍曹一名、二等軍曹一名、副官一名、軍醫一名、  
 千八百七十七年十一月廿七日大總統ノ布告ニ由リ志願兵編隊中ニ二等軍曹  
 相當官ノ踏鐵工ヲ設置セシ、中尉一名、副官一名、軍醫一名、  
 騎服及地方憲兵ニ全ク但正衣ノ線飾ハ地質下全色ヲ用ヒ乘馬兵ハ袴中股  
 當ホ附正帽ハ銀製ヲ交又帶ハ區條ヲ以テ裝飾シ革具ハ黒色トシテ兵器モ  
 亦地方憲兵ニ全ク但徒歩憲兵ハ銃劍ヲ附着セシ、千八百七十四年式銃ヲ携帶  
 セリ

第十二款 臨時乘馬憲兵聯隊

乘馬憲兵二軍八月廿六日布告以臨時乘馬憲兵聯隊編成其然  
 聯隊參謀大佐名全少佐五名、監給少佐五名全副官大尉五名計官中尉  
 十名、副官、副官附屬中尉一名、被服掛中尉一名、旗手少尉一名、軍  
 醫十名、醫士十名、醫副大佐一名、由志願兵聯隊中二等軍曹  
 一名、副官正名、一等獸醫一名、二等獸醫一名、喇叭一等軍曹一名  
 列無聯隊半等軍曹五名、給養掛半等軍曹八名、正士等軍曹六名、日總士長  
 百十三名、日較工長一名、各級靴工長全等三銃士長一名、由志願兵聯隊  
 各乘馬中隊幹部中隊長一名、中少尉四名、中尉一名、一等軍曹又  
 千八百三十四名、八月廿七日布告以臨時乘馬憲兵第一中隊  
 廣其全員、地方憲兵聯隊、乘馬中隊、軍機僅六名、中隊、

此時、西大、中隊、駐在乘馬憲兵第一中隊、以臨時乘馬兵中隊、  
 千八百三十五年、三月、廿七日、布告、以臨時乘馬兵中隊、  
 千八百三十五年、三月、廿七日、布告、以臨時乘馬兵中隊、  
 編成、之、亞非利加、憲兵、編隊、中、編、該、地、之、警、察、事、務、任、之、其、全、員、  
 士官、正、士、等、軍、曹、及、兵、卒、計、合、七、百、七、十、以、內、在、聯、隊、四、百、四、十、名、頭、中、隊、  
 長、副、官、四、名、中、尉、大、尉、各、員、中、尉、五、名、三、尉、官、附、屬、長、各、員、乘、馬、兵、等、軍、曹、  
 五、十、五、名、全、中、隊、軍、曹、五、十、名、全、憲、兵、卒、三、百、五、十、五、名、中、隊、步、兵、等、軍、曹、  
 名、全、中、隊、軍、曹、五、十、名、全、憲、兵、卒、三、百、五、十、五、名、中、隊、步、兵、等、軍、曹、  
 以、全、中、隊、中、隊、長、之、經、理、會、議、其、議、之、益、如、其、首、部、大、定、乘、馬、兵、第、一、中、隊、  
 中、隊、長、之、經、理、會、議、其、議、之、益、如、其、首、部、大、定、乘、馬、兵、第、一、中、隊、  
 四年四月二十一日、勅令、以、各、中、隊、之、經、理、會、議、之、設、之、ヲ、アル、シ、ル、

千八百四十八年十月十九日行政官長ノ決議ヲ以テ亞非利加編隊ノ兵員ヲ  
 五百八十人馬匹中三百七十七頭ヲ減シ少佐一員ヲ第一中隊ノ指揮ヲ執リ大尉  
 巨名ニ依テ中隊長ノ職ヲ任ス其内ニ各々一隊ヲ設ケテ第一中隊ノ指揮ヲ執リ大尉  
 中少尉各一名計官十人又曹長ヲ廣シ屯伍ヲ百〇八伍  
 上中即番第五中隊ヲ置キ八伍第三中隊ヲ置キ二十五伍第五中隊ヲ置キ三老ノ係第四  
 中隊ヲ置キ七伍第六中隊ヲ置キ其全員ヲ乘馬憲兵三百五十人徒歩憲兵三百五十  
 人トシ第四中隊ハ首都ヲ不リテ中移シテ千八百四十九年八月六日并ニ同月  
 九日及千八百五十二年九月四日ニ各省各州以テ其管區内ニ改正中隊ヲ  
 置キテ之ヲ改シテ區區伍伍編入スルニ乘馬五十五人徒歩五十五人トシ  
 二月ニ布告并千八百五十二年四月十九日及千八百五十二年五月二十  
 日及ヒ管區長下副官曹長會計附屬官并ニ幼年兵ノ設置ニ關シ内地ノ編隊ト  
 同ク規則並亞非利加編隊ニ適用ス但テ第三中隊トシテ大尉ヲ以テ隊長ト  
 セリ千八百六十九年九月二十五日勅令ヲ乘馬兵各伍六名徒歩兵各伍五名ヲ減シ

唯中隊長少尉并ニ中尉大尉トシテ其管區内ニ編成屯伍區中少尉名定ムル  
 千八百五十五年三月十日ノ布告ヲ以テ伍數ヲ百〇八日百十八ニ増加シ其  
 兵員ヲ六百六十人馬匹法四百四十五頭ト定メ即所編隊長大佐若クハ中佐  
 半格少尉三名並中隊長大尉一名計官大尉計名并中少尉五名并管區  
 長大尉正名并中少尉九名並下副官并名由曹長三名計官附屬軍曹三名並  
 編隊長書記正等軍曹并馬十等軍曹二十名三騎二等軍曹五名并同  
 憲兵卒三百五十五名徒歩二等軍曹十四名并同正等軍曹二十九名并同憲兵  
 卒百七十二名小幼年兵二十名并同正等軍曹一名并同正等軍曹一名  
 千八百六十二年三月三日ノ布告ヲ以テ亞非利加散兵隊並馬及徒歩上等  
 兵ヲ撰選シテ補助兵トシテ亞非利加編隊ニ附シ以テ嚮導及ヒ通辨中隊並  
 其定員ハ各伍ヲ三名以内ト定ムルニ依リテ其管區内ニ編成屯伍區中少尉名定ムル  
 千八百六十三年九月七日ノ省令ヲ以テ第三中隊ニ編入ス千八百六十九年十二  
 月三日省令ヲ以テモスタガ子並管區内ニ編成屯伍區中少尉名定ムルニ依リテ  
 其管區内ニ編成屯伍區中少尉名定ムルニ依リテ其管區内ニ編成屯伍區中少尉名定ムル





名 會計書記一等軍曹三名 鼓手二等軍曹一名 聯隊長附書記二等軍曹一  
 名 監給少佐附憲兵卒一名  
 十二中隊大尉十二名 中少尉内二十四名 中曹長十名 給養掛一等軍曹  
 十二名 二等軍曹四十八名 二等軍曹九十六名 鼓手二十四名  
 千八百七十年八月二十七日大勅令以テ各州ノ編隊ヨリ新兵四百人ヲ徵募  
 各中隊員兵員八十三人ニ増加セリ以テ本隊ノ下士二等軍曹及ヒ憲  
 兵卒千二百人ヲ千六百人ニ増加セリ又千八百七十年十月一日ノ布告ヲ以テ  
 憲兵ヲ都下ニ引揚ケ未ダ編隊ニ就カサルモノハ其士官下士兵卒ヲ集合シテ  
 大隊長一人ノ指揮ヲ屬シテ最初ノ二大隊ヲ編成シテ六中隊ノ第三大隊ヲ編  
 成セリ而シテ其兵員ハ士官二十名下士二等軍曹憲兵卒八百人トスルニ以  
 徒歩憲兵聯隊ハ「ヴェルサイユ」府行政官長ノ決議ニ由リ千八百七十一年六月  
 二十六日ヲ以テ解散セリ  
 乘馬憲兵聯隊  
 兵員士官四十六人下士二等軍曹及ヒ憲兵卒七百二十人トスルニ以テ

幹部 聯隊參謀小參謀 六中隊  
 參謀 大佐一名 中佐一名 少佐三名 監給少佐一名 副官大尉一名 計  
 官大尉一名 計官附中少尉内一名 旗手中少尉内一名 軍醫三名 軍  
 醫補一名 一等獸醫一名 二等獸醫一名  
 小參謀 下副官三名 銃工長一名 輸車長一等軍曹一名 喇叭一等軍曹一  
 名 會計書記一等軍曹一名 喇叭二等軍曹一名 聯隊長附書記二等軍曹一  
 名 監給少佐附書記憲兵卒一名  
 六中隊 大尉六名 中少尉内二十四名 曹長六名 給養掛一等軍曹六名  
 一等軍曹四十八名 二等軍曹九十六名 喇叭手二十四名 蹄鐵工十二名  
 千八百七十年九月二十九日ノ布告ヲ以テ更ニ第二聯隊ヲ編成セシキ以上ノ  
 聯隊ハ之ヲ乘馬憲兵第一聯隊ト稱セリ  
 乘馬憲兵第二聯隊ハ「ヴェルサイユ」府行政官長ノ決議ニ由リ千八百七十一年  
 六月六日ヲ以テ徒歩憲兵聯隊ト同ク解散セリ  
 乘馬憲兵第二聯隊



徒步選軍憲兵聯隊乘馬聯隊同於千八百七十八年三月九日行政官長ノ  
 決議ヲ以テ大解隊スル事ヲ命ジ、同日、行政官長ノ一令ニ依リ、  
 一、北軍ヲ出戰憲兵中隊ヲ編成一隊、  
 北軍首將ヲ決議ニ由テ千八百七十九年十一月十日出戰憲兵二中隊ヲ以テ之ヲ  
 北軍ニ附屬セシメ、該中隊ハ千八百七十一年三月九日進軍憲兵三聯隊ノ解隊  
 天全一之決議ヲ以テ大解隊スル事ヲ命ジ、同日、行政官長ノ一令ニ依リ、  
 制服 以テ之ヲ諸隊ハ、帽子 長靴 鞍被及ヒ「シャプロン」ヲ除クノ外憲兵隊  
 ノ通常服ヲ全ク乘馬兵ハ股蓋ノ袴ヲ穿テ革具ハ黑色ナリ士官ハ紺ノ正衣ニ  
 紺羅紗軍服條帶附スル事ヲ命ジ、同日、行政官長ノ一令ニ依リ、  
 憲兵隊ハ其全体ノ動員支給ノ力成ハ臨時憲兵隊ヲ編成スルカ如キ場合ヲ除  
 キ常軍出戰軍ノ天全一應ニテ其警察事務ニ必要ニ憲兵ヲ派遣セリ此軍隊附  
 屬ノ憲兵六之ヲ各編隊又ハ憲兵部隊ニテ採用ス警察事務ノ外尙千八百五  
 十年三月十四日布告第五百五十三條ニ準據シ之ヲ大隊中隊聯隊又ハ編隊  
 官編成シ常備旅團ニ屬シテ内外ニ警察勤務ニ服セシムル事ヲ命ジ、同日、

大將裁判所所長士官ハ從來貴族中自少之ヲ採用セシメ、カ時勢ニ變遷ニ從テ其制  
 規漸ク弛廢シ、路易十六世ノ時代大將裁判所ノ士官中貴族ニ屬セサルモ  
 ノ其過半数ヲ占ムルニ至レリ是ヲ以テ第一革命ノ時ニ當リ他兵科ノ士官ハ  
 貴族政度顛覆シ爲メニ罷免セラレシモ特リ憲兵ノ士官ノニ依然其職ヲ繼續  
 シ大將裁判所ノ編制モ亦變更セサレシメ、且憲兵率ヲ採用法モ亦大ニ寬宥  
 シ加ヘテ他兵科ノ平均身長ヲ減低セシメテ憲兵率モ之ニ準シテ其身長ヲ減  
 低シテ又憲兵ノ職務ヲ擴張スルニ隨ヒ新兵ヲ徵集セリ其徵集ノ法ハ古來  
 曾テ其基礎ヲ變更セシメテ立ナク最良軍士ノ精神ニ富ムルモテ之ヲ採用シ來リ、  
 且ハ憲兵沿革誌ニ徵シテ明カナリ然レモ時ニ已メテ得テ所事故アリ此要  
 則ニ背キテカナル時勢ノ恢復ニ得テヤ直ニ其舊來ノ制規ニ準據シ以テ之  
 ヲ募集セシメテ以テ往昔立君政度ノ時ニ當リ國庫疲弊中ニ力爲メ其官職賣買ノ  
 制ヲ定メ若干金額ヲ納ムルモノヲ選シ其官職ヲ授ケルノ事アリ此大將於テ終ニ  
 軍人ヲ選擇シテ其能任スル能ハ大將裁判所所長亦顯ニ名譽ヲ失フ德義ヲ  
 壞ル軍人ノ精神ハ日衰頹シ遂ニ元帥裁判所所長後ハ軍人ノ精神如何





成文國之地方長官ハ慣習國ニ於テ町奉行ト稱シ共ニ全一ノ權力ヲ有セシ  
 判事ナリ地方長官ハ司憲及ヒ高等法官ノ控訴及ヒ諸侯ノ訴訟事件ヲ審判シ  
 其判決ハ更ニ之ヲ議事院ニ控訴ス又町奉行及ヒ地方長官ハ最初國君ヨリ之  
 地方ヲ派出シ「コソ」司憲及ヒ「ハク」官「ハク」裁判處分ヲ遂行セシ官吏  
 或ハ第三至統分時ニ至テ悉ク高等ノ官職トシ一時ハ最高ノ特權ヲ得タリ  
 或ハ「ハク」漸爾來漸ク其權限喪失シ終ニ只議廷ニ出席スルニ止リ宣告文及ヒ條  
 約書類署名及ヒ「ハク」並事ヲ存セシ「ハク」官既ニ事及ヒ裁判官副町奉行地方副長  
 官ニ於テ盜賊及ヒ貨幣贗造者胡亂者等ノ刑事審判ヲ負擔セシカ故ニ地方長  
 官亦愈々シ其裁判權ヲ喪失唯舊來ノ行政官トシテ日邁キサキニ「ハク」  
 副町奉行地方副長官ハ漸ク大將裁判所ニ編入セシ「ハク」千七百二十年該裁判  
 所ヲ改設於テ遂ニ以上諸官名ヲ廢シタリ町奉行及ヒ地方長官ノ裁判權  
 亦非立憲前トシ「ハク」查理六世路易廿二世「ハク」「ハク」世ノ時代ニ於テ千三百  
 〇五年千三百八十八年ノ布告及ヒ千四百九十九年千五百一十二年千五百三十  
 三年ノ勅令ヲ以テ之ヲ制定シ此最後ニ布告之ヲ「ハク」勅令ト云ハ

以降近世世至「ハク」町奉行資稱モ「ハク」「ハク」市令判事「ハク」  
 元帥裁判所トシ「ハク」「ハク」「ハク」云ハ「ハク」查理五世以來之「ハク」巴里府ノ裁判所内  
 官置置「ハク」漸次其管轄ヲ擴張シ管所野營又ハ路上ニ於ル軍人ノ暴行及ヒ犯  
 罪及ヒ兵科ト如何「ハク」間ハ「ハク」之「ハク」處分及ヒ「ハク」「ハク」對「ハク」所爲其他民事刑事  
 裁判ハ凡「ハク」軍事ニ關スル一切「ハク」裁判ヲ擔任セシ以上ハ大將裁判所トシ  
 官ニ任務トシ元帥裁判所ハ終審裁判ヲ執行ス「ハク」「ハク」其判決ハ更ニ之ヲ議  
 事院ニ控訴セシ該裁判所ノ權限ハ千三百五十六年佛王「ハク」「ハク」ノ裁定セシ  
 基督敎及ヒ條目其他千五百四十四年六月及ヒ六月「ハク」布告千六百十七年十一月  
 十五「ハク」布達千六百三十六年四月七日「ハク」顧問會「ハク」決議等「ハク」以テ之ヲ制定  
 地「ハク」又顧問會「ハク」決議「ハク」因「ハク」巴里府元帥裁判所ハ司憲及ヒ其中隊ノ士官警吏  
 又過失並「ハク」不正「ハク」行爲越權謀叛爭論等「ハク」審判「ハク」警吏「ハク」免罷其他中隊ノ風紀  
 軍紀ヲ監督セリ全時「ハク」上「ハク」等裁判所及ヒ其他ノ裁判所並ニ法官ニ於テ以上ノ  
 諸件ヲ審判スル禁シ又其判決「ハク」無効ナル「ハク」布告「ハク」更「ハク」千六百三十四年八月  
 二十日「ハク」布達「ハク」以テ全止「ハク」禁制「ハク」發「ハク」元帥裁判所ノ管轄ニ屬スルモノハ



轉居、轉職、士官下士憲兵卒ノ休暇、士官ノ檢査及ヒ巡回屯伍ノ配置、交通點、小隊中隊、乘馬、中隊、編隊ノ管區、常務及ヒ非常務屯伍ノ集合、及分屯所逮捕、移轉、金庫護衛、乞食、胡亂者、浮浪者、外國人移住人ノ監視、其他都テ國家ノ靜謐、人民及ヒ土地ノ安全ヲ害スルモノハ警視總監、裁判上ノ風紀ニ就キ大尉及ヒ中尉ヲ施シタル處分ニ關シテハ司法大臣、共和歷第八年七月八日ノ裁定ヲ以テ右ノ諸大臣ニ進呈スヘキ書類ノ區別及ヒ期限ヲ左ノ如ク布告セリ

各大臣ノ管理ニ屬スル通常及事件及ヒ其處分ヲ精細書シ五日以内ニ非常事件及ヒ其處分ノ報告ヲ二十四時間以内ニ前月ノ事件及ヒ其處分ヲ報告ハ每月初旬ヨリ五日以内ニ前年ノ事件及ヒ其處分ヲ異報ハ毎年第二期ヲ以テ呈送ス

事至急ニ關スルモノハ監軍ヨリ直チニ憲兵屯伍長及ヒ士官ニ交通シ其負擔スヘキ事件ハ左ノ如ク

第一 各部ノ齊一ヲ謀ル爲メ必要ノ條例案ヲ起草スル

第二 各伍ノ位置及ヒ交通點又ハ各部隊ノ管區表ヲ製シ

千八百十五年七月二十一日ヲ布告ヲ以テ憲兵監軍ヲ廢セヨリ以來會議ヲ設置シ即チ今日ニ在テハ憲兵會議アリ陸軍大臣ノ命ニ應ジ凡テ編成組織勤務軍紀訓練被服兵器及ヒ經理ニ關スル諸件ヲ討議ス又該會議ニ於テハ拔擢進級或ハ叙勳ニ就キ監軍ヨリ上申セシ將校ヲ順序ヲ定メ

監軍ハ人員及ヒ材料ヲ細密ニ檢査シ諸布告ヲ實施シ監視シ兵隊其設立ノ趣旨ニ適フヤ否ヲ確認シ且正當ナル褒賞ヲ與テ憲兵ヲ獎勵セリ

大將裁判所ノ檢閱ハ毎年八月一日ヨリ十月一日ニ至ルヲ以テ施行ス皇帝ハ司憲總官中ヨリ監軍ヲ撰定シ各小隊ニ檢閲ヲ行ヒ

如シ其他師管司令ハ毎年勅令ヲ受ケテ各中隊ヲ檢閱ス

師管及ヒ支管司令將官ハ各伍ノ集合及ヒ處置ノ目的社會ノ秩序ヲ整復スルニアルヲ憲兵ヲ指揮スルノ權ヲ有シ又輿論ヲ激昂スルキ事件ヲ報告ハ直チニ憲兵士官ヨリ之ヲ領收ス又郷里ニ住居セル軍人ニ關シテハ管區長若クハ屯伍長ト直接交通ヲナシ且將校ノ不在及ヒ重大ノ處罰ハ常ニ之ヲ熟知スルヲ要ス

路易十五世以來大將裁判所ノ士官モ亦地方司令官知事師管司令將官及ヒ其麾下諸屬タル少將等對シテ以全上ノ職分ヲ盡シ且要塞在テハ要塞本部ニ對シ憲兵ト全一ノ職務ヲ盡セリ

監軍ハ憲兵隊ヲ經理ヲ監視シ且經理會議ヲ管理ス又必要ナリト認ルモハ不時出納簿ヲ點檢シ軍事費定額金ヲ以テ支給スル等一切ノ任務ハ其命令ヲ下シ又現在存金額ハ時々之ヲ檢査ス

舊大將裁判所ハ在テモ千七百六十九年十二月二十七日及ヒ千七百七十八年四月二十八日ヲ布告シ準ニ監軍及ヒ任拂命令掛ノ命ヲ以テ軍務委員之ヲ點檢ス但シ其檢査ハ四月十五日ヨリ三十日八月十五日ヨリ三十日及ヒ十二月十五日ヨリ三十日ニ至ル限リ以テ四月毎ニ施行セリ

大將裁判所ノ管轄地ニ編隊ヲ編成セシメテ中隊小隊及ヒ屯伍ヲ以テ其建制區隊ニ然ルモ當時少司憲總官ニ在テハ其權限ハ今日ノ編隊長ニ比シ更ニ大ナルモ其人員ニ至テハ甚ク少數ナリ蓋シ其各地ニ散在セル屯伍ヲ以テ當時其職務ヲ盡シ得タル所以ナキヲ以テ他ニ其專業外ノ事實ハ多クハ收稅

官及ヒ鹽稅吏ノ調書ヲ以テ之ヲ證明セシメ故ナリ司憲總官ノ職務ハ猶ホ今日ノ編隊長及ヒ中隊長ニ於ルカ如ク唯其中隊ノ所屬監軍部長タル聯隊長ノ麾下ニ屬シ常ニ其指揮ヲ受クルノ差違アルノ、千七百二十年三月十六日發布路易十五世ノ勅令ヲ以テ其巡回ヲ每年三回ト定メ更ニ千七百七十八年四月二十八日ノ布告ニ據リ毎年四月十五日ヨリ五月十五日ニ至ル間ヲ以テ所屬中隊ノ屯伍ヲ小隊ニ集合シ下檢査ヲ施行セシムハ尙ホ今日ノ編隊長ニ異ナラス而シテ其檢査ハ八月若クハ九月ヲ以テ施行セシ檢閱官ノ檢査ニ全シ

司檢總官ハルノ宮殿内ヲ除クノ外ハ象牙製ノ球子ヲ附着セル司令杖ヲ携帶シ軍人ヲ監視シ又軍隊ノ風紀秩序ヲ維持シテ勅令ヲ遵奉セシムルニ人員ヲ要スルモハ警鐘ヲ鳴ラシテ村民ヲ徵集ス又王權ヲ維持シ人民ノ本分及ヒ服從ヲ要ノ徒黨暴動ヲ戒メ人心ノ激昂ヲ鎮メ反逆及ヒ貴族ノ犯則ナル集會又ハ國王ニ對シテ兵士ヲ徵募スルモノヲ處分ス知事及ヒ次官判事長并ニ邑吏ハ之ニ協力シテ村民ヲ徵集ス司憲總官次官及ヒ警察官モ亦ルノ

ノ宮殿ヲ除クノ外ハ猶ホ近衛隊ニ於ル如ク司令杖ヲ携帯シ司憲總官ハ其部下ノ書記警察官及ヒ警吏ノ誓盟ヲ要ス而シテ若シ不正ノ所爲アレハ停職ヲ命シ其重大ナルモノハ其職ヲ免シ他人ヲ以テ代ハラシム又其抗命怠慢及ヒ惡行ニ因リ高等裁判所ニ控訴セザルモノハ其職務ヲ免シ其必要ナリト認ムルキハ士官兵卒ヲ集合シ及ヒ乘馬セシメ拒辭スルモノハ停職ヲ命ス「プロア」ノ布告及ヒ千六百二十九年千七百二十年千七百五十三年ノ法令ニ據リ司憲總官ニシテ警吏ヲ任命スルニ手數料ヲ受ケシモノハ之ヲ十年ノ禁錮ニ處シタリ千七百十八年四月八日ノ布告第五十七條ハ步兵騎兵若クハ龍騎兵ニシテ司憲總官ヲ刺傷シ又警吏ニシテ自己ヲ防禦シ彼ニ對抗セシモノハ之ヲ絞罪ニ處セシム又千七百六十年四月十九日ノ布告ヲ以テ大將裁判所ノ屯伍長若クハ其部下ノ騎馬兵ニ對スル越權ノ調書ハ之ヲ書記局ニ送附シ檢事補ノ請求アレハ之ヲ元帥裁判所ノ檢事ニ送致ス

往時ノ大將裁判所ト今日ノ憲兵隊ニ就キ其士官ノ職制ヲ區別スレハ前者ハ判事ノ職ヲ帶ヒ而シテ後者ハ司權ノ裁判權ヲ除クノ外ハ司法警察官ニシテ

檢事ノ補助アルモノニ過キス裁判所相互ノ囑托又ハ現行犯ニ對シテハ其豫審ノ手續ヲ準備セリ

大將裁判所ノ士官ハ金額百「リ」ツル以内ノモノハ之ヲ審斷シ又反逆逃亡人ニ對シテハ終審ノ言渡シヲナシ或ハ時ニ死刑ヲ宣告セシハ千六百七十九年十月十三日「セ」ン「シ」エルマン「府」ヨリ「ツ」ール「府」ノ監督ニ宛宰相「コ」ルベルノ送リ「シ」書簡ニテ明白ナリ然レモ被告人ノ裁判ニ着手スル前ニハ先ツ其職權ノ有無ヲ終審裁判所ノ判事ニ於テ審判スルヲ要セシナリ

千五百六十四年八月「ル」ト「シ」ヨ「ン」ノ布告ニ據レハ判事又ハ評議官七名若シ該官不在ナレハ最近ノ終審裁判所ノ代言人七名マテヲ以テ職權ヲ審議セシメ而シテ司憲ニ其職權アリト認メタルキハ豫審裁判ヲ開カシメ若シ其職權ナキナ宣告セハ囚人ハ直チニ通常裁判官ニ交附セシム終審ノ判決ハ其近傍ノ終審裁判所ノ判事七名以上臨席シ其不在ナルキハ代言人ヲ臨席セシム訴訟ノ豫審モ亦證人ノ對審認確實問ニ於ル如ク其最近裁判所ノ判事又ハ終審裁判所ノ評議官一名ノ臨席ヲ要セリ裁判ノ言渡ハ曾テ之ニ臨席シ記名調印セ

シ判事ト其罪人ノ列席ニ於テ宣告文ヲ讀ミ上ケタル後ニアラサレハ執行スルヲ得ス凡テ訴訟ハ遅クモ二ヶ月以内ニ之ヲ處分シ永ク囚人ヲ繫獄シ置クヲ得ス

路易十一世及ビ「フランツァー」一世以來曾テ國王ノ直轄ニ屬セシ貴族ノ采地ハ漸ク其數ヲ増加シ巴里府ノ議會ニ於テモ封建時代ノ負債ニ對シ其訴訟ノ甚ク煩雜ナルニ苦ミタリ此ヲ以テ顯理二世ハ千五百五十一年勅令ヲ發シ終審裁判所ト稱スルモノヲ數ヶ所ノ市府ニ設置シ以テ上等裁判所ノ事務ヲ減シ且訴訟審斷ニ滯滞ナカラシメタリ

- 民事大裁判官 一名
- 刑事大裁判官 一名
- 民事陪席判事 一名
- 刑事陪席判事 一名
- 大檢事 一名
- 檢事 一名
- 故參シ判事總長 一名
- 一等判事長 一名
- 刑事裁判官 一名
- 民事刑事陪席判事 一名
- 「ライク」評議官 十三名
- 牧師評議官 二名
- 掌璽官 一名

又名譽評議官

一名

裁判費用及配當掛

一名

檢査官

二名

書類驗眞掛附屬官

二名

刑事書記

一名

提出掛書記

一名

民事牧師長

一名

旅行認定掛書記

一名

書記及牧師ノ檢査官

一名

料出納掛

三名

掌小璽

一名

領收掛ノ檢査官

一名

王國使丁

六名

差押掛

一名

内保證人二名 訴訟人二名 檢査人二名

以上ノ諸官ハ高價ヲ以テ其官職ヲ購買シ貴族ハ其領地ノ所管裁判所ニ金額ヲ納ムルモハ裁判特宥狀ヲ得タリ故ニ終審裁判所ヲ以テ國庫ノ財源トセシモノ多シ

千五百七十二年ノ布告ニ由リ終審裁判所ニ於テ處分スルキモノハ更ニ之ヲ司憲ニ送附シ其職權ノ有無ニ關スル訴訟ハ之ヲ宣告書中ニ記入スルコトナレリ千五百九十八年二月七日議會ノ決議ニ由リ凡ソ三罪具發ノ被告人ニシテ一ハ司憲ニ管轄ニ屬シ一ハ之ニ關係ナキモノハ之ヲ普通裁判所ニ送リタリ千六百〇八年五月八日ノ顧問會ノ決議ハ從前ノ諸規則ニ照シ凡テ地方副長官及七次官ニ於テ豫審ノ際其事件ノ司憲裁判所ニ屬セザルカ或ハ被告人カ市内又ハ市外ニ住居セルヲ確認セハ之ヲ普通裁判所ニ交附スヘキコトヲ達セリ又僧侶ニ對シテハ豫審訊問スルヲ得スト雖之ヲ逮捕シ抑留ノ後ハ更ニ普通裁判所ニ送附セリ千六百十八年三月二十四日<sup>ソラン</sup>上等裁判所ノ裁決ハ忌避又ハ管轄違ヒノコトニ關スルモノニシテ管轄違ヒノ裁判未タ終結セサル間ハ

終審裁判所ニ於テ囚人ヲ出獄セシムルヲ得ス又其審斷ニハ管轄若クハ管轄違ヒノ理由ヲ示シ且其訴訟ノ司憲裁判所ニ屬スルヤ否ヲ申告セシム全上ノ裁決ニ由リ地方副長官ハ評議局及ヒ檢事局内ニ於テ正劍ヲ携帯シ其列次ハ民事刑事大裁判官ノ次席トシ若シ該官不在ナレハ裁判所長ノ欠席ニ就キテ書記及ヒ警吏ノ謝金若クハ手数料ノコトニ因リ地方副長官ヨリ控訴セハ終審裁判所ニ於テハ之ヲ審查スルヲ得ス全年六月三十日ノ裁決ハ司憲次官書記及ヒ警吏ノ職務ニ關シテハ終審裁判所ニ於テ之ヲ審判スルノ權ナキヲ達シ其他上等裁判所ヨリハ數多ノ決議ヲ頒布シ司憲ト終審裁判所ノ判事トハ其職權ノ範圍内ニ維持シ又千六百七十九年十二月十四日ノ布達ヲ以テ大將裁判所ノ士官ト普通裁判所ノ判事ト其裁判權ノ抵觸ヨリ起レル決闘ノ弊ヲ制止シ更ニ千六百九十四年十月三日ノ布達ヲ以テ千六百七十年八月ノ布告第二十四條ニ據リ司憲裁判所ニ屬スル訴訟ニハ最近終審裁判所ノ判事七名之ニ列席シ又千六百七十八年九月二十三日發布ノ規則ニ據レハ判決前ニ於テ司憲ノ處分ハ終審裁判所ノ判事ノ外他ニ控訴スルヲ得ス該判事ハ其職權



ヲ審判セリ  
 千七百二十年十月三十日入布告ニ由リ終審裁判所ノ會議ニ於テ司憲總官ハ  
 裁判所長ノ次席ヲ占メ次官ハ顧問官ノ次ニ列ス但シ顧問官ニ於テ討議權ヲ  
 有スルモ此例ニ於テ又千六百九十九年十月三十日及千七百〇二年十  
 月十六日ノ裁決ニヨリ大將裁判所ノ司憲次官及ヒ陪席判事ハ其會ヲ豫審セ  
 シ訴訟ノ豫審裁判官タルヲ得ザルハ千七百三十八年三月十二日司法大臣ヨ  
 リ「ライトン」府大將裁判所ノ檢事ニ送リテ書簡ニテ明白ナリ又千七百三十一  
 年二月五日ノ布達ハ司憲ニ關スル諸件ヲ確定セリ  
 司憲ノ職務裁判權及ヒ管轄地ヲ稱シテ「プレグオーテ」ト云ヒ其裁判所ヲ「ク  
 ル、プレグオーテ」ト稱セリ蓋シ「司憲」ノ語ヨリ轉化セルモノナリ司憲裁判所  
 ノ職權ハ終審裁判所ニ於テ之ヲ審判セリ是レ畢竟其越權ノ弊ヲ豫防スルカ  
 爲メナリト雖訴訟ハ之カ爲メ甚シク滯留シ費用モ又増加スルニ至レリ又  
 他ノ弊害ハ若シ其地ニ皇室財産ヲ出納掛ヲ置カザルモハ司憲ハ一時自費ヲ  
 以テ其訴訟ノ手續ヲ大シ而シテ被告人ノ送致食料印紙其他ノ雜費ニ關シ其

既ニ支拂ヒタル金額ハ之ヲ速カニ償却セラレシメナシ故ニ罪人ノ處分ナリ  
 セザルモノ常ニ多シ  
 千七百九十年三月六日議會ノ投票ニ由リ全月七日勅令ヲ發シテ司憲ノ判決  
 ナ停メ其管理セル訴訟事件ヲ停止セリ然レモ司憲裁判所ヲ廢セシハ之ヨリ  
 數月ノ後ニアリ第一帝政及ヒ革命ノ時代ニ至リ更ニ司憲裁判所ヲ再興セシ  
 モ其性質タルヤ臨時ノ裁判所タルニ過キズ且其附屬員ハ文官ノ判事ニシテ  
 武官ノ判事ヲ以テ所長トシ之ヲ司憲ト稱シタリ又千八百十年帝政時代ノ設  
 置ハ專ラ密輸出入ニ關スル犯罪ヲ審判シ大陸ノ鎖港ヲ害スルモノヲ抑制セ  
 リ千八百十五年革命ノ時ニ至リ更ニ司憲裁判所ヲ設置シ政事ニ關スル重罪  
 及ヒ輕罪ノ言渡ヲナシ其宣告ハ二十四時間以内ニ之ヲ執行シ上告及ヒ特典  
 ノ請願ヲ禁シタリ  
 今日「プレグオーテ」ト稱スルハ千八百三十三年五月三日發布ノ陣中軌典第二  
 十七條ニ記載セシ司憲及ヒ大司憲ノ警察事務ノ外尙外國ニ於テ軍隊ノ裁判  
 ナ執行スル權ヲ云フ軍隊ノ占領地ハ其左右背後ヲ問ハス大司憲親ラ之ヲ管

理スルカ或ハ司憲ヲシテ管理セシム師團又ハ其附屬支隊及ヒ其左右背後ハ  
 司憲ノ裁判管轄ニ屬ス大司憲及ヒ司憲ハ憲兵下士二等軍曹中ヨリ書記一名  
 ナ撰拔シテ補佐官トス司憲ハ從軍ノ許可ヲ得タル貨商、酒保、洗濯人、從僕其他  
 ノ隨行者ノ犯罪ヲ處分シ又胡亂者及ヒ浮浪者ヲ處罰シ補虜ハ將校ノ外ハ之  
 ナ審判シ其管轄區内ニ在テハ人民ニ對スル軍人ノ違警罪ヲ判斷シ其他軍紀  
 ニ關スル犯則六ヶ月以内ノ禁錮二百法以下ノ罰金ヲ以テ處分スヘキ犯罪及  
 ヒ其管區内ニ於ル百五十法以下ノ損害要請ハ皆司憲ニ於テ之ヲ處分ス又司  
 憲裁判所ノ判決ハ控訴スルヲ得ス千八百五十七年五月九日ノ陸軍刑法頒布  
 前ニ於テハ未タ裁判權ヲ制定セサリシカ故ニ司憲ノ職務ヲ帶ヒタル憲兵ハ  
 唯事實ヲ證明シ罪人ヲ其所管ノ判事ニ交附スルニ止リシナリ  
 憲兵ノ各部隊ハ皆是レ國法ヲ實行シ秩序ヲ維持シ人民ノ安寧ヲ保ツヲ以テ  
 其目的トセシニ過キス然レモ更ニ古昔ノ大將裁判所及ヒ憲兵隊ノ職制士官  
 並ニ其重ナル隊長ニ關スル説明ヲ完フセンニハ尙ホ其各隊ノ特性ヲ概略陳  
 述スルヲ以テ必要ナリトス

### 第一章 宮廷ノ勤務

#### 第一款 宮廷ノ司憲裁判所

憲法ニ於テハ  
 憲兵監督官ノ職權ハ千三百二十四年、シャル、ルベールノ勅令ヲ以テ制定セ  
 リ而シテ該監察官ハ皇帝ノ供奉トナリ又犯罪人ヲ探偵シ之ヲ審判シテ刑罰  
 ナ宣告スルヲ以テ職務トセリ  
 陣中ニ於テハ監察官ハ大將裁判所ノ大司憲ノ判決ヲ執行スルヲ以テ職務ト  
 セリ某著者ノ說ニハ宮廷ノ司憲ハ鹵簿監察官ト其時代ヲ同クシ且其位置更  
 ニ上級ナレハ此監察官ノ執行ハ即チ宮廷司憲ノ判決ナリト云ヘリ然レモ是  
 レ大ナル誤解ニシテ大將裁判所ノ大司憲ノ判決ヲ執行セシハ固ヨリ其服從  
 ノ故ヲ以テ然ルニアラス唯其執行ニ由テ自己ノ利益ニ販スヘキモノアルヲ  
 以テナリ又監察官ハ賭博等ノ犯罪ヲ判決スルノ職權ヲ有セリ  
 千四百九十二年ノ勅令ヲ以テ文官ノ裁判官及ヒ武官ノ裁判官ヲ大司憲ニ附  
 屬セシム文官ノ裁判官ハ一種ノ司法官ナリ武官ノ裁判官ハ千五百六十年ノ  
 勅令ニ據レハ警察官及ヒ警吏ト共ニ裁判所及ヒ城郭ノ近傍ニ於テ浮浪者ヲ

拿捕シ風紀ヲ維持シ宮廷ヲ守衛シ其近傍三里以内ヲ巡回シテ路上ノ妨碍物ヲ排除シ又司憲ノ管轄内ニ在テハ犯人ノ糺問ヲ爲スモ之ヲ判決スルヲ得ス豫審ノ調書ハ之ヲ書記ニ交附シ更ニ文官ノ裁判官ニ於テ之ヲ審判セリ又司憲裁判所長ハ始審裁判官ニシテ官廷ニ於テハ陪食ノ特權ヲ有シ民事刑事ノ訴訟ヲ裁判シ朝廷ニ供奉シ十佛里以内ヲ警戒シ商人ニ允許狀ヲ附與シ食品ノ税額ヲ定メリ路易十四世ノ時代ニハ司憲裁判所ニ守衛アリ皇帝歩行ノ時ハ守衛ハ士官ノ指揮ニ屬シサン、スイツス百人ノ編成セル近衛隊ト共ニ徒歩コテ先行シ皇帝騎馬ナレハ唯門外ニ駢列ス且常ニ宮廷内ヲ巡視シ争鬪ヲ制シ暴行者又ハ嫌疑者ハ之ヲ拘引シテ門外ニ追放ス

千六百八十二年一月二十二日ノ裁決ヲ以テ宮廷ノ司憲裁判所ノ權限ヲ定メタリシモ司憲裁判所ト他ノ裁判所トノ權限争ハ尙ホ未タ止マサルヲ以テ更ニ千七百六十二年四月一日ノ裁決ニ因リ各裁判所ノ管轄ニ關スル規則四十九條ヲ設定シ其司憲裁判所ニ屬スル諸官ノ職權服務官名身分特權ハ千七百七十八年三月ヲ以テ更ニ之ヲ制定セリ供奉ノ民事訴訟ハ宮廷ノ司憲ニ於テ

始審裁判ヲナシ其判決ハ上等裁判所ニ控訴ス又供奉ノ途中ニテ生スル違警罪及ヒ重罪ハ終審ノ裁判ヲナシタリ  
行在所ノ地方ヲ警戒シ食物ノ搬送ヲ許可シテ之ニ税ヲ課シ供奉ノ旅館ニ於テ生セシ不正ノ所爲ヲ處分シ其他王侯ノ馬車ヲ監視スルハ宮廷司憲ヲ以テ之ニ任ズ又王室及ヒ其管轄地内鹵簿ノ旅館内皇帝及ヒ皇后附士官ノ居所官房屬吏ノ居所行在所ノ市街ハ普通裁判所ノ所轄ヲ除クノ外ハ凡テ宮廷司憲ノ管轄ニ屬ス而シテ宮廷ニ於テハ陪食ノ特權ヲ有セリ  
宮廷ノ司憲裁判所ハ千七百九十年九月七日及ヒ十一日ノ勅令ヲ以テ之ヲ廢ス而シテ其司憲ノ守衛ハ千七百九十一年五月十五日ニ至リ終ニ之ヲ廢シタルモ其勤務ハ之ヨリ先キ千七百八十九年七月ヲ以テ之ヲ改革シ該守衛ヲ以テ國民議會ノ守衛ニ附屬セリ

千八百十五年一月二十三日ヨリ千八百十七年四月二十七日ニ至ルマテ宮廷司憲ノ守衛ハ宮廷内ノ風紀及ヒ掌璽ノ職ニ任シタリ

## 第二款 巡狩警衛隊及ヒ林務憲兵隊

巡狩ノ警衛隊ハ獵務ニ服シ巴里府ヨリ「コンピエーギユ」フオンテースプロ」  
 其他皇帝ノ巡行地ニ至ル通路ヲ警戒シ巡狩畢レハ巴里府ニ飯リ更ニ巡行ア  
 ルマテハ收税區ノ勤務ヲ分任シ騎士四十八人ヲ分遣シテ之ヲ補佐トシ其餘  
 ノ騎士及ヒ屯伍長ハ「ヴェルサイユ」ノ近傍ニ舍營シテ其周圍ヲ監視シ巴里府  
 收税區ノ屯伍ト全一ノ勤務ニ服セリ巡狩警衛隊ノ拘留セシ囚人ハ其所有セ  
 シ金錢衣類及ヒ口供書ト共ニ之ヲ巴里府ノ收税區憲兵隊ニ交附ス林務屯伍  
 ハ之ヲ都府附近ノ民有森林ニ設置シ其職務ハ巡狩警衛隊ニ全シ且其細則ハ  
 千八百二十年四月二十七日發布ノ撰拔憲兵隊條例ト稍ヤ全シキ所アリ

第三款 撰拔憲兵隊

千八百〇一年ヲ以テ創設セシ撰拔憲兵編隊ハ政府ノ所在地ニ於テ公衆ノ安  
 全ヲ保チ其警察事務ニ在セリ  
 千八百二十年四月二十七日ノ勅令ハ撰拔憲兵ヲ以テ近衛隊司令官ノ指揮ニ  
 屬セシメ專ラ宮城及ヒ官有地ノ監視ニ任シ皇帝巡行ノ時ハ其通路ヲ警衛シ  
 且狩獵掛ノ職務ヲ負擔セシム又皇居警衛ノ爲メ城内ニ哨所ヲ設置シ皇城知

事ノ配下ニ屬セシメ皇帝外出ノ時ニ當リ十五人ノ騎兵ハ侍從長グランドエキエーノ訓令ニ從

テ先驅シ一士官之ヲ指揮シテ通路及ヒ駐在地ヲ警衛ス

其他撰拔憲兵ハ「ヴェルサイユ」セーントクル」フオンテースプロ」コンピエー  
 ギユ」セーノンゾエルマン」ランブリーエ」ノ各地ニ分遣隊ヲ設置ス各分遣隊ハ二  
 等軍曹一名憲兵卒十名ヲ以テ編成シ毎日必要ノ人員ヲ派遣シ知事ノ命ヲ受  
 ケテ其地方ヲ警戒シ其餘ハ公園及ヒ官林ノ監視ニ任シ又獵長ノ訓令ニ從ヒ  
 獵務ニ服シ其狩獵ノ間ハ憲兵十名ノ分屯所ヲ設置シ士官之ヲ指揮シ以テ獵  
 長ニ隸屬ス

皇帝ノ地方巡行ニ際シ近衛隊司令官ノ命令アレハ豫メ其駐在地ニ一支隊ヲ  
 分遣ス

皇族ノ遊獵及ヒ巡行ニ在テモ其職務ハ尙ホ上ニ全シ  
 近衛重騎兵師團長ハ檢閲將官トシテ毎年撰拔憲兵ヲ檢閱ス千八百二十年十  
 月二十九日ノ布告第三百十九條ノ明文ニ據レハ撰拔憲兵ハ其特別服務ノ外  
 憲兵ノ軍紀及ヒ風紀ノ規則ヲ遵守セサルヲ得ス而シテ此規則ハ千八百五十

四年三月一日ニ至リ勅令ヲ以テ更ニ之ヲ制定セリ  
千八百五十二年十二月ヨリ千八百五十四年五月ニ至ル間ニ於テ設置セシ撰  
拔憲兵二大隊ノ服務ハ大ニ上ニ異ナリ皇帝ノ遊獵及ヒ林務ノ如キハ曾テ之  
カ監視ノ任ヲ帶ヒス平常ハ巴里府ニ駐在シテ「チユウヰルリ」及ヒ「エリーゼ  
」ノ宮殿ヲ守衛セリ

#### 第四款 那拿崙三世ノ近衛憲兵隊

徒步憲兵聯隊ハ近衛歩兵聯隊ト同一ノ任務ヲ帶ヒ曾テ「クリメア」ノ役ニ出陣  
セリ又千八百五十九年ノ後ニハ伊國征討軍ノ司憲ニ其新兵ヲ分遣シ或ハ某  
地方ニ於テ臨時ニ憲兵ヲ増加セシ「アリ」  
近衛憲兵大隊ハ其創設ノ當初ヨリ林務憲兵屯伍ニ代テ其職務ニ任マ而シテ  
其職制ハ曾テ撰拔憲兵大隊ノ爲メ定メタルモノニ全シ

#### 第十一章 巴里府内ノ特別勤務

##### 第一款 守夜兵

千三百六十三年三月六日「シユアシ、ル、ボン」ノ勅令ハ更ニ其以前ノ條例ヲ再興  
シ監守ヲシテ夜間巡邏セシメタリ  
千三百六十七年二月查理五世ヨリ巴里府ノ司憲及ヒ監守長ニ布達セシ條例  
ハ徒步兵ヲ以テ夜間斷ヘス巡行セシメ乘馬兵ハ僅カニ其四分一ヲ使役セシ  
ム又徒步ノ警吏ハ日没「セーン、レミ」ヨリ「カレーム」ヲ經テ「シヤトリレ」ニ至  
リ市中ヲ巡邏シ「ノートルダム」ノ寺院ニ於テ消燈時(午後七時)ヲ報スルヤ更  
ニ「シヤトリレ」ニ飯テ十名ノ乘馬兵ニ合ス此時乘馬兵ハ兵器ヲ執リ馬上ニ在  
テ其飯還ヲ待テ此ニ三十人ノ警吏集合シ監守長ノ指揮ニ屬シテ更ニ中夜市  
中ヲ巡邏シテ明旦ニ至ル又此三十人ノ警吏ハ道ヲ「カレーム」ヨリ「セーンレミ  
」ニ取リ午後七時ニ「シヤトリレ」ニ至リ中夜市内ノ各地ニ配置ス  
千五百五十九年五月ノ勅令ヲ以テ守夜兵ヲ二分シ十月ヨリ二月ニ至ル五ケ  
月間其一班ハ午後六時ヨリ十一時マテ巡邏シ他ノ一班ハ午後十一時ヨリ翌  
日午前ノ三時マテ巡邏セリ而シテ三月ヨリ九月マテハ等シク之ヲ二班ニ分  
シテ巡邏ハ二晝夜ヲ以テ交代セリ

千六百三十四年二月十一日國民議會ノ決議ニ由リ監守長ハ夜間六哨所ニ警吏各十二名ヲ派遣シ一士官ヲ以テ其指揮ニ任シ夜半十二時マテ守衛シ十二時后ヨリ巡邏セリ又乘馬警吏十二名ハ一週ニ三回市中ヲ巡行シテ盜賊及ビ暴行者ヲ捕獲ス又千六百四十三年六月ノ布告ニ由リ監守長士官及ビ警吏ハ決闘ノ報知アルヤ其場所巴里府内又ハ其近傍カレバ直チニ出張シテ犯罪人ヲ拘留セリ

千六百六十八年七月九日國民議會ノ決議ニ由リ警察監<sup>リユトナンドボリス</sup>ノ判決及ビ命令ハ守夜兵ノ士官及ビ警吏ニ於テ速カニ之ヲ執行シ若シ之ニ背戻スルモノハ其職務ヲ執行ヲ禁シ之ヲ懲罰ニ附シタリ又千六百四十三年十一月十七日ノ勅令ニ由リ監守長ノ部下ニ於テ捕縛セシ犯罪人ハ監守長ニ其審判ノ討議權ヲ與ヘタリ

千六百六十六年ヨリ千七百六十五年ニ至ルマテハ第三中隊ハ專ラ輸入商品ノ監視ニ任シ千七百六十五年七月十二日ノ勅令ヲ以テシヤートレノ法院ニ晝夜哨兵ヲ配置シ一士官ヲ以テ其長トナシ以テシヤートレノ法官ニ隸屬セ

シ千七百七十一年九月以后ハ守夜兵ヨリ毎日「グランシヤートレ」<sup>リユトナンドボリス</sup>「プチーシヤートレ」ノ法院及ヒ「セーソマルタン」ノ囚獄ニ哨兵ヲ派遣シ「シヤートレ」ノ法官ノ祭典ニ至ルヲ護衛シ又罪人ヲ刑場ニ護送セリ

### 第一款 府廳ノ警吏即チ守衛

府廳ノ警吏即チ守衛ハ吏員ヲ護衛シテ人民ノ儀式場ニ至リ府廳内ヲ守衛シ殊ニ會議ノ時ニ於テ警戒ヲ嚴ニシ吏員ノ命令ヲ執行スルヲ以テ職務トセリ

### 第二款 「シヤートレ」ノ警察中隊

武官<sup>リユトナンドボリス</sup>ノ刑事裁判官ハ警吏二十名ヲ率ヒテ巴里府ノ司憲ニ隸屬シ毎日巴里ノ市中ヲ巡視シ酒店割烹店商店十字街路ニ至リ警吏ヲ指揮シテ浮浪者及ヒ無藉ノ惡徒ヲ捕獲シ犯罪人ハ之ヲ文官ノ刑事裁判ニ交附シテ審判セシム  
千六百四十三年六月ノ布告ニ由リ巴里府「シヤートレ」ノ武官ノ刑事裁判官ニ附屬セル警吏ハ巴里府及ヒ其近傍ニ於テ決闘スルモノアレハ此ニ出張シテ犯罪人ヲ拘留ス又千六百九十一年一月ノ布告ニ由リ警吏ハ裁判所ノ使丁ヲ除クノ外ハ刑事裁判官ノ命令ヲ以テ罪人ヲ捕獲シ其管轄區内ノ訴訟ハ始審

ヲ開クカ爲メニ召喚狀ヲ發シ刑法執行ノ爲メニ要スルキハ司憲ヲ援助ス又  
千七百八十三年七月ノ布告ニ由リ武官ノ刑事裁判官ハ巴里府駐在ノ司憲ヲ  
援助シテ命令狀ノ執行ヲ監視セリ

#### 第四款 貨幣司憲本部

第三王統ノ初ニ當リテ各造幣局ニ貨幣司憲ヲ置キ鑄貨工ヲ檢査シ民事及ヒ  
刑事ノ裁判ヲ擔任セシム其古昔ノ條例ニ據リ制定セシ職制ハ千五百四十八  
年十一月ノ布告ヲ以テ之ヲ廢シ其職務ハ各地ノ司憲一人ヲシテ之ヲ擔當セ  
シメタリ

貨幣司憲本部ノ中隊ハ千六百三十五年ヲ以テ創設シ其職務ハ貨幣ニ關スル  
諸法令ノ實施ヲ監視シ貨幣裁判所ノ屬員ハ巴里府ノ内外ヲ問ハズ之ヲ保護  
シ該裁判所ノ判決及ヒ請求若クハ命令ヲ執行シ而シテ此中隊ノ名譽及ヒ利  
得ニ關シテハ猶大將裁判所ノモノニ同シ士官ハ貨幣裁判所ニ於テ任命シ書  
記使丁及ヒ警吏ハ司憲之ヲ任命シテ誓盟ヲ爲サシム  
司憲總官ハ其部下ノ士官及ヒ警吏ノ懲戒處分ヲ負擔シ公務ニ關シテ司憲ト

屬官ト其見解ヲ異ニスルキハ之ヲ貨幣裁判所ニ上訴シテ其判決ヲ受ク又司  
憲總官ハ其次官又ハ親ヲ豫審セシ訴訟事件ヲ報告スルキ或ハ其召喚ヲ受ク  
ルキ或ハ公務ノ代表者タルキハ貨幣裁判所ニ臨場シテ末席議員ノ次席ニ就  
キ會議ニ列スルヲ得ルト雖モ討論ノ權ヲ有セズ

貨幣司憲總官及ヒ司憲裁判所ノ士官ハ贋金貨幣ノ鑄切又ハ變造及ヒ不通貨  
幣ノ密商ニ關スル犯罪シエテライヒトフアンシヤルハ地方將官シエトシユカルド 守衛判事 其他造幣局ノ士官陸軍司憲  
及ヒ裁判官ト協議シテ巴里市内ト雖モ其罪人ヲ糾問シ確定ノ判決アルマデ  
ハ其豫審及ヒ必要ナル訴訟手續ヲナスモ其拘留セシモノハ解放ヲ命ズルコ  
トナシ又其豫審及ヒ訴訟手續ハ之ヲ貨幣裁判所ニ交附シ其巴里市内ノ貨幣裁  
判所及ヒ司憲ニ於テ豫審セシモノハ確定ノ裁判ヲナシ市街ノ豫審ニ係ルモ  
ノハ最近ノ終審裁判所ニ送附ス又巴里府貨幣裁判所ノ所轄内ハ其暴行犯罪  
及ヒ越權ニ關スル事件ヲ審判シ金銀ノ混合溶解製造品ノ刻印其他凡テ犯罪  
ノ事件ニ就テハ家宅ノ搜索ヲ行フ但巴里府内ニ住居セルモノハ裁判所ノ許  
可ナクシテ濫リニ家宅ヲ搜索スルヲ得ズ越權暴行犯罪ハ其確定裁判ノ言渡

アルマデハ之ヲ審判スルヲ得ベキモ造幣局部内ニ於ケル鑄貨工及ビ士官ノ越權暴行犯罪及ビ窃盜ハ之ヲ審判スルヲ得ズ然レモ司憲裁判權ニ關スル事件ハ千六百八十五年二月六日ノ決議以來巴里及ビ「スールトフランス」州ヲ除クノ外ハ陸軍司憲ニ協議シテ之ヲ審判スルヲ得タリ又千六百五十一年九月七日發布ノ職務章程(千六百七十九年八月十六日ノ布告ヲ以テ確定ス)ノ規則ニ據レハ尙ホ決闘ヲ審判スルノ權アリ又貨幣司憲總官ノ職權ニ關シテ訟争ヲ起スルハ貨幣裁判所ニ於テ之ヲ判決セリ

千七百〇一年ヨリ千七百七十一年ニ至ルマテハ凡テ「リヨン」府ノ裁判管轄内ニ於テ拘留セシ違警罪ニ對シ該地ノ貨幣司憲總官之ヲ豫審セシキハ其訴訟事件ハ全府ノ貨幣裁判所ニ移シテ其判決ヲ受ケシム若シ裁判管轄外ナレハ最近ノ終審裁判所ニ於テ豫審判決スヘキモノト定メタリ千七百〇四年ニ於テ「リヨン」「ドーフ」并チ「プロヴァンス」「チーヴェルヌ」「ツールーズ」「モンペリエ」「モントーバン」及ビ「ペーリヨンス」ノ州郡及ヒ管區チ「リヨン」府ノ貨幣裁判管轄内ニ編入セリ千七百〇五年十月ノ布告ハ更ニ「ブレッツス」「ピユウエイ」「ヴァルロメイ」

及ビ「サエ」ノ郡縣チ之ニ加ヘ其裁判管轄内ノ造幣局ハ「リヨン」「グルノーブル」「エーリヨム」「ツールーズ」「モンペリエ」「ペーリヨンス」及ビ「ベルヒニヤン」ノ八ヶ所トス又千七百三十一年八月ノ布告ハ貨幣裁判所長チシテ毎年司憲總官ノ警吏チ檢閲セシム

### 第五款 巴里府ノ衛兵

巴里府ノ衛兵ハ市街ノ警察ヲ監視シ府民ノ秩序ヲ維持スルヲ以テ職務トシ歩騎二兵チ以テ之ヲ編成セシ以來其勤務チ左ノ如ク制定セリ

騎兵ハ斷ヘス其四分一チ派出シテ警察ニ從事セシメ十二時間チ以テ交代ス上番騎兵ノ四分一ハ更ニ之ヲ二分シ其一班ハ斷ヘス乘馬ニテ市中チ巡察シ他ノ一班ハ各屯所ニ在テ休憩ス又其守則ハ專ラ社會ノ治安ニ注意シ府民ノ請求ニ應シテ出張シ違警罪ヲ所管裁判所ニ護送シ裁判官ノ命ニ從テ犯罪人チ逮捕シ火災アレハ速カニ出張シテ消防ノ處置ヲ施シ秩序ヲ整復スルニアリ又巡察士官一名チ置キ晝夜其勤怠ヲ視察セシム  
歩兵ハ其半數チ派出シ二十四時間チ以テ交代ス上番ノ歩兵ハ數ヶ所ニ隊伍



ヲ編成シテ屯在シ各隊ヨリハ二時間毎ニ巡邏ヲ發遣シテ市街橋梁及堡壘内  
ヲ監察シ其他演劇場滑稽ノ戲場舞蹈會等ニ臨場シテ警察事務ヲ負擔セリ以  
上ノ警察事務ニ就テハ人民ヨリ其給料ヲ徵收セリ又士官下副官及ヒ給養掛  
下士ハ各二名ツ、晝夜巡回シテ部下ノ勤怠ヲ視察セリ  
副官ハ隊長ヲ代理シ副官補ハ守衛ヲ檢査シ警察上必要ナリト思料スル場所  
ニ出張セリ

千八百十四五年ヨリ千八百十六年一月十日ノ布告實施ノ時マテハ巴里府ノ  
衛兵ハ全所ノ憲兵隊ト其職制ヲ全クセリ  
千八百五十二年ヨリ千八百七十年ニ至ルマテハ巴里府ノ衛兵及ヒ全所ノ憲  
兵隊ハ專ラ警視總監ノ指揮ニ屬シテ都下ノ監察ニ任シ衛兵附士官ノ補缺又  
ハ諸官ノ任命ハ之ヲ內務大臣ニ協議シテ其同意ヲ求ム又衛兵ハ憲兵隊ノ一  
部ヲオスヲ以テ其風紀及ヒ軍紀ハ憲兵隊ノ爲メニ制定セシ規則ヲ遵奉セリ  
第六款 島港及ヒ卸貨場ノ守衛  
其職制ハ千八百六十六年ヨリ千七百六十五年ニ至ルマテノ守夜兵第三中隊

ニ全シ

### 第七款 癲狂醫院及ヒ硝石製造所ノ守衛

此守衛ノ服務ハ猶ホ裁判所ノ憲兵隊ニ全シ但癲狂醫院及ヒ硝石製造所ノ爲  
メニ之ヲ特設ス

### 第八款 裁判所ノ憲兵隊

裁判所ノ憲兵隊ハ巴里府ノ裁判所及ヒ囚獄ノ監守ニ任シ其職務ハ古昔シヤ  
トトシテ短袍守衛隊ノ解隊ニ際シ從事セシモノト稍ヤ相類似セリ又千七百  
九十三年三月十四日ノ布告ニ由リ更ニ大審院ノ監守ヲ兼任シ同年六月二十  
五日及ヒ二十八日ノ國民議會ノ布告ニ由リ該憲兵隊ヨリ士官一名憲兵卒二  
名ヲ派出シテ印璽ノ監守ニ任ス共和曆第三年四月(千七百九十五年一月六日)  
ノ布告ニ於テハ千七百九十一年十月十二日ノ法令ヲ再興シテ輕罪未決監ノ  
近傍ニ兵營ヲ設置セシム又裁判所ノ憲兵ハ一般ノ憲兵隊ニ關スル諸規則中  
其職務ニ矛盾セサルモノハ之ヲ適用シ裁判所ノ憲兵隊ヲ解隊セシキハ巴里  
府ノ護國兵及ヒ師團兵ヲ以テ一時其職務ニ任シタリ

第九款

憲兵隊ノ撰拔兵即テ撰拔憲兵

撰拔憲兵隊ハ千七百八十九年七月以後貨幣司憲ニ於テ盡セシ職務ヲ繼續シ  
 國民議會及ヒ立法議院ニ在テ護國兵ト協同シ代議士院ノ門戶及ヒ通路ヲ監  
 視シ治安ニ注意シ官吏ニ對スル暴行及ヒ違法ノ所爲ハ兵力ヲ以テ之ヲ制止  
 スルノ權アリ又士官下士各一名及ヒ憲兵卒四名ハ大統領又ハ布告書携帶ノ  
 吏員ニ隨行シ時宜ニヨリ代議士ニシテ公衆ノ儀式場ニ臨ムモノアレハ撰拔  
 憲兵ノ全隊若クハ其一部隊之ニ先行シ或ハ之ニ隨行シ又士官一名憲兵卒二  
 名ハ常ニ司法大臣ニ隨從シテ印璽ヲ護衛ス以上ノ勤務ハ千七百九十三年三  
 月十四日ノ國民議會ノ布告ヲ以テ之ヲ乘馬憲兵隊ニ委任シ更ニ全年六月二  
 十五日及ヒ二十八日ノ布告ニ由リ裁判所ノ憲兵ヲ以テ此職務ニ任シタリ撰  
 拔憲兵ノ高等法院及ヒ大審院ニ在テ盡セシ職務ハ即チ裁判所ノ憲兵カ巴里  
 府ノ裁判所ニ於テ盡セシ所ニ異ナラス而シテ其大審院ニ於ル勤務ハ千七百  
 九十三年三月十四日ノ布告ヲ以テ之ヲ廢シ更ニ裁判所ノ憲兵ヲ以テ之ニ任  
 シ正規ノ手順ヲ經テ出張ノ請求ヲナスモノハ之ニ應ジテ救援ヲ與ヘタリ

千七百九十一年九月二十九日及ヒ十一月二日ノ國民議會ノ布告ニ由リ護國  
 兵師團兵及ヒ憲兵ハ國民議會ニ在テ其勤務ヲ盡ス并ハ各屯所ハ假令ヘ其位  
 置ヲ異ニスルモ其服務時限内ハ護國兵司令官ノ指揮ニ屬セリ  
 千七百九十二年九月十一日及ヒ十四日ノ布告ヲ以テ憲兵ノ職制中ニ公書類  
 ノ監守ヲ加ヘ共和曆第三年七月二十三日ノ布告ヲ以テ其屯營ヲ代議士院ノ  
 近傍ニ建設セシム

第十款 巴里府ノ憲兵屯伍

巴里府ノ警察事務ハ會テ治安警察ノ爲メニ逐次設置セシ諸隊ト同一ノ基礎  
 ナリ以テ編成シ又巴里府近傍ノ後備軍ニ關スル取締ノ方法ハ會テ憲兵ノ爲メ  
 ニ制定セシ規則ニ準據ス千七百九十三年三月ヨリ九月マテハ乘馬憲兵ヨリ  
 士官一名憲兵卒二名ヲ派遣シテ印璽ヲ護衛セシカ前年六月二十五日及ヒ二  
 十八日ヲ以テ發シタル布告ヲ實施シ終ニ以上ノ護衛勤務ヲ廢シタリ

第十一款 一般警察編隊

此編隊ノ職制ハ港ノ守兵癡狂醫院及ヒ硝石製造所ノ監守裁判所ノ憲兵ニ於

テ會テ負擔セシ勤務ニ全シク又都府ノ治安ニ關シテハ巴里府ノ憲兵屯伍ノ勤務ニ全シ

第十二款 巴里府ノ守兵

カレドニエニシバール

巴里府ノ守兵ハ共和曆第十一年一月十二日ニ創設シ尋常警察事務ノ外公民ノ舞蹈及演戲ノ取締ニ任シ市民ノ家宅ニ於テ舞蹈亦ハ祭典ヲ舉行スルキハ其請求ニ應シテ之ニ出張セリ又郭外ハ晝夜共ニ巡行シテ公衆ノ安全ヲ保チ密輸出入ヲ制止ス諸官應ヨリ正當ノ件ニ因リ警察官ノ出張ヲ請求スルトキハ速カニ之ニ應シ請求者ハ直チニ其旨ヲ筆記シテ之ヲ警視總監及ヒ憲兵司令官ニ通知スルヲ要セリ

千八百三十年ノ守兵モ亦都下ノ警察及ヒ監守ノ勤務ヲ繼續シ其方法ハ概テ上ニ同シ故ニ此守兵ハ内務省ニ屬シテ警視總監ニ直隸セリ

第十三款 巴里府ノ帝國憲兵

帝國憲兵ノ職制ハ千八百十六年一月十日ノ布告ヲ以テ千八百十三年四月十日發布ノ規則ヲ再興シ爾后數年ヲ經テ之ヲ巴里府ノ王國憲兵ニ委付シ帝國

憲兵ハ憲兵隊ノ風紀及ヒ軍紀ニ關スル條例及ヒ法令ヲ遵守セリ

第十四款 巴里府ノ王國憲兵

王國憲兵ハ警視總監ノ館邸警視廳其他大演戲場ノ勤務ニ服シ市場公衆ノ舞蹈演戲場ニ出張シ其演戲場ニ在テハ下士及ヒ憲兵卒ハ文官ノ職務ヲ盡シ巴里府ノ衛戍兵ハ其請求ニ應シテ之ニ助力ヲ與ヘリ

大佐ハ毎日巴里府師團本部ニ一士官ヲ派遣シ其警視總監ヨリ受領セシ哨令ヲ第一師管司令將官ニ通知セリ又非常集合ノ時ハ第一師管司令將官ノ指揮ニ屬シ以テ警視總監ノ請求ニ應セリ

凡テ憲兵隊ノ風紀及ヒ軍紀ニ關スル諸條例及ビ法令ハ巴里府ノ王國憲兵ニモ亦之ヲ適用セリ

第十五款 共和政府ノ憲兵

此憲兵隊ハ内務大臣ノ管轄ニ屬シ警視總監ニ直隸シテ巴里府ノ守兵及ヒ王國憲兵ノ職務ヲ繼續セリ

第三章 地方及ヒ軍隊ノ勤務

第一款 元帥裁判所ノ中隊

此中隊ハ專ラ元帥裁判所及ヒ大將裁判所ニ屬シテ其勤務ニ服セリ  
千六百四十三年六月ノ布告ハ元帥裁判所及ヒ大將裁判所ノ司憲士官及ビ守  
兵ヲシテ巴里府又ハ府外近傍ニ於テ決闘セシモノヲ拘留セシム又千六百五  
十一年九月七日ノ布告ハ其士官ニ決闘ノ事實ヲ審判スルノ權ヲ與ヘタリ

第二款 「イール、ド、フランス」州ノ大將裁判所

ノ中隊

此中隊ハ巴里府ノ國務大臣ニ直隸シ府内及ビ府外ニ於ル職務ハ内地各所ノ  
大將裁判所ノ中隊ニ全シ但都府及ビ其近傍ニ關スル條例中例外ノ職務ハ之  
ヲ除ク

千六百二十二年三月三十一日上等裁判所ノ判決ニ因リ「イール」ノ司憲及ビ其  
次官ニハ千六百十一年十二月二十日ノ決議ニ準據シ府内及ビ府外ニ於テ地  
方人民ノ所爲ニ係ル犯罪又ハ府民ノ犯罪ト雖モ其事件司憲ノ裁判管轄ニ屬  
シ且府外ニ於テ拘留セシモノハ之ヲ審判セシメタリ又千六百四十三年六月

ノ布告ニ由リ司憲及ヒ警吏ハ府内及ヒ近傍ニ於テ決闘セシモノヲ拘留シ而  
シテ千六百五十一年九月七日ノ布告ハ之ニ決闘事件ノ裁判權ヲ與ヘタリ

第三款 諸縣及ヒ收稅區ノ大將裁判所ノ中隊

千二百二十一年ニ於テハ大將裁判所ノ管轄ハ軍隊内ノ犯罪ヲ探偵シテ之ヲ  
處分セシニ過キス今其管轄ノ漸次擴張セシ所以ヲ知ルニハ其重ナル條例ヲ  
閱讀スルヲ以テ足レリトス

千三百五十六年佛王「ジュアン」勅令ヲ發シ凡テ敵軍ニ逃投スルモノ又ハ其所  
屬隊長ノ許可ナクシテ戰地ヲ離ル、モノ及ヒ反背者叛逆人間諜探索ハ元帥  
大將及ヒ其次官之ヲ審判セリ

千三百七十三年六月二十二日查理五世ノ勅令ヲ以テ大將裁判所ノ使丁ニ於  
テ召喚狀ヲ發スルヲ禁シ且地方ヨリ巴里府ニ出廷セシムル爲メ大將次官司  
憲及ヒ士官ヨリノ召喚狀ハ其地方ノ町奉行ノ裁判所地方長官ノ「裁判所及ヒ  
司憲裁判所」尋常使丁ヲシテ之ヲ製セシムルヲ布達セリ是レ大將裁判所  
ノ使丁ハ從來他ノ使丁ヨリモ一層多額ノ謝禮ヲ貪リ或ハ其召喚狀ヲ召喚ノ